

東ティモール民主共和国
国産米の生産強化による
農家世帯所得向上プロジェクト
中間レビュー調査報告書

2019年5月

独立行政法人
国際協力機構（JICA）
農村開発部

農村
JR
19-017

東ティモール民主共和国
国産米の生産強化による
農家世帯所得向上プロジェクト
中間レビュー調査報告書

2019年5月

独立行政法人
国際協力機構（JICA）
農村開発部

序 文

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、東ティモール民主共和国政府との討議議事録（Record of Discussions : R/D）に基づき、技術協力プロジェクト「国産米の生産強化による農家世帯所得向上プロジェクト」を2016年9月から5年間の計画で実施しています。

プロジェクトの中間時点である2019年3月5日から3月28日までの間、日本国及び東ティモール民主共和国側での合同評価を通じて、協力期間中間時点における活動の実績の確認と評価及び残り期間に向けての課題の抽出と提言を行うことを目的として、JICA 農村開発部長宍戸健一を団長とする中間レビュー調査団を現地に派遣しました。

本報告書は、これらの中間レビュー調査団による現地調査や協議の内容・結果をまとめたものであり、今後のプロジェクト運営に広く活用されることを願うものです。

最後に、調査の実施にあたりご協力を頂いた内外の関係者の方々に深い感謝の意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第です。

2019年5月

独立行政法人国際協力機構

農村開発部長 宍戸 健一

目 次

序 文
目 次
地 図
写 真
略語表

評価調査結果要約表（和文・英文）

第1章 中間レビュー調査の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成と調査日程	2
1-3 主要面談者	2
1-4 プロジェクトの概要	3
第2章 評価の方法	5
2-1 評価設問と必要なデータ・評価指標	5
2-2 データ収集・分析方法	6
2-3 評価の制約	6
第3章 プロジェクトの実績と実施プロセス	7
3-1 投入実績	7
3-2 活動実績	8
3-3 成果の達成状況	12
3-4 プロジェクト目標の達成見込み	18
3-5 実施プロセス	19
3-5-1 プロジェクトの実施体制	19
3-5-2 プロジェクトの運営状況	20
3-5-3 プロジェクトの効果発現に対する貢献要因及び阻害要因	21
第4章 評価5項目による評価結果	24
4-1 妥当性	24
4-2 有効性	28
4-3 効率性	28
4-4 インパクト	29
4-5 持続性	29
4-6 結 論	30

第5章 提言と教訓	32
5-1 提言	32
5-2 教訓	34

付属資料

1. 中間レビュー調査日程	37
2. 中間レビュー調査団ミニッツ	38
3. JCC ミニッツ	59
4. 評価グリッド	130

地 図



Base 802930 (C00473) 2-03

出典 : Central Intelligence Agency Maps

プロジェクト対象地域

- 成果 1: マリアナ I 灌漑スキーム、ブルト灌漑スキーム及びその周辺地域 (●)
- 成果 2: マリアナ I 灌漑スキーム及びブルト灌漑スキーム (●)
- 成果 3: デイリ県、ボボナロ県及びバウカウ県 (●)
- 成果 4: コメ備蓄倉庫 (デイリ、ティバール) (●)

写真 真



ディリ市内のスーパーマーケットで販売されているコメ（シンガポールから輸入されたインド産バスマティ米）



ディリ市内のスーパーマーケットで販売されている国産米の赤米と黒米

NAME	PRICE (SACK)
BERAS WANGI 15 KG	\$ 13.00
ROYAL THAI 5 KG (SACK)	\$ 9.00
GOLDEN THAI 5 KG (SACK)	\$ 9.30
GLUTINOUS RICE 25 KG	\$ 34.00
MALIKA BASMATI RICE 25 KG	\$ 53.50
PONNI RICE 25 KG	\$ 25.60
BERAS HARUM 10 KG	\$ 9.00
BERAS HARUM 20 KG	\$ 15.85
SUPER HARUM PREM JASM 15KG	\$ 12.50
ROYAL THAI 15 KG	\$ 23.00
IDLY PONNI RICE 25 KG	\$ 29.20
GOLDEN THAI 15 KG	\$ 24.00
FOS MORIN 15KG	\$ 12.00

ディリ市内のスーパーマーケットで販売されているコメの価格表



ボボナロ県マリアナのローカルマーケットで販売されているローカル産の穀物（白米、赤米、黒米、トウモロコシ）



ブルト灌漑地区のコメ圃場（直線植えが実践されている）



ブルト灌漑地区のコメ圃場（栽培開始時期が早かったため稲穂が実り、間もなく収穫時期を迎える）



ブルト灌漑施設のメイン開閉門



ブルト灌漑施設の支線水路
(雨期で水量が多い)



ブルト灌漑施設の支線水路から圃場に
取水している様子



マリアナ I 灌漑施設 (右側のゲートは雨期の豪雨
で土砂がたまり、開閉門を閉じている)



チャクブ組合の倉庫 (MAF の Agriculture Center
の建物を無償で貸与されている)



チャクブ組合で使用されている精米機
(機材が古く、精米率が低い)



コメ加工品製造のためプロジェクトにより導入さ
れた米粉製粉機 (チャクブ組合に設置)



チャクブ組合で精米後に出るもみ殻を燃やして炭
化 (炭化後のもみ殻は有機肥料として利用予定)



アセルダ社の倉庫に保管されているもみ



アセルダ社で使用されている精米機



ディリのベボラ備蓄倉庫内に保管されている
2017年産国産米のもみ



ティバール備蓄倉庫内に保管されている 2015年産
国産米の精米（人道支援プログラム提供用）



MAF 大臣、総局長とのミニッツ署名

略 語 表

IRCS	Improved Rice Cropping System	改良稲作システム
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
MAF	Ministry of Agriculture and Fisheries	農業水産省
MTCI	Ministry of Tourism, Commerce and Industry	観光商工省
M/M	Minutes of Meeting	協議議事録
NLC	National Logistic Center	国家流通センター
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
O&M	Operation and Maintenance	運営・維持管理
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト計画表
PO	Plan of Operation	活動計画表
SDGs	Sustainable Development Goals	持続可能な開発目標
SDP	Timor-Leste Strategic Development Plan	東ティモール戦略的開発計画

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：東ティモール民主共和国	案件名：国産米の生産強化による農家世帯所得向上プロジェクト
分野：農業開発（コメ振興）	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：農村開発部 農業・農村開発第一グループ 第一チーム	協力金額（中間レビュー時点）：約3億7,000万円
	先方実施機関：農業水産省（Ministry of Agriculture and Fisheries：MAF）、観光商工省（Ministry of Tourism, Commerce and Industry：MTCI）・国家流通センター（National Logistic Center：NLC）
協力期間： （R/D 締結）2016年5月8日 2016年9月～2021年9月	日本側協力機関：なし
	他の関連協力：技術協力「マナツト県灌漑稲作プロジェクト」（2005年～2010年）、「マナツト県灌漑稲作プロジェクトフェーズ2」（2010年～2015年）
	無償資金協力「ブルト灌漑施設改修計画」（2017年2月）
1-1 協力の背景	
<p>東ティモール民主共和国（以下、「東ティモール」という）において、農業は非石油輸出額の約80%を占め、就業人口の約65%が従事する重要な基幹産業である。現在は、石油や天然ガス等の資源収入がGDPの約80%を占める一方、これらの天然資源は近い将来、枯渇する可能性があるとしており、資源産業に過度に依存する東ティモールにおいては、農業を基盤とした産業の育成を進めていくことが重要な課題となっている。</p> <p>こうしたなか、東ティモール政府は、2030年までの国づくりの基本となる「戦略的開発計画（Timor-Leste Strategic Development Plan：SDP）」を策定し、農業セクターを重点開発分野の一つと位置づけている。同計画では、開発目標として営農技術の向上や食料生産の増加、主食であるコメの自給率向上等を掲げ、2020年までの食料自給達成を目標としている。しかしながら2013年におけるコメの自給率は約35%であり、国内のコメ消費量の約65%を輸入米が占めている。輸入米の流入量は年々増加を続けており、食料自給率向上に向けたコメの生産増加が急務となっている。</p> <p>しかし、コメ増産をめざすうえでコメ生産農家の営農意欲低下が大きな課題となっている。コメ生産による現金収入が極めて少ないことから、農家は営農技術の改善に積極的な意義を見いだせず、粗放的栽培が改善されない現状にある。さらに、既存農家の耕作放棄や若年層の都市流出も進行しており、国内のコメの作付面積は2008年（4万6,000ha）をピークにその後減少を続けている。</p> <p>コメ生産による現金収入の低迷の原因として、極めて低いコメの生産性（3.35 t/ha）及びコメ販売経路の未整備が指摘されている。すなわち、①投入資材（優良種子、肥料等）や栽培技術の不足、②灌漑施設の不適切な管理による取水不足、③国産米市場販売流通網の未整備、④政府による国産米買い取り制度の未整備が課題となっており、かかる状況がコメの生産性低下/低迷、国産米の流通停滞を招き、コメ生産による農家所得低迷の原因となっている。東ティモールの食料自給向上のためには、コメの生産・加工・流通・販売のプロセスを一貫して機能させ、コメ生産を通じた農民の適切な収入を実現することにより、農家のコメ生産に対する意欲を向上させていくことが必要である。</p>	

上記にかんがみ、本事業では、同国の農業全般を担う MAF と国産米の買い取り制度を実施する MTCI を対象に、①選定地域コメ生産農家の営農技術の改善、②灌漑施設維持管理能力の強化、③国産米流通・販売モデルの構築、④政府による国産米買い取り/配布システムの改善に取り組み、コメのバリューチェーンの改善を通じてコメ生産による農家世帯所得の向上を図ることを目的とした。

1-2 協力内容

本プロジェクトでは、コメのバリューチェーンの各工程（生産、加工、流通、販売・消費）を改善させることにより、プロジェクト対象地域における農家世帯のコメの販売収入を増加させることを目的とし、将来的に、プロジェクト対象地域を含む対象 3 県における農家世帯の生計向上を図ることをめざしている。

(1) スーパーゴール

コメの生産向上による収入増加を通じて、東ティモールの農家世帯の生計が向上する。

(2) 上位目標

コメの生産向上による収入増加を通じて、プロジェクト対象地域の農家世帯の生計が向上する。

(3) プロジェクト目標

コメのバリューチェーン（生産、製造・加工、流通、販売・消費）の改善を通じて、プロジェクト対象地域の農家世帯のコメ生産による収入が増加する。

(4) 成果（アウトプット）

1. プロジェクト対象地域において、コメ増産に向けた栽培技術が向上する。
2. 灌漑施設の維持管理能力が強化される。
3. コメのブランド化を通じ、国産米の流通・販売システムが構築される。
4. 政府のコメ買い取り・配布システムが改善される。
5. MAF 主導の下、本プロジェクトの活動が南部地域などの他県関係者に共有される。

(5) 投入（評価時点）

【日本側】総投入額 約 3.7 億円

専門家派遣：長期 計 5 名、短期 計 8 名

研修員受入れ：3 名（本邦研修）

機材供与：車両、脱穀機等 計 30 万 5,725 米ドル（USD）（約 3,400 万円）

ローカルコスト負担：計 89 万 147 USD（約 9,900 万円）

【東ティモール側】

カウンターパート配置：計 16 名

施設提供：プロジェクト事務所（ディリ、ブルト、マリアナ）、事務所設備等

ローカルコスト負担：計 2,400 USD

2. 評価調査団の概要			
調査者	【日本側】		
	宍戸 健一（団長/総括）	JICA 農村開発部 部長	
	仲田 俊一（農業政策）	JICA 国際協力専門員	
	瀬川 俊治（協力企画）	JICA 農村開発部 農業・農村開発第一グループ 第一チーム	
	長谷川 さわ（評価分析）	OPMAC 株式会社 事業部 上席コンサルタント	
	【東ティモール側】		
	Mr. Belsior Nunes Cardoso	MTCI NLC アドバイザー	
	Ms. Carla Maria Jose da Cruz	MAF 計画オフィサー	
調査期間	2019年3月5日～2019年3月28日	調査種類	中間レビュー
3. 評価結果の概要			
3-1 実績の確認			
(1) 成果の達成状況			
<u>成果1の達成状況</u>			
<p>成果1の活動を通じて農家・地方自治体を含む関係者の共同関係が促進され、プロジェクト対象地域であるブルト及びマリアナ I 灌漑地区の対象農家の 20%以上が提案する栽培カレンダーに従うこととなった。ただし、中間レビュー時点では、栽培暦正常化のためにあえて 2018 年度の二期作目の実施を推奨しなかったことから生産量が若干減少しており（2017年：4,782t、2018年：4,418t）、また改良稲作システムの研修は実施されていないことから、現行プロジェクト計画表（Project Design Matrix：PDM）の二つの指標〔1-1. プロジェクト対象地域におけるコメ生産量の 80%増加、1-2. 改良稲作システム（Improved Rice Cropping System：IRCS）研修参加者の 80%が研修内容の 80%を理解〕の結果を基に判断すると、達成レベルは低いといえる。しかしながら、成果1の活動を実施するアプローチが、選ばれた農家への技術指導を中心とする当初の計画から、対象地域全体の栽培暦や水利用といった稲作に必要な協力体制を構築する方針に大幅に変更されたため、現行の設定指標で成果1の達成を判断することは適切でない。したがって、成果1の達成は変更アプローチに基づいて改訂された、栽培暦の浸透度合いや二期作の実施率といった指標により判断することが提案される。</p>			
<u>成果2の達成状況</u>			
<p>成果2の活動を通じ、ブルト灌漑地区において地方自治体リーダーの主導の下、灌漑水の共同管理に関する話し合いの場がもたれ、農家による水路の掃除といった共同作業も始まりつつある。ただし、現時点では共同作業が1年継続されているとはいえず、また灌漑維持管理研修は実施されていないため、成果2の中間レビュー時点では、現行の二つの指標（2-1. 主要灌漑施設における土砂堆積物を除くための共同作業の輪番制構築及び水利組合の少なくとも1年の継続運営、2-2. 維持管理研修参加者の 80%が研修内容の 80%を理解）の結果を基に判断すると、達成レベルは低いといえる。しかしながら、二つの設定指標のデータが実質的に得られていないため、成果2の達成レベルを判断することは困難である。成果1同様、成果2の活動を実施するアプローチも当初の計画から大幅に変更されたため、現行指標で成果2の達成を判断することは適切</p>			

でなく、成果 2 の達成も変更アプローチに基づいて改訂された指標により判断することが提案される。

成果 3 の達成状況

成果 3 の活動を通じ、国産米の販売チャネルはアセルダ社とチャクブ組合との協力により安定的に増えており、ホテルやレストラン、他のチャネルを通じた国産米の販売促進活動は農家の収入向上にある程度貢献している。このように順調に実施されているにもかかわらず、成果 3 の中間レビュー時点での達成レベルは、現行の二つの指標〔3-1. プロジェクトによりブランド化された国産米の精米 3,000 t（もみ 5,000 t）の販売、3-2. 農家組合マネジメント研修、マーケティング研修、精米・加工・梱包研修の各研修参加者の 80%が研修内容の 80%を理解〕の結果を基に判断すると低いといえる。成果 3 に設定されている現行指標は、プロジェクト対象地域における現在の国産米の需要量及びチャクブ組合とアセルダ社の事業規模を踏まえると、達成を判断する指標として適切ではないため、成果 3 の達成も改訂した指標により判断することが提案される。

成果 4 の達成状況

成果 4 の活動としてコメの備蓄管理における 5S 研修が実施され、中間レビュー時点における成果 4 の達成レベルは、現行の二つの指標〔4-1. 家畜飼養の割合が 50%以下に減少、4-2. コメの備蓄管理における 5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）研修参加者の 80%が研修内容の 80%を理解〕の結果を基に判断すると、事業終了までには達成が見込まれる。だが、成果 4 の達成についても、指標 4-1 は達成を判断する指標として適切でなく改訂することが望ましいため、改訂した指標によって判断することが提案される。

成果 5 の達成状況

成果 5 の活動は、他の成果がある程度達成されたあとに実施される予定のため、成果 5 の達成状況は活動の実施後に判断する必要がある。

(2) プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標の指標（ブルト及びマリアナ I 灌漑地区における農家世帯の平均年間収入の 50%増加）の現時点での結果は、対象農家における 2018 年のコメの平均年間販売収入は 2017 年に比べて 10%減少しており、中間レビュー時点におけるプロジェクト目標の達成レベルは低いといえる。ただし、プロジェクトの構造として、成果 1 及び成果 2 を通じてコメの生産量増加が達成されたとしても、成果 3 及び成果 4 によりコメの販売量増加が達成されなければ農家はコメの販売収入を増加させることはできない。よって、プロジェクト終了までに対象地域の農家によるコメの販売量が増えない限り、プロジェクト目標を達成することは難しいといえる。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性（やや低い）

- ・東ティモールの国家開発計画「戦略開発計画 (SDP)」(2011-2030)、農業セクター開発計画「MAF 戦略計画」(2014-2020) における優先課題である国産米振興と整合している。

- ・日本の「対東ティモール民主共和国 国別開発協力方針」（農林水産資源を含む産業分野の支援を通じた産業の多様化に資する支援）と整合している。
- ・東ティモール政府は国産米振興及び自給を政策の優先課題として挙げている一方、現状において、東ティモール政府により国産米振興・保護に係る政策を実現させるための具体的・実質的な措置はとられておらず、政府が過渡的措置として国産米と輸入米の競争格差を埋めるようコメ市場に介入しなければ現行の輸入米優位の状態を覆すことは非常に難しい。これはプロジェクトの及ぶ影響を超えた外部条件といえる。
- ・東ティモール政府による国産米の流通・販売システムを構築・強化させるニーズは非常に高いのになら、農家にとってはコメ収入が全体の収入に占める割合が低く、コメの生産を増加させるニーズは低い。
- ・プロジェクトのデザインはプロジェクト目標の達成に向けて必要な要素で構成されており妥当であるが、当初の特定の農家を対象とした研修中心のアプローチは地域全体の稲作実施体制を改善するうえでは効果的でなかったため、プロジェクト開始後に「農家対話」アプローチに変更された。

(2) 有効性（中間レビュー時点では判断不能）

- ・プロジェクトはたとえ成果1及び成果2を通じてコメの生産量増加を達成したとしても、成果3及び成果4の達成がなければ農家のコメの販売収入を増加させることは難しい。
- ・成果3の活動は順調に進んでいるものの、東ティモールにおいて比較的高価な国産米の潜在市場規模は、現状では依然として非常に限定的であるため、政府が過渡的措置として国産米と輸入米の競争力の格差を埋めるような効果的な政策をとらなければ、増産させたコメのすべてを成果3及び成果4の活動を通じて吸収することができなくなる。だが、このような政策措置はプロジェクトで扱える範囲を超え、外部条件だといえる。
- ・よって、プロジェクトは非常に厳しい前提条件の下で実施されており、東ティモール政府が国産米振興に係る政策を実現させるための措置をとらなければ、コメのバリューチェーン強化を通じて農家のコメの販売収入を増やすというプロジェクト目標を達成することは難しい。したがって、プロジェクト目標を達成するためには、東ティモール政府による国産米振興における長期戦略の策定及び明確な政策措置の実施が必要不可欠である。
- ・プロジェクト活動によってコメの生産に必要な共同作業体制の構築、民間による販売市場の拡大が着実に進められており、東ティモール政府による国産米振興の政策措置が実施されれば、プロジェクト目標の達成の見込みは高い。

(3) 効率性（中間レビュー時点では判断不能）

- ・成果1及び成果2のアウトプットはプロジェクトの後半期間で明確な形となって現れることが見込まれるため、プロジェクトの効率性は現時点で判断するのではなく、残りの期間で産出されたアウトプットの達成レベルを基に判断することが望ましい。
- ・プロジェクトの投入に関しては、おおむね計画どおりに実施されている。

(4) インパクト（中間レビュー時点では判断不能）

- ・プロジェクト完了後に上位目標を達成するための条件として、東ティモール政府が国産米振興・保護政策を実現させるための政策措置を行うことが必須であり、今後、政府が国産米振興における長期戦略を策定し、明確な政策措置を行うことが必要である。

(5) 持続性（中間レビュー時点では判断不能）

- ・政策面：東ティモール政府は SDP 及び MAF 戦略計画の下、今後も国産米振興を優先する政策を維持し続けることが見込まれるが、政府によって長期戦略及び明確な政策措置が同意・導入されなければ、これらの政策的な支援は推進力を失うことになる。
- ・組織面：プロジェクトの残り期間においては MAF や NLC の関与をより高める形で活動を実施していき、中央及び地方政府が国産米の生産及び販売を増やすメカニズムを引き継ぐことができるようなシステムを提案していくことが望まれる。
- ・財政面：プロジェクト目標を達成するには NLC への継続的な国産米買い取り用の予算配分が必要である。
- ・技術面：プロジェクト対象地域の農家、ブルト及びマリアナ灌漑地区の水利組合、チャクブ組合など、プロジェクトのすべての対象者の技術的・組織的能力はまだ向上の余地があり、プロジェクトでは、これら対象者の能力強化を引き続き行う必要がある。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

特になし

(2) 実施プロセスに関すること

- 1) 新首相による国産米振興に対する後押し
- 2) MAF によるチャクブ組合への積極的な支援
- 3) アセルダ社による国産米振興に対する積極的な支援

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

- 1) 近年の東ティモールのコメ市場における輸入米優位の傾向
- 2) 東ティモールにおける国産米振興に対する長期戦略及び明確な政策措置の欠如

(2) 実施プロセスに関すること

- 1) プロジェクト対象地域の農家の稲作に対するモチベーションの低下
- 2) ブルト灌漑施設の改修及び新しい水利組合の設立による伝統的な灌漑管理機能の喪失

3-5 結論

本プロジェクトは、現行の PDM を基に各成果の達成状況やプロジェクト目標の終了までの達成見込みを判断することは困難であり、中間レビュー時点における評価 5 項目の観点からの評価を行

うことも困難であると結論できる。

一方、中間レビュー調査団は、本プロジェクトが外部条件により非常に厳しい状況下で実施されているものの、農家のモチベーションを高めるために地方自治体を巻き込みつつ協働して取り組み、さまざまな効果を生み出していることも確認した。

成果1及び成果2に関しては、地方関係者の協働関係が促進され、ブルト及びマリアナI灌漑地区の対象農家の20%以上が、提案した栽培カレンダーに従うこととなった。また、ブルト灌漑地区では地方自治体リーダーの主導の下、灌漑水の共同管理に関する話し合いの場がもたれた。成果3に関しては、国産米の販売チャンネルはアセルダ社とチャクブ組合との協力により安定的に増えており、ホテルやレストラン、他のチャンネルを通じた国産米の販売促進活動は、農家の収入向上にある程度貢献している。

しかしながら、プロジェクト目標を達成するためには東ティモール政府による国産米振興に係る長期戦略の策定及び明確な政策措置の実施が必須であり、プロジェクトの残り期間において、政府が同政策を実行に移す努力を引き続き行うことが必要である。

3-6 提言

(1) 政策の実施に関する提言

- ・プロジェクトの成果発現のためには、東ティモール政府が開発の初期段階における国産米振興に係る政策を実行に移すことが必要である。
- ・プロジェクトチームは、MAFとNLCを含むタスクフォースと政策対話を行い、東ティモール政府の国産米振興に係る政策実施を促進する。

(2) 農家への共同アプローチに関する提言

- ・プロジェクトチームは、プロジェクトの持続性を確保するため、プロジェクト前半で実施してきた対象地域関係者との協力関係を継続することに加え、東ティモール政府による普及方法に統合させる形で活動を実施することを検討する。
- ・具体的には、農業普及員をプロジェクト対象地域における普及・モニタリング活動により参加させるようにし、プロジェクト終了後も東ティモールの中央政府及び地方政府が国産米の生産及び販売を増やすメカニズムを引き継ぐことができるシステムを構築する。

(3) マーケットに関する提言

- ・プロジェクトチームは東ティモールにおけるプレミアム米市場を開拓するために、コメの生産量増加だけでなく質の向上にも取り組んでいく。輸入米に対する競争力をつけて国産米の販売を増加させるためには、高級品市場をターゲットにできる品質を確保する必要がある。

(4) プロジェクトの実施体制に関する提言

- ・プロジェクト対象地域の地方自治体も実施機関に加える。プロジェクト活動では既に郡役場や村長など、地方自治体とも連携しており、プロジェクト活動における重要なプレーヤー、ファシリテーターとしての役割が期待される。

(5) プロジェクトの運営に関する提言

- ・ 現行の PDM (Version 1.0) は、プロジェクトで行われたさまざまな変更に基づいて改訂し、残りのプロジェクト期間では本調査団によって提案された改訂 PDM に基づき活動を実施・モニタリングしていく。

3-7 教訓

- ・ 農家対話プロセスを通じて、農家のモチベーション低下の課題を把握した。また、農家が過剰なインプット（労働及び資本）を必要とせずに生産の向上が期待できる暦の正常化を活動の中心として設定した。

Summary of Evaluation Results

1. Outline of the Project	
Country: Republic Democratic of Timor-Leste	Project Title: The Project for Increasing Farmers Households' Income through Strengthening Domestic Rice Production in Timor-Leste
Issue/Sector: Agricultural Development (Rice Promotion)	Cooperation Scheme: Technical Cooperation
Department in Charge: Team 1, Agricultural and Rural Development Group 1, Rural Development Department	Total Cost (as of the Mid-term Review): Approx. 370 million JPY
	Implementing Agency/Organization: - Ministry of Agriculture and Fisheries (MAF) - National Logistic Center (NLC), Ministry of Tourism, Commerce and Industry (MTCI)
Period of Cooperation: (R/D) 25th May 2016 September 2016 – September 2021	Supporting Agency/Organization in Japan: None
	Related Projects: Technical Cooperation “Irrigation and Rice Cultivation Project in Manatuto” (2005-2010), “Irrigation and Rice Cultivation Project in Manatuto Phase II” (2010-2015) Grant Aid “The Project for Rehabilitation of Buluto Irrigation Scheme” (February 2017)
1-1 Background of the Project	
<p>Timor-Leste depends heavily on natural resources such as crude oil and natural gas for its source of revenue. It accounts for almost 80% of GDP which is a big concern as the resources are said to be possibly depleted in the near future. It is imperative for the country to develop industries which can cover the revenue loss of the natural resources.</p> <p>The agricultural sector accounts for about 80% of GDP when natural resources are excluded, and it is one of the most promising industries in the country. About 60% of labor force is engaged in the agricultural sector, and it is creating further employment opportunity for younger generation. In 2011, the Government of Timor-Leste formulated the Strategic Development Plan 2011-2030 in which the agricultural sector has been assessed as one of the most significant sectors for economic development, and it has also articulated the achievement of food self-sufficiency by 2020. However, under the current situation, small-scale farmers who are the majority of the country population are still depending on inefficient and low-input traditional style agriculture, and thus improvement of productivity is insufficient. Especially rice production is limited to fill only 40% of domestic demand. The trend of country's dependency on import rice will accelerate further in the future if the situation continues.</p> <p>To address the issues, the Government of Timor-Leste and JICA agreed to implement the project titled “The Project for Increasing Farmers Households' Income through Strengthening Domestic Rice Production in Timor-Leste” starting from September 2016.</p>	

1-2 Project Overview

The project aims at increasing farmers households' income from rice production in the project sites through improving rice value-chain (Production, Harvesting, Post-harvest and Processing, Distribution, and Sales/Consumption), thereby improving livelihood of farmers living in the 3 target municipalities including the project sites.

(1) Super Goal

Livelihood of farmers living in Timor-Leste is improved through increase in income by improved rice production.

(2) Overall Goal

Livelihood of farmers living in the targeted municipalities is improved through increase in income by improved rice production.

(3) Project Purpose

Farmers households' income from rice production in the project sites is increased through the improvement of value-chain (Production, Manufacturing & Processing, Distribution, and Sales/Consumption).

(4) Outputs

1. Cultivation techniques for increasing rice production are improved in the project sites.
2. Capability of operation and maintenance (O&M) for irrigation facilities is strengthened.
3. System(s) of domestic rice distribution/sales are prepared for the rice branded by the project.
4. The rice purchasing/distribution system of government is improved.
5. The Project activities are shared with stakeholders in other municipalities such as southern part of Timor-Leste under the initiative of MAF.

(5) Inputs (as of the Mid-term Review)

<Japanese side>

Dispatch of Experts: 5 Long-term, 8 Short-term

Trainees Received: 3 (Training in Japan)

Provision of Equipment: USD 305,725 in total (vehicles and threshing machines, etc.)

Local Cost: USD 890,147 in total

<Timorese side>

Allocation of C/P: 47

Land and Facilities: Necessary facilities for the project (office space, equipment, electricity)

Local Cost: USD 2,400 in total

2. Outline of Evaluation Team		
Evaluation Team	<Japanese side>	
	Mr. Kenichi Shishido (Leader)	Director General, Rural Development Department, JICA
	Mr. Shunichi Nakada (Agricultural Policy)	Senior Advisor, JICA
	Mr. Shunji Segawa (Cooperation Planning)	Team 1, Agricultural and Rural Development Group 1, Rural Development Department, JICA
	Ms. Sawa Hasegawa (Evaluation Analysis)	Principal Consultant, Project Management Department, OPMAC Corporation
	<Timorese side>	
	Mr. Belsior Nunes Cardoso	Advisor, NLC, MTCI
	Ms. Carla Maria Jose da Cruz	Planning Officer, MAF
Period of Evaluation: 5 March to 28 March 2019		Type of Study: Mid-term Review
3. Summary of Mid-term Review Results		
3-1 Progress of the Project		
(1) Achievement of Outputs		
<u>Achievement level of Output 1</u>		
<p>The collaboration among local stakeholders including farmers and local authorities has been promoted through the activities of Output 1, leading to more than 20% of farmers in the Buluto and Maliana I irrigation schemes following the crop calendar proposed. However, as the production amount of rice at the project sites has slightly decreased (2017: 4,782 ton, 2018: 4,418 ton) due to normalization of cropping calendar, the current achievement level of Output 1 is considered to be low if evaluated based on the current results of the two indicators (1-1. The production of rice is increased by 80% in the project sites, 1-2. 80% trainees of Improved Rice Cropping System (IRCS) training understand 80% contents of the training) set in PDM. The approach to implement the activities on Output 1, however, was largely changed from the original plan so that the present indicators are not appropriate to verify the achievement of Output 1. It is proposed to assess the achievement of Output 1 based on different indicators to be revised in accordance with the change of approach.</p>		
<u>Achievement level of Output 2</u>		
<p>Discussions regarding collaborative water management have been initiated under the initiative of local leaders in the Buluto irrigation scheme through the activities of Output 2. However, the current achievement level of Output 2 is considered to be low if evaluated based on the current results of the two indicators (2-1. Rotation system on collective work to remove sediment at main irrigation facilities is established and the WUA is continuously operated at least one year in the project sites, 2-2. 80% of trainees of O&M training understand 80% contents of the training). It is difficult to verify the current achievement level of Output 2 since the results of two indicators cannot be obtained. The approach to implement the activities on Output 2 was largely changed from the original plan same as Output 1, so it is proposed to assess the achievement of Output 2 based on different indicators to be revised in accordance with the change of approach.</p>		

Achievement level of Output 3

The market channels for domestic rice have been steadily increased in collaboration with CAAKUB and ACELDA through the activities of Output 3 and these activities to promote domestic rice through restaurants, hotels, and other businesses has contributed to increase in the income of farmers to a certain extent. However, the current achievement level of Output 3 is considered to be low if evaluated based on the current results of the two indicators (3-1. 3,000 t milled rice (5,000 t paddy rice) of the domestic rice branded by the project is sold through the distribution/sales system(s) at the end of the project period in Buluto and Maliana I, 3-2. 80% trainees of trainings of farmers' association management; training of marketing; training of rice milling, processing, and packaging understand 80% contents of the trainings) although the activities of Output 3 have been implemented at a good rate as mentioned above. Since the present indicators set for Output 3 are not appropriate, it is proposed that the achievement of Output 3 should also be assessed based on different indicators to be revised.

Achievement level of Output 4

The 5S training for rice storage management was conducted and the current achievement level of Output 4 is considered to be in half way if evaluated based on the current results of the two indicators (4-1. The ratio of animal feeding is decreased to less than 50%, 4-2. 80% trainees of 5S (Sort, Straighten, Shine, Standardize, and Sustain) training for rice storage management understand 80% contents of the training). The achievement of Output 4 is proposed to be assessed based on the results of revised indicator of Indicator 4-1 and Indicator 4-2.

Achievement level of Output 5

Since the activities of Output 5 are planned to be implemented after other Outputs are to be achieved to some extent, the achievement level of Output 5 needs to be verified later.

(2) Prospect for future achievement of Project Purpose

The current achievement level of Project Purpose is considered to be low if evaluated based on the current results of indicator (Farmers household' average annual income is increased by 50% in Buluto and Maliana I) as of the time of Mid-term Review. However, even if the project achieves the increase in rice production amount through Output 1 and 2, it would be difficult to increase the farmers' income from rice sales without achievement of Output 3 and 4. It is prospected to be difficult to achieve Project Purpose unless the sales amount of rice of farmers in the project sites will increase by the end of the project through the achievement of Output 3 and 4.

3-2 Summary of Evaluation Results

(1) Relevance (Relatively low)

- The project is consistent with the development policy of Timor-Leste, "Strategic Development Plan (SDP) 2011-2030" and "MAF Strategic Plan 2014-2020" which prioritize domestic rice promotion.
- The project is consistent with Japan's ODA policy for Timor-Leste which places "promotion of industry

diversification” as one of the priority areas.

- The measures to realize the policy on domestic rice promotion have not been substantially taken by the Timorese government in the current situations.
- While the project largely meets the development need of the Timorese government, which is development and improvement of a domestic rice distribution and sales system, it does not directly meet the development need of farmers who have neither interest in increasing production amount of rice nor interest in selling their rice under the current market situations.
- The project design is appropriate in that the project covers both components of an increase in production amount of domestic rice and an expansion of the domestic rice market in Timor-Leste.

(2) Effectiveness (Difficult to judge as of the time of Mid-term Review)

- Even if the project achieves the increase in rice production amount through Output 1 and 2, it would be difficult to increase the farmers’ income from rice sales without achievement of Output 3 and 4.
- Despite the positive progress in Output 3, the potential market size is very limited under the current situations and thus, it is difficult to absorb all the increased production through the market unless the government imposes effective policy to fill the competitiveness gap between domestic and imported products in a stepwise manner, which is an external condition beyond the realm of the project.
- It is considered that the project has been implemented with very severe pre-conditions and that it is difficult to achieve Project Purpose unless the Timorese government take measures to realize the policy on domestic rice protection.

(3) Efficiency (Difficult to judge as of the time of Mid-term Review)

- Output 1 and 2 are to be produced in the second half of the project, so it is better to assess the efficiency of the project based on the levels of all Outputs produced in the rest of the project period.

(4) Impact (Difficult to judge as of the time of Mid-term Review)

- Long-term strategy and clear policy measures to promote domestic rice by the Timorese government are necessary to achieve Overall Goal after the end of the project.

(5) Sustainability (Difficult to judge as of the time of Mid-term Review)

- Policy and institutional aspects: Although the political support for the domestic rice promotion is expected to be sustained in Timor-Leste, this support may lose its momentum unless long-term strategy and clear policy measures are agreed and introduced in the government.
- Organizational aspect: The project is proposed to implement activities with more participation of MAF and NLC in the rest of the project period to promote a system that the national and local governments can take over the mechanism for technology transfer.
- Financial aspect: Continuous budget allocation for NLC to purchase domestic rice is necessary.
- Technical aspect: The technical capacity of all the target of the project including farmers in the project sites, WUA at Buluto and Maliana I, CAAKUB, etc. still needs to be improved so that it is necessary for the

project to continuously make efforts for their capacity development.

3-3 Factors that Promoted/Inhibited Realization of Project Effects

(1) Promoting factors

(a) Factors related to planning

None

(b) Factors related to implementation process

- 1) Strong support for promotion of domestic rice provided by the new Prime Minister
- 2) Positive support for CAAKUB provided by MAF
- 3) Positive support for promotion of domestic rice provided by the ACELDA Company

(2) Inhibiting factors

(a) Factors related to planning

- 1) Recent trend of a prominent position of imported rice in the rice market of Timor-Leste
- 2) Insufficient long-term strategy and clear policy measures to promote domestic rice in Timor-Leste

(b) Factors related to implementation process

- 1) Low motivation for rice cultivation among farmers in the project sites
- 2) Loss of functioning traditional irrigation management after revision of Buluto irrigation facilities and establishment of new organization of WUA

3-4 Conclusion

Based on the findings of the Mid-term Review, the Review Team concludes that it is difficult to clearly assess the current achievements of Outputs and a future prospect for achievement of Project Purpose if assessed based on the current PDM. It is also difficult to assess the project from the viewpoint of Five Evaluation Criteria as of the time of Mid-term Review.

On the other hand, the Review Team observed that although the project has been producing many effects in collaboration with local authorities in order to motivate farmers and work together effectively despite being implemented under the severe external conditions.

Regarding Output 1 and Output 2, the collaboration among local stakeholders has been promoted, leading to more than 20% of farmers in each area following the crop calendar proposed. Discussions regarding collaborative water management have also been initiated under the initiative of local leaders in Buluto. Regarding Output 3, market channels for domestic rice has been steadily increased in collaboration with CAAKUB and ACELDA. Activities to promote domestic rice through restaurants, hotels, and other businesses will contribute to increase in the income of farmers to a certain extent.

To achieve Project Purpose, however, a long-term strategy and clear policy measures to promote domestic rice by the Timorese government are essential and it is required that the Timorese government continuously make efforts to put the policy into action in the rest of the project period.

3-5 Recommendations

(1) In terms of policy implementation

- 1) The Timorese government is recommended to implement the policy on nurturing domestic rice which is in the early stage of development.
- 2) The project team is recommended to promote policy dialogue with Taskforce including MAF and NLC to encourage them to implement the policy on domestic rice protection.

(2) In terms of collaborative approach to farmers

- 1) The project team is recommended to consider integrating its activities into Timor-Leste's extension methods in order to ensure the sustainability of the project.
- 2) Extension officers are recommended to be more involved with extension and monitoring activities at the project sites so that they can continue activities to promote sales and production of domestic rice after the end of the project implementation period.

(3) In terms of market

- 1) The project is recommended to work through not only an increase in production amount but also improvement in quality of rice to develop a premium rice market in Timor-Leste.

(4) In terms of project implementation structure

- 1) The local authorities in the project target sites are recommended to be added to the implementing agencies, as they play key roles in facilitation of project activities.

(5) In terms of project management

- 1) The present PDM (Version 1.0) should be revised based on the changes made in the project and the project should be implemented and monitored based on the revised PDM proposed by the Mid-term Review Team.

3-6 Lessons Learned

- 1) Identification of the minimal techniques set through the Farmers Dialogue process

第1章 中間レビュー調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

東ティモール民主共和国（以下、「東ティモール」という）において、農業は非石油輸出額の約80%を占め、就業人口の約65%が従事する重要な基幹産業である（State Budget 2016, Budget Overview Book 1）。現在は、石油や天然ガス等の資源収入がGDPの約80%を占める一方、これらの天然資源は近い将来、枯渇する可能性があるとしており、資源産業に過度に依存する東ティモールにおいては、農業を基盤とした産業の育成を進めていくことが重要な課題となっている。

こうしたなか、東ティモール政府は、2030年までの国づくりの基本となる「戦略的開発計画（Strategic Development Plan 2011-2030：SDP）」（2011年）を策定し、農業セクターを重点開発分野の一つと位置づけている。同計画では、開発目標として営農技術の向上や食料生産の向上、主食食料であるコメ自給率の向上等を掲げ、2020年までの食料自給達成を目標としている。一方、2013年のコメ自給率は約35%であり、国内のコメ消費量の約60%以上を輸入米が占めている現状がある。加えて、年々安価な輸入米の流入が増加すると同時に、コメの作付面積及び収穫面積は2008年（4万6,000ha）をピークに減少傾向にあり、食料自給率向上に向けたコメの生産増加が急務となっている。

食料自給率の向上をめざすうえで課題となるのが、①投入資材（優良種子、肥料等）や栽培技術の不足、②灌漑施設の不適切管理による不安定な取水状況、③国産米市場販売流通網の未整備、④政府による買い取り制度の未熟さである。かかる状況がコメの生産性低下/低迷、農民のコメ生産意欲の低下、国産米の適切な流通の停滞の原因となり、連鎖的に国産米の供給を阻害する状況が生み出されている。東ティモールの食料自給改善のためには、コメの生産・加工・流通・販売のプロセスが一貫して機能することによって、コメ生産を通じた適切な収入を実現し、農家のコメ生産に対するインセンティブを向上させていくことが必要である。

上記にかんがみ、本事業では、同国の農業全般を担う農業水産省（MAF）と国産米の買い取り制度を実施する観光商工省（MTCI）を対象に、①選定地域コメ生産農家の営農技術の改善、②灌漑施設維持管理能力の強化、③国産米流通・販売モデルの構築、④政府による備蓄米管理の改善、⑤3県で行われたこれらの活動成果の南部地域を含む他県への普及に取り組み、コメのバリューチェーン全体の改善を通して、コメ生産による農家世帯所得の向上を図ることを目的としている。

本中間レビュー調査は、プロジェクトが中間段階に差し掛かったタイミングで、プロジェクト活動の実績、成果を確認・評価するとともに、プロジェクト目標の達成に向けた案件デザインの見直しを行うことを主目的として実施された。

上述の経緯を踏まえ、以下を目的として中間レビュー調査を実施した。

- ① プロジェクトの計画表（PDM）及び活動計画（Plan of Operation：PO）に基づき、プロジェクトの投入実績、活動実績、各成果及びプロジェクト目標の達成状況または達成見込みを確認する。
- ② プロジェクトの実施プロセスを検証し、貢献要因や阻害要因、リスク要因等を抽出する。
- ③ 評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）の観点から評価を行う。
- ④ 上記の分析結果に基づき、今後の課題や方向性について検討し、プロジェクトの後半期間で取り組むための提言を行う。

⑤ 必要に応じて他の類似案件への教訓を抽出する。

1-2 調査団の構成と調査日程

日本側・東ティモール側の調査団のメンバーは、以下のとおり。

<日本側>

担当分野	氏名	所属先・職位
団長	宍戸 健一	JICA 農村開発部 部長
農業政策	仲田 俊一	JICA 国際協力専門員
協力企画	瀬川 俊治	JICA 農村開発部 農業・農村開発第一グループ 第一チーム
評価分析	長谷川 さわ	OPMAC株式会社 事業部 上席コンサルタント

<東ティモール側>

氏名	所属先・職位
Mr. Belsior Nunes Cardoso	観光商工省 (MTCI) 国家流通センター (NLC) アドバイザー
Ms. Carla Maria Jose da Cruz	MAF 計画オフィサー

現地調査は、2019年3月5日～2019年3月28日の期間で実施された。調査スケジュールは、付属資料1のとおり。

1-3 主要面談者

本調査における主要面談者は、以下のとおり。

【農業水産省 (MAF)】

H.E. Mr. Joaquim José Gusmão Dos Reis Martins	大臣
Mr. Cesar Jose da Cruz	次官
Ms. Maria Odete do Céu Guterres	総局長
Mr. Amaro Ximenes	農業・園芸・普及局長
Mr. Martinho Laurentino Soares	灌漑・水管理局長
Mr. Fernando Egidio Amaral	農業通商局長

【観光商工省 (MTCI) 国家流通センター (NLC)】

Mr. Augusto Junior Trindade	長官
Mr. Julio Soares	調達・倉庫・備蓄局長

【バウカウ県関係者】

Mr. Augustino Eusebio Guterres	バウカウ県 MAF 事務所長
Mr. Sebastião F. de A. Correia	ベマッセ郡長
Mr. Geraldo Romaldo da Costa	Caicua 村長

Mr. Higinio Freitas アセルダ社 社長
Mr. Custodio Soares 水利組合長
農家 2 名

【マナツト県関係者】

Mr. Thomas Francisco Piedade Xiemenes マナツト県知事
Mr. Simao da Costa ラレイア郡長
Mr. Gaspar Jose de Fatima da Costa Hatu-Ralan 村長
Mr. Americo da Costa Soares Uaigae 村担当農業普及員
Mr. António de Sousa Correia Hatu Ralan 村担当農業普及員
農家 2 名

【ボボナロ県関係者】

Mr. Aderito Santos ボボナロ県 MAF 事務所長
Mr. Justino Belo ボボナロ県 MAF 事務所 シニア農業普及員
Mr. Alipio Moniz マリアナ郡長
Mr. Antonio Santa Cruz Holsa 村長
Mr. Augusto Guterres Barreto マリアナ I 灌漑地区水利組合長
Mr. Cirilo Moniz S. Bere チャクブ組合 代表
Ms. Josefa da Costa チャクブ組合 会計担当
農家 4 名

【在東ティモール日本国大使館】

東本 真吾 次 席

【JICA 東ティモール事務所】

永石 雅史 所 長
鈴木 俊康 所 員

【プロジェクト専門家】

丹羽 憲昭 チーフアドバイザー
小田島 成良 稲作技術
廣中 進司 農産物流通・販売
永井 直子 業務調整

1-4 プロジェクトの概要

本プロジェクトの概要は、以下のとおり（2017年11月30日作成の PDM Version 1.0 による）。

(1) 協力期間

2016年9月12日～2021年9月11日（5年間）

(2) 実施機関

農業水産省：農業・園芸・普及局、灌漑・水管理局、農業通商局
観光商工省：NLC、調達・倉庫・備蓄局

(3) 対象地域

成果1：ブルト灌漑地区、マリアナI灌漑地区、その周辺地域
成果2：ブルト灌漑地区、マリアナI灌漑地区
成果3：ディリ県、バウカウ県、マナツト県、ボボナロ県
成果4：ディリ、マリアナのコメ備蓄倉庫
成果5：東ティモール南部地域などの他県

(4) ターゲットグループ

直接受益者：関係省庁・県職員、バウカウ県、マナツト県、ボボナロ県及び南部地域などの他県の対象農家、プロジェクト対象地域のコメ小売業者
間接受益者：バウカウ県、マナツト県、ボボナロ県及び南部地域などの他県のすべての農家、コメの流通・マーケティングにかかわる民間業者、コメ消費者

(5) スーパーゴール

コメの生産向上による収入増加を通じて、東ティモールの農家世帯の生計が向上する。

(6) 上位目標

コメの生産向上による収入増加を通じて、プロジェクト対象地域の農家世帯の生計が向上する。

(7) プロジェクト目標

コメのバリューチェーン（生産、製造・加工、流通、販売・消費）の改善を通じて、プロジェクト対象地域の農家世帯のコメ生産による収入が増加する。

(8) 成果

成果1：プロジェクト対象地域において、コメ増産に向けた栽培技術が向上する。
成果2：灌漑施設の維持管理能力が強化される。
成果3：コメのブランド化を通じ、国産米の流通・販売システムが構築される。
成果4：政府のコメ買い取り・配布システムが改善される。
成果5：MAF主導の下、本プロジェクトの活動が南部地域などの他県関係者に共有される。

第2章 評価の方法

2-1 評価設問と必要なデータ・評価指標

本中間レビューは、「新 JICA 事業評価ガイドライン 第1版」(2010年6月)に基づき、プロジェクト・サイクル・マネジメントの一環として実施された。現行 PDM (Version 1.0) を評価の枠組みとして使用し、プロジェクトの実績及び実施プロセスの検証、評価5項目に基づく評価を行った。評価設問や必要なデータ、評価指標の詳細については、付属資料3. 評価グリッドを参照。

(1) プロジェクトの実績

プロジェクトの実績は、協力開始時から中間レビュー調査時点までの投入実績、活動実績、成果、プロジェクト目標の各項目について、PDM にある指標を基にその達成状況(または達成見込み)を確認した。

(2) 実施プロセス

実施プロセスは、プロジェクトの実施体制や、活動の実施状況及びプロジェクト関係者間のコミュニケーション等、プロジェクトの運営状況について検証し、さらにプロジェクト実施上の貢献要因及び阻害要因を抽出した。

(3) 評価5項目に基づく評価

実績及び実施プロセスに係る検証結果に基づき、プロジェクトを評価5項目の観点から検証した。評価5項目の各項目の定義は、以下のとおりである。

表-1 評価5項目の定義

項目	定義
妥当性	プロジェクトのめざしている効果(プロジェクト目標や上位目標)が受益者のニーズに合致しているか、問題や課題の解決策として適切か、対象地域と日本側の政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当か、公的資金である ODA で実施する必要があるかなどといった「援助プロジェクトの正当性・必要性」を問う視点。
有効性	プロジェクトの実施により、受益者もしくは社会への便益がもたらされているのか(あるいはもたらされるのか)を問う視点。
効率性	主にプロジェクトのコスト及び効果の関係に着目し、資源が有効に活用されているか(あるいはされるか)を問う視点。
インパクト	プロジェクトの実施によりもたらされる、より長期的・間接的な効果や波及効果をみる視点。この際、予期しなかった正・負の効果・影響も含む。
持続性	協力が終了しても、プロジェクトで発現した効果が持続しているか(あるいは持続の見込みはあるか)を問う視点。

出所:「新 JICA 事業評価ガイドライン 第1版」2010年6月

2-2 データ収集・分析方法

本中間レビューでは、プロジェクト関連報告書等の各種資料のレビュー、プロジェクトのキーインフォーマントに対するインタビュー、質問票の配布、現場観察により、評価分析のための定量・定性データを収集・分析した。各方法の概要は、以下のとおり。

(1) 資料レビュー

プロジェクト関連報告書等、各種資料をレビューし、プロジェクトの背景や概要を把握するとともに、プロジェクトで作成されたベースライン調査報告書等の各種資料から評価判断に必要な定量・定性データを収集し、プロジェクトの実績や課題等を確認・整理した。

(2) キーインフォーマント・インタビュー

プロジェクトのキーインフォーマントとして、JICA 専門家、MAF 関係者、NLC 関係者、地方政府（県・郡・村）関係者、プロジェクト対象地域の農家、コメの買い取り・販売業者、コメ販売先のホテル・レストラン等に対してインタビューを行い、主に定性的な情報を収集し、プロジェクトの実績及び実施プロセスの検証を行った。現地調査における主要面談者は、「第1章 1-3 主要面談者」のとおり。

(3) 質問票の配布

質問票は、JICA 専門家、MAF 関係者、NLC 関係者に送付し、それぞれ回答を得た。質問票の対象者は、基本的に上記のキーインフォーマント・インタビューの対象者と同様であったため、質問票回答からはインタビュー内容を相互補完する形で定性的な情報を中心に確認し、プロジェクト実績及び実施プロセスの検証を行った。

(4) 現場観察

現地調査において、プロジェクト対象地域であるバウカウ県、マナツト県、ボボナロ県を訪問し、ブルト灌漑施設、マリアナ I 灌漑施設、デモ圃場、稲田等をそれぞれ観察した。その際、プロジェクトで供与された各種機材やプロジェクト活動により作成された各種成果物の内容も確認し、プロジェクト実績の検証材料とした。

2-3 評価の制約

本プロジェクトは開始後にアプローチ及び活動が大幅に変更されたものの、これらの変更は現行 PDM である Version 1.0 に反映されていなかった。そのため、本中間レビューでは現行 PDM を基にしたプロジェクトの実績を判断することが困難であり、評価 5 項目による評価も効率性、インパクト、持続性の項目は判定が困難であった。

さらに、本プロジェクトでは、プロジェクト対象地域の農家 1,500 戸以上を対象にベースライン調査、フォローアップ調査を行っており、PDM 指標のデータの幾つかは同調査で収集されたデータから得ているが、同調査のデータ収集方法及び集計方法には幾つか齟齬があり、データの信頼性が必ずしも高いわけではない。

第3章 プロジェクトの実績と実施プロセス

本プロジェクトの開始当初から中間レビュー時点までの実績は、以下のとおりである。

3-1 投入実績

投入は、日本側及び東ティモール側ともおおむね計画どおり行われているが、両者とも当初の計画と比べて若干の変更があった。日本側は、成果2（灌漑施設の維持管理能力の強化）の活動を成果1（稲作技術の向上）の活動と併せて実施するというアプローチの変更により、担当の長期専門家の派遣が延期されており、また、成果4（政府のコメ買い取り・配布システムの改善）担当の長期専門家が、該当者不在により派遣されておらず、代わりに短期専門家が派遣されている。東ティモール側は、2018年6月に行われた大統領選挙とそれに伴う政権交代により、2018年の予算配賦が大幅に遅延した。

両者のこれまでの投入実績の概要を、以下に示す（投入実績の詳細については、付属資料2．JCC ミニッツの添付資料を参照）。

<日本側>

項目	実績
専門家派遣	以下の担当分野の長期専門家5名、短期専門家8名が派遣された(2019年3月末時点)。 <長期専門家> 1) チーフアドバイザー 2) 稲作技術 3) 農産物流通・販売 4) 業務調整 <短期専門家> 1) 稲作技術 2) コメ営農状況調査 3) コメ流通販売調査 4) 灌漑維持管理 5) 水利組合組織化 6) コメ備蓄管理(5S・カイゼン) 7) コメ加工製品
本邦研修	MAF 農業通商局所属の3名が、2018年10月に沖縄で実施されたファーマーズ・マーケットの設立と運営に関する研修に参加した。
機材供与	車両、脱穀機を含む32項目の機材、計30万5,725米ドル(USD)(約3,400万円 ¹⁾)が供与された(2019年3月末時点)。
ローカルコスト負担	プロジェクト雇用スタッフ人件費、ワークショップ開催費用等、計89万147USD(約9,900万円)が支出された(2018年12月末時点)。

¹ 1 USD=111円(2019年3月時点での為替レート)

<東ティモール側>

項目	実績
カウンターパート配置	以下のカウンターパートが配置された。 1) プロジェクト議長 MAF、NLC から各1名、計2名 2) プロジェクト・ダイレクター MAF から1名 3) プロジェクト・マネジャー MAF、NLC から各1名、計2名 4) MAF、NLC の関係スタッフ
施設・設備提供	MAF からプロジェクトに必要な施設（事務所、事務所設備、電気代等）がディリ、ブルト、マリアナに提供された。
ローカルコスト負担	ディリ、ブルト、マリアナのプロジェクト事務所で使用される電気代として、計2,400 USD が支出された（2018年12月末時点）。 注：プロジェクト用に支出された金額を算出するのは難しいため、電気代のみ計上されている。

3-2 活動実績

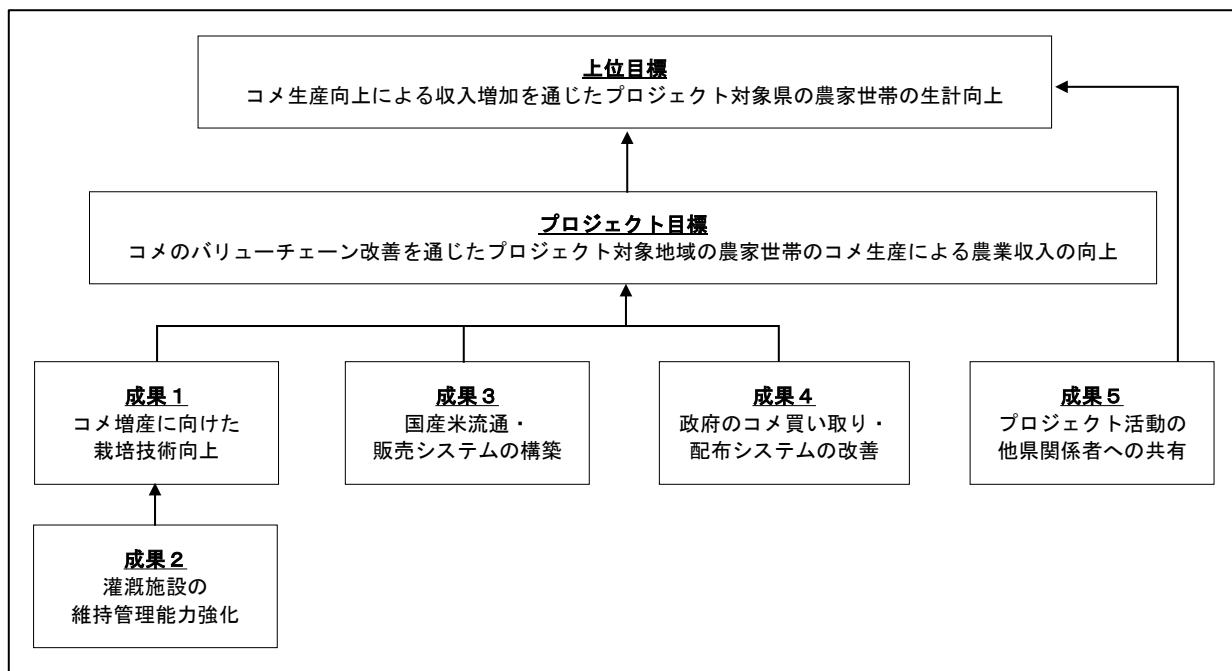
本プロジェクトは、①コメの生産増加に向けた栽培技術の向上（成果1）、②灌漑施設の維持管理能力の強化（成果2）、③国産米の流通・販売システムの構築（成果3）、④政府のコメ買い取り・配布システムの改善（成果4）、⑤プロジェクト活動の南部地域など他県関係者への共有（成果5）、の五つが活動の柱となっている。

このうち成果1、成果3、成果4の活動は、東ティモールにおけるコメのバリューチェーンを改善し、プロジェクト終了までに目標を達成することを意図して実施されており、特に成果1はバリューチェーンの上流部分に当たる「生産」「収穫」に主に関連しており、成果3と成果4はバリューチェーンの下流部分に当たる「加工」「流通」「販売・消費」に関連している。

一方、成果2の活動は、コメのバリューチェーン改善には直接関与しておらず、成果1のコメの生産増の達成に貢献することを意図して実施されている。

さらに、成果5の活動は、プロジェクトの効果を東ティモールの他県にも普及させることを意図して実施するよう計画されており、プロジェクト完了後の上位目標やスーパーゴールの達成に向けて貢献することを意図して実施されている。

図-1に、本プロジェクトの上位目標、プロジェクト目標、各成果の関係を示す。



出所：中間レビュー調査団作成

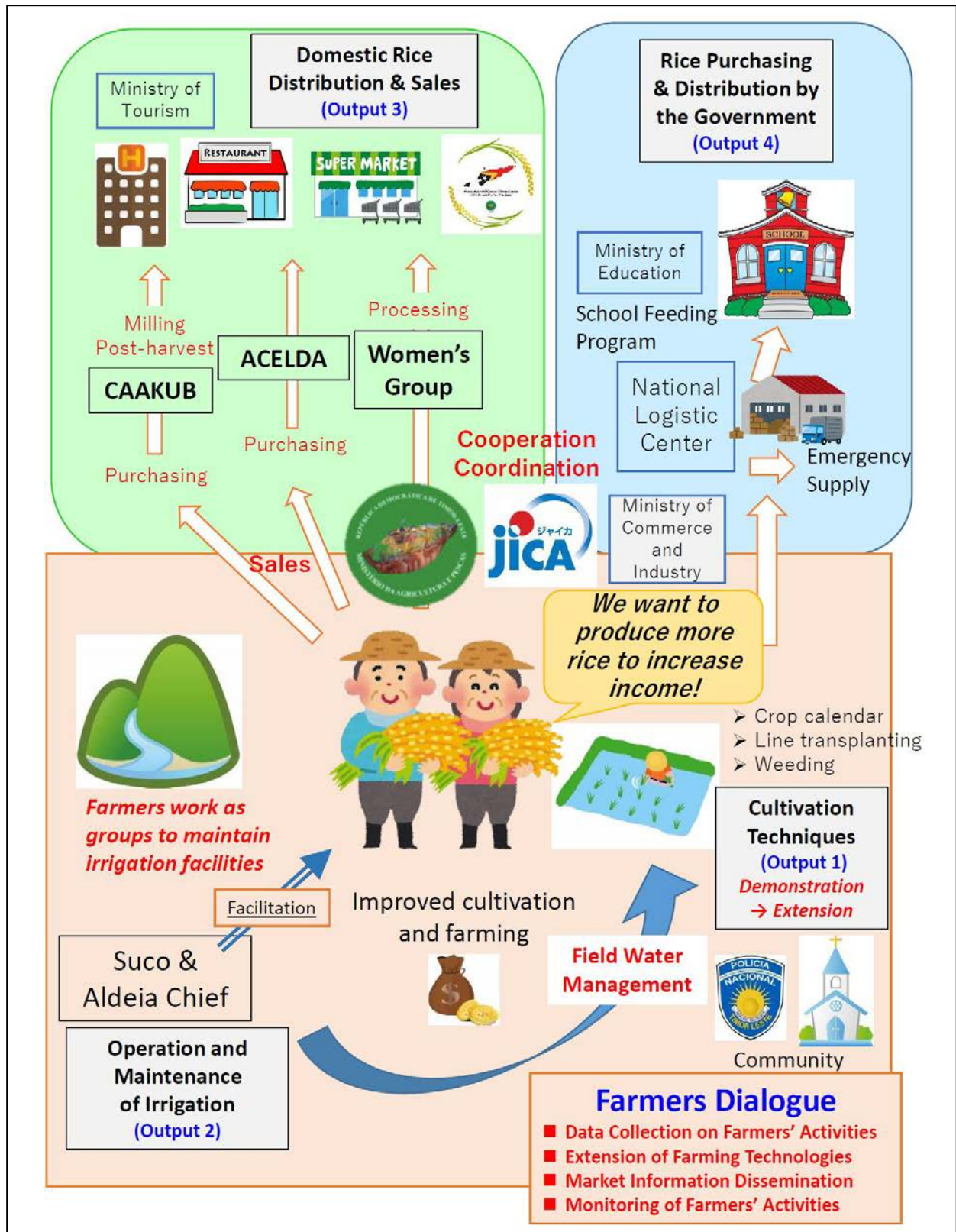
図－１ 上位目標、プロジェクト目標、各成果の関係

当初の計画では、プロジェクトの活動は、各成果における研修の実施をメインに構成されていた。すなわち、①対象農家に対する稲作技術に関する研修（改良稲作システム研修）の実施、②水利組合メンバーに対する灌漑施設の運営・維持管理研修の実施、③対象農家及び関係業者に対する国産米の流通・販売に関する研修（マーケティング、加工、梱包など）の実施、④政府職員に対するコメ備蓄管理に関する5S研修の実施、で構成されていた。

しかしながら、「3-5-3 プロジェクトの効果発現に対する貢献要因及び阻害要因」において後述するように、プロジェクト開始後の初期段階において、ベースライン調査による実際の現場状況の把握を通じて、当初計画されていた、上記の研修実施を主体としたプロジェクトのアプローチでは、特に成果1及び成果2のターゲットである農家をプロジェクト活動に巻き込むにはあまり効果的ではないことが確認された。

したがって、プロジェクトでは、プロジェクト対象地域のブルト及びマリアナI灌漑地区の対象農家全員に対して直接的な関与を行う、「農家対話」と呼ばれる農家主導のアプローチが代わりに導入された。農家対話は主に四つの活動から成り、①農家の活動に関する情報収集、②営農技術の普及、③マーケット情報の伝達、④農家の活動のモニタリング、で構成されている。

図－2は、変更後の「農家対話アプローチ」を基にしたプロジェクトの概念図を示す。



出所：プロジェクト作成

図-2 変更後のアプローチを基にしたプロジェクト概念図

農家対話を通じて、農家の稲作に対するモチベーションを削ぐ幾つかの要素が確認された。最も深刻な要因は、東ティモールのコメの生産システムにおける関係者間の不信感であり、過去に政府や援助機関により農家に提供された多くの支援によって、農家のそれらに対する過度な依存心や提供サービスに対する不公平感等、逆の作用をもたらし、農家、農業普及員、政府、援助機関などの関係者における不信感を醸成させることとなった。

二番目の要因は、東ティモールのコメ産業をとりまく構造的な問題であり、同国では低コストで生産された安価な輸入米への依存度が高く、農家にとってコメを生産しても販売機会が限られている状態であり、国産米のバリューチェーンは成熟していない。結果として、農家は自家消費のためだけにコメを生産することとなり、労働集約的で少ないインプットによる営農に対するバイアスを生じさせている。これにより、一般的に追加インプットや労働を必要とする新しい技術の採用を妨げている。

上記の認識の下、プロジェクトでは、農家が現状において追加のインプットなしに採用でき、早い時期の収穫と二期作を通じて市場機会を増やすことが可能である、簡略化した稲作技術（栽培カレンダー、直線植え、除草）を特定した。この目的を実行するにあたり、農家と地方自治体間の協力だけでなく地方関係者の巻き込みが、灌漑水の管理やバリューチェーンを含む稲作システム全体を通じて必要となった。このアプローチは、プロジェクト目標を達成するための中心ツールとして取り入れられた。

「3-1 投入実績」でも述べたように、成果2を担当する長期専門家が派遣されておらず、成果2の活動はまだ本格的には行われていない。プロジェクトでは、灌漑施設の維持管理を行うにあたり、水利組合メンバーや農家を直接巻き込み、彼らのイニシアティブを助長して行うやり方がより効果的だと判断している。

他方、成果3の活動である国産米の流通・販売システムの構築は、関係者への研修の実施方法はOJT方式で行われているものの、担当部署であるMAFの農業通商局からの協力の下、ほぼ当初の計画どおり行われている。

成果4については、「3-1 投入実績」でも述べたように、担当する長期専門家の人材不足によりまだ専門家派遣が行われていないため、2018年10月から短期専門家1名が代わりに派遣されることになった。それにより、2019年2月にディリ市内にあるベボラ倉庫とボボナロ県にあるマリアナ倉庫のスタッフを中心に、コメの備蓄管理を改善するための5S研修が行われた。しかしながら、NLCの国産米買い取り・流通システムを改善する活動は、担当専門家の不在によりまだ実施されていない。

成果5の活動である東ティモール南部地域など他県関係者へのプロジェクト活動の共有は、他県関係者を対象にしたワークショップやセミナーは残りのプロジェクト期間において行われる予定のため、まだ実施されていない。

プロジェクトの対象農家は、バウカウ県及びマナット県に位置するブルト灌漑地区（灌漑面積計780 ha）と、ボボナロ県に位置するマリアナI灌漑地区（灌漑面積計840 ha）で稲作を行っている農家になる。ベースライン調査により得られた対象地区ごとの対象農家の数は、表-2のとおり。対象農家数（世帯ベース）は、合計で1,519戸であった。

表－2 灌漑地区ごとの対象農家数

灌漑地区	県	郡	村	対象範囲 (ha)	対象農家数 (世帯)
ブルト	バウカウ	ベマッセ	Vemasse Tasi	394	199
			Caicua	11	11
	マナツト	ラレイア	Uaigae	54	47
			Lifau	131	96
			Hatu Ralan	167	114
	小 計			757	467
マリアナ I	ボボナロ	マリアナ	Lahomea	346	259
			Ritabou	570	438
			Holsa	79	67
			Odomau	92	77
			Raifun	301	211
	小 計			1,388	1,052
合 計				1,519	1,519

出所：プロジェクト資料を基に中間レビュー調査団作成

注：上記の対象農家数は 2017 年に行われたベースライン調査時のものであり、2018 年に行われたフォローアップ調査では、マリアナ I 地区の農家の一部が不在であった点、ブルト地区にある Uaigae 村は訪問対象にならなかった点により、合計 1,461 戸（ブルト地区 420 戸、マリアナ I 地区 1,041 戸）に減少している。

3-3 成果の達成状況

中間レビュー時点においてプロジェクトの各成果がどの程度達成されているかについて、主に PDM で各成果に設定された指標結果を基にその達成状況を判断する。

成果 1～5 の設定指標と各指標の中間レビュー時点での結果を、以下に示す。

成果 1： プロジェクト対象地域において、コメの増産に向けた栽培技術が向上する。
指標： 1-1. プロジェクト対象地域において、コメの生産量が 80%増加する。 1-2. 改良稲作システム（IRCS）の研修参加者の 80%が研修内容の 80%を理解する。

指標 1-1 の現時点での結果に関し、2017 年に実施されたベースライン調査及び 2018 年に農家対話の一環として実施されたフォローアップ調査において収集された、ブルト及びマリアナ I 灌漑地区におけるコメ（もみベース）の生産量は、表－3 のとおり。

表－3 ブルト及びマリアナ I 灌漑地区におけるコメの生産量（もみベース）

灌漑地区	2017年			2018年			農家1戸 当たりコメ生産量 増加率
	コメ生産 量 (対象農 家合計)	対象農家 数	農家1戸 当たり コメ生産 量	コメ生産 量 (対象農 家合計)	対象農家 数	農家1戸 当たり コメ生産 量	
ブルト	1,347 t	464	2.90 t	1,116 t	420	2.66 t	-8%
マリアナ I	3,435 t	1,047	3.28 t	3,302 t	1,041	3.17 t	-3%
計	4,782 t	1,511	3.16 t	4,418 t	1,461	3.02 t	-4%

出所：ベースライン調査レポート及び第2回農家対話レポート

表－3のとおり、プロジェクト対象地域におけるコメの生産量（農家1戸当たりの平均生産量）は減少しており、中間レビュー時点における指標 1-1 の達成レベルは低いといえる。

指標 1-2 の現時点での結果に関し、農家に対する研修の実施方法は、上述のとおり IRCS 研修の提供から農家対話を通じた農家への直接関与のアプローチに変更されたため、IRCS 研修は本プロジェクトでは実施されていない。よって、IRCS 研修参加者の研修理解度に関するデータは収集されていない。

IRCS 研修の実施に代わり、プロジェクトでは、対象地域の一部の農家を対象に、苗代準備、圃場準備、水田の水量調整、直線植え、除草などを含む稲作技術に関する集中的な指導が行われた。表－4は、同指導に参加した農家の数と、参加農家のなかで指導内容を実施した農家の割合を示している。

表－4 稲作技術の指導を受けた農家数及び指導内容の実施率

灌漑地区	2017年		2018年	
	指導を受けた 農家数	指導を受けたあと に実施している 農家数	指導を受けた 農家数	指導を受けたあと に実施している 農家数
ブルト	16	11	42	39
マリアナ I	42	27	42	38
計	58	38	84	77
実施率	66%		92%	

出所：プロジェクト提供資料

表－4のとおり、稲作技術に関する指導を受けた農家の指導内容の平均実施率は、79%になる。

加えて、ブルト及びマリアナ I 灌漑地区の農家に対し、「暦の正常化（Normalization of Cropping Calendar）」を紹介する啓発ワークショップが実施された。暦の正常化では、農家がタイミングを見計らって田植え及び収穫を行うことにより、マーケットの需要が高い時期に収穫したコメを売る機会を増やすこと、また雨期が終わる前に2回目の栽培を行うことを奨励している。ワークショップは2018年9月にブルト地区で5回、2018年10月にマリアナ I 地区で7回開催され、それぞれ272戸、377戸、計649戸の農家に参加した。ワークショップの実施と並行して、暦の正常化を行う利点や、直線植え、除草等の稲作技術がプロジェクト雇用のモニタリング・スタッフを通じてプロジェクト対象地域の農家に伝えられている。

上記の啓発ワークショップの実施後、ブルト地区では2018年12月12日、マリアナ I 地区では同

年 12 月 14 日に、MAF の大臣が出席する田植え式が行われ、暦の正常化に従って田植え式から 1 カ月以内に田植えを始めることが奨励された。その結果、ブルト地区では 148 戸の農家、マリアナ I 地区では 218 戸の農家が田植え式から 1 カ月以内に田植えを始めた。

しかしながら、農家の稲作技術の採用率は依然として低く、中間レビュー調査団は以下の課題を原因として挙げた。プロジェクトはこれらの課題に対する解決策を特定し、課題を克服していくよう農家を指導する必要がある。

① 技術的課題

早期の田植えに必要な取水管理、乾期の水利用、苗代に対する家畜被害や稲・稲穂に対する害虫・鳥獣被害、雨期の稲刈り

② マーケットの課題

農家にとってコメの市場機会が見えにくく、他の収入源（年金、建設労働、海外への出稼ぎ）による収入があること

③ 農家自身のマインドセット

農家は実際に成功事例を見るまで新たな技術を採用しない傾向がある

以上の指標結果によると、成果 1 の中間レビュー時点での達成レベルは、現行の二つの指標結果を基に判断すると低いといえる。しかしながら、成果 1 の活動を実施するアプローチが当初の計画から大幅に変更されたため、現行の設定指標で成果 1 の達成を判断することは適切でない。したがって、成果 1 の達成は変更アプローチに基づいて改訂された指標により判断することが提案される。

成果 2 :	灌漑施設の維持管理能力が強化される。
指標 :	2-1. 主要灌漑施設において、土砂堆積物を除くための共同作業の輪番制が構築され、水利組合がプロジェクト対象地域において少なくとも 1 年継続して運営される。 2-2. 維持管理研修の参加者の 80% が研修内容の 80% を理解する。

指標 2-1 の現時点での結果に関し、ブルト及びマリアナ I 灌漑地区において、灌漑施設の土砂堆積物を除くための共同作業の輪番制はまだ構築されていない。ただし、両灌漑地区とも 2019 年の雨期が始まる前に、一部の幹線水路において土砂堆積物の除去作業が行われ、マリアナ I 地区では農家グループにより一部の支線水路でも除去作業が行われている。両灌漑地区における水利組合は、ブルト地区では灌漑施設の改修工事が完了した 2017 年初めに、マリアナ I 地区では施設完成時の 2009 年にそれぞれ MAF の働きかけにより設立されたが、マリアナ I 地区の水利組合は設立後 1~2 年後には機能しなくなり、ブルト地区の水利組合は設立以来、実質的に機能していない。よって、指標 2-1 の中間レビュー時点での達成レベルは低いといえる。

ブルト灌漑地区における困難な水管理の状況は、二つの課題を含んでいる。一つ目は、近代的な灌漑施設が導入された際に、水管理における伝統的なメカニズムの再構築が十分にされなかった点である。伝統的には水路ごとに伝統的水管理人 (Kabuwee) を中心として、水配分や施設維持管理を農家自身が担っていたが、政府によって造られた近代的灌漑施設に対してはこのようなメカニズムが

十分に整備されなかった。その結果、近代的な灌漑施設により水の利用機会は格段に向上したものの、多くの農家が水の配分状況に失望するようになった。二つ目は、新しく灌漑化された地区と既存の伝統的な灌漑地区を一つのシステムとして結び付けたことにより、新しい水システムにおいて各支線水路に平等に水を配分することに困難を抱えている点である。従来は支線水路単位での水管理のみが必要であったが、新しいシステムにおいては支線水路間での水の配分調整が必要となる。

プロジェクトでは、ブルト灌漑地区に位置する 5 村の代表者から成る調整委員会を設立して規則の制定支援を行ったが、プロジェクトの残り期間で制定プロセスの最終化と規則の実施支援を行う計画である。

指標 2-2 の現時点での結果に関し、本プロジェクトにおいて水利組合メンバーに対する灌漑施設の維持管理研修は行われておらず、同研修参加者の理解度に関するデータは収集されていないため、指標 2-2 の達成レベルを判断することはできない。

2018 年 2 月に亜細亜大学の角田教授により、灌漑施設の維持管理状況を把握するための調査が実施され、その調査結果を基に、同年 5 月に維持管理能力強化のための戦略ペーパーが作成された。同教授は 2019 年 2 月に再びブルト灌漑地区において集中的な調査を行い、灌漑施設の維持管理は既存のコミュニティによる機能を活用する形で進めていくことが有効だと提案された。今後の成果 2 の活動は、この提案を踏まえて実施されることになっている。

以上の指標結果によると、成果 2 の中間レビュー時点での達成レベルは、成果 1 同様、現行の二つの指標結果を基に判断すると低いといえる。しかしながら、二つの設定指標のデータが実質的に得られていないため、成果 2 の達成レベルを判断することは困難である。成果 1 同様、成果 2 の活動を実施するアプローチも当初の計画から大幅に変更されたため、現行指標で成果 2 の達成を判断することは適切でなく、成果 2 の達成も変更アプローチに基づいて改訂された指標により判断することが提案される。

成果 3 :	コメのブランド化を通じ、国産米の流通・販売システムが構築される。
指標 :	3-1. プロジェクトによりブランド化された国産米の精米 3,000t (もみ 5,000t) が、プロジェクト終了までに流通販売システムを通じてブルト、マリアナ I で販売される。 3-2. 農家組合マネジメント研修、マーケティング研修、精米・加工・梱包研修の各研修参加者の 80%が研修内容の 80%を理解する。

指標 3-1 の現時点での結果に関し、ブルト地区における対象農家により生産されたコメは、バウカウ県をベースにしている民間業者であり、米国へのキャンドルナツ油の輸出事業を手掛けているアセルダ社により買い取られている。アセルダ社は 2014 年に国産米の販売事業を始めたが、バウカウ県周辺だけではなくマリアナ地域の農家からもコメを調達していた。同社ではコメの販売事業を始めてから、主にディリ市内のスーパーマーケットやバウカウ県にある自社商品の販売店で買い取ったコメを販売していたが、プロジェクトの支援により、ホテルやレストランへの直接販売を始めるようになった。

他方、マリアナ I 地区における対象農家により生産されたコメは、ボボナロ県をベースにしている農家組合であるチャクブ組合により買い取られている。チャクブ組合は 2016 年に MAF の農業通商局の支援を受けて再組織化され、プロジェクトの支援によりマリアナ I 地区の農家からコメの買い取り事業を始めた。チャクブ組合で精米されたコメは、国産米のロゴマークを付けたパッケージで梱包

され、マリアナ及びディリのホテルやレストランに販売されている。

表－5は、アセルダ社とチャクブ組合によるコメの買い取り量（もみベース）を示す。

表－5 アセルダ社及びチャクブ組合によるコメの買い取り量（もみベース）

		2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	計
アセルダ社	コメの買い取り量 (t)	(22.5)	(91.2)	(96.6)	46.9	253.7	300.6
	買い取りの対象農家数	-	-	-	200	358	558
	合計買い取り額 (USD)	-	-	-	24,816	101,492	126,308
チャクブ 組合	コメの買い取り量 (t)	-	-	-	39.6	72.4	112
	買い取りの対象農家数	-	-	-	38	89	127
	合計買い取り額 (USD)	-	-	-	15,554	30,389	45,943

出所：プロジェクト提供資料

注：プロジェクト開始前のアセルダ社の2014年、2015年、2016年のデータは、コメの買い取り量（精米ベース）をもみベースに換算した量であり、合計値には含めていない。チャクブ組合は本プロジェクトの開始後にコメの買い取りを始めたため、2016年以前のデータはない。

表－5のとおり、ブルト及びマリアナで買い取られたコメ（もみ）の合計量は、プロジェクト開始後から中間レビュー時点までで412.6 tである。現時点での販売量は、目標値である5,000 tの10分の1以下の量であるが、そもそも両地区で販売用に生産されているコメの量は1,000 tにも満たないため、精米3,000 t（もみ5,000 t）という目標値の設定自体が非現実的な数値であるといえる。さらに、東ティモールの現在のコメ市場において国産米の需要は非常に小さいため、国産米の販売量を増加させる余地は限られている。よって、中間レビュー調査団は、指標3-1は実際の供給能力及び市場での需要を踏まえ、より現実的な目標値を設定することを提案する。

成果3の活動に関連し、2018年10月に沖縄での「ファーマーズ・マーケットの設立・運営」研修コースに参加したMAF農業通商局スタッフの主導により、2019年5月にディリ市内にファーマーズ・マーケットが開設される予定となっている。これによりブルト及びマリアナI地区の農家は、アセルダ社とチャクブ組合に加えてもう一つコメの販売チャネルを得ることができ、新しいチャネルを通じて今後コメの販売量が増えることが見込まれる。

指標3-2の現時点での結果に関し、農家組合に対するマネジメント研修、マーケティング研修、精米・加工・梱包研修等は、チャクブ組合のメンバーやアセルダ社の社員、MAF農業通商局スタッフに対して行われているものの、それらは日々のOJTとして実施されている。よって、各研修の参加者による研修理解度に関するデータは収集されていない。本指標についても、成果3の達成を判断する指標としては適切でないと考えられるため、現行の指標3-2に代わって別の指標を設定することを提案する。

以上の指標結果によると、成果3の中間レビュー時点での達成レベルは、成果3の活動は順調に実施されているにもかかわらず、現行の二つの指標結果を基に判断すると低いといえる。上述のとおり成果3に設定されている現行指標は適切ではないため、成果3の達成も改訂した指標により判断することが提案される。

成果4：	政府のコメ買い取り・配布システムが改善される。
指標：	4-1. 家畜飼養の割合が50%以下に減少する。 4-2. コメの備蓄管理における5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）研修の参加者の80%が研修内容の80%を理解する。

指標4-1の現時点での結果に関し、本指標のデータはNLCによって収集されていないため、指標の達成レベルを判断することは不可能である。本指標は成果4の達成を判断するには適切でないと考えられるため、別の指標を設定することが提案される。成果4の達成を判断するには、NLCによる国産米の買い取り量の増加を測る量的指標を設定することが望ましい。

NLCは、東ティモールにおいて国産米と輸入米両方の買い取り及び販売を行っており、本プロジェクトの開始以来、予算の制約により価格の高い国産米を買い取ることが困難な状態が続いていたが、2018年に新しく就任した首相の国産米振興策により、2019年には10,000tの国産米を買い取る予算がNLCに対して承認された。これにより、2019年以降はより多くの農家がNLCにコメを売る機会を得ることが期待される。10,000tのうち、200tは教育省の学校給食プログラム（School Feeding Program）に供給されることが計画されている。

さらに、NLC長官の話によると、今後NLCが国産米を買い取る際には、ブルト及びマリアナI灌漑地区の農家から優先的に買い取ることを計画しているため、プロジェクト対象地域におけるコメの販売量は、2019年の最初の収穫時以降、増加することが見込まれる。このようなポジティブな傾向を受け、プロジェクトとNLCは、対象地域の農家からのコメ買い取りを促進させる協力について、2019年2月に協議の場を設け、両者で今後とるべき活動を示した共同行動計画を作成した。

指標4-2の現時点での結果に関し、コメの備蓄管理における5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）研修が、2019年2月11日～13日に実施された。ベボラ倉庫、マリアナ倉庫、ティバル倉庫のマネージャーやワーカーを含むNLCのスタッフ22名、MAF農業通商局のスタッフ5名、教育省の学校給食プログラム担当スタッフ3名、チャクブ組合及びアセルダ社から各2名、世界食糧計画（World Food Programme）のスタッフ1名、計35名が5S研修を受講した。

研修の最終日に受講者の理解度テストが行われたが、その結果を表-6に示す（0～20点のスコアで採点）。

表-6 5S研修受講者の理解度テストの結果

スコア	8点	11点	12点	15点	16点	17点	18点	19点	20点	合計人数
研修受講者数	1名	1名	1名	5名	1名	2名	2名	11名	11名	35名

出所：プロジェクト提供資料

上記のテスト結果を踏まえると、研修受講者35名中、27名が80%の目安である16点以上を獲得し、受講者の77%が研修内容の80%を理解したことになり、目標値の80%にわずかに届かない結果となった。ただし、5S研修は1回実施されたのみのため、関係者がコメ備蓄管理のノウハウを理解するには今後も繰り返し同研修を実施することが必要である。

上記の指標結果によると、中間レビュー時点における成果4の達成レベルは妥当といえるが、成果4の達成についても、指標4-1は改訂することが望ましいため、改訂した指標によって判断することが提案される。

成果5：	MAF 主導の下、本プロジェクトの活動が南部地域などの他県関係者に共有される。
指標：	5-1. プロジェクト活動に関する会合やワークショップが、東ティモールの南部地域など他県の関係者を対象に定期的に開催される。 5-2. プロジェクト活動に関する研修が、東ティモールの南部地域など他県の関係者を対象に少なくとも 11 回行われる。

指標 5-1 の現時点での結果に関し、東ティモールの南部地域など他県関係者を対象にした会合やワークショップ等の開催は、プロジェクトの後半期間に実施される予定である。同様に、指標 5-2 の研修もこれから実施される予定である。

成果5の活動は、他の成果がある程度達成されたあとに実施される予定のため、成果5の達成状況は活動の実施後に判断する必要がある。

3-4 プロジェクト目標の達成見込み

上述の成果同様、中間レビュー時点におけるプロジェクト目標の進捗状況やプロジェクト終了までの達成見込みについては、主に PDM でプロジェクト目標に設定された指標の現時点での達成レベルを基に判断する。

プロジェクト目標の設定指標と各指標の中間レビュー時点での結果を以下に示す。

プロジェクト目標：	コメのバリューチェーン（生産、製造・加工、流通、販売・消費）の改善を通じて、プロジェクト対象地域の農家世帯のコメ生産による収入が増加する。
指標：	ブルト及びマリアナ I 灌漑地区の農家世帯の平均年間収入が 50%増加する。 (注：50%の増加のうち、コメ生産による収入増が 36%増、他の収入源による増加が 14%増により達成される)

ブルト及びマリアナ I 灌漑地区の農家の平均年間収入に関し、2017 年に実施されたベースライン調査で得られたデータ及び 2018 年に農家対話の一環で実施されたフォローアップ調査で得られたデータは、表-7 のとおり。

表-7 ブルト及びマリアナ I 灌漑地区における農家の平均年間収入

(単位：USD)

灌漑地区	2017 年		2018 年		増加率	
	コメの 販売収入	他の収入源 による収入	コメの 販売収入	他の収入源 による収入	コメの 販売収入	他の収入源 による収入
ブルト	114	3,472	119	-	4%	-
マリアナ I	213	3,337	183	-	-14%	-
両地区	183	3,378	165	-	-10%	-

出所：ベースライン調査レポート及び第 2 回農家対話レポート

注：2018 年の他の収入源による収入データは、第 2 回農家対話において収集されなかったため、入手不可。

表－7のとおり、2018年のコメの平均年間販売収入は、2017年に比べて10%減少している。コメの販売収入が減少している主な理由は、成果1の指標1-1の結果でみたように、プロジェクト対象地域におけるコメの生産量の減少によるものと考えられる。加えて、2018年にはアセルダ社とチャクブ組合によるコメの買い取り量が増加したものの、フォローアップ調査は2018年初めに実施されたため、この買い取り増加分は2018年の販売収入データには反映されていないことも影響していると考えられる。

さらに、プロジェクトの構造として、成果1及び成果2を通じてコメの生産量増加が達成されたとしても、成果3及び成果4によりコメの販売量増加が達成されなければ、農家はコメの販売収入を増加させることはできないといえる。

現行の指標結果を踏まえると、中間レビュー時点でのプロジェクト目標の達成レベルは低いといえる。成果3及び成果4の達成を通じ、プロジェクト終了までに対象地域の農家によるコメの販売量が増えない限り、プロジェクト目標を達成することは難しいといえる。

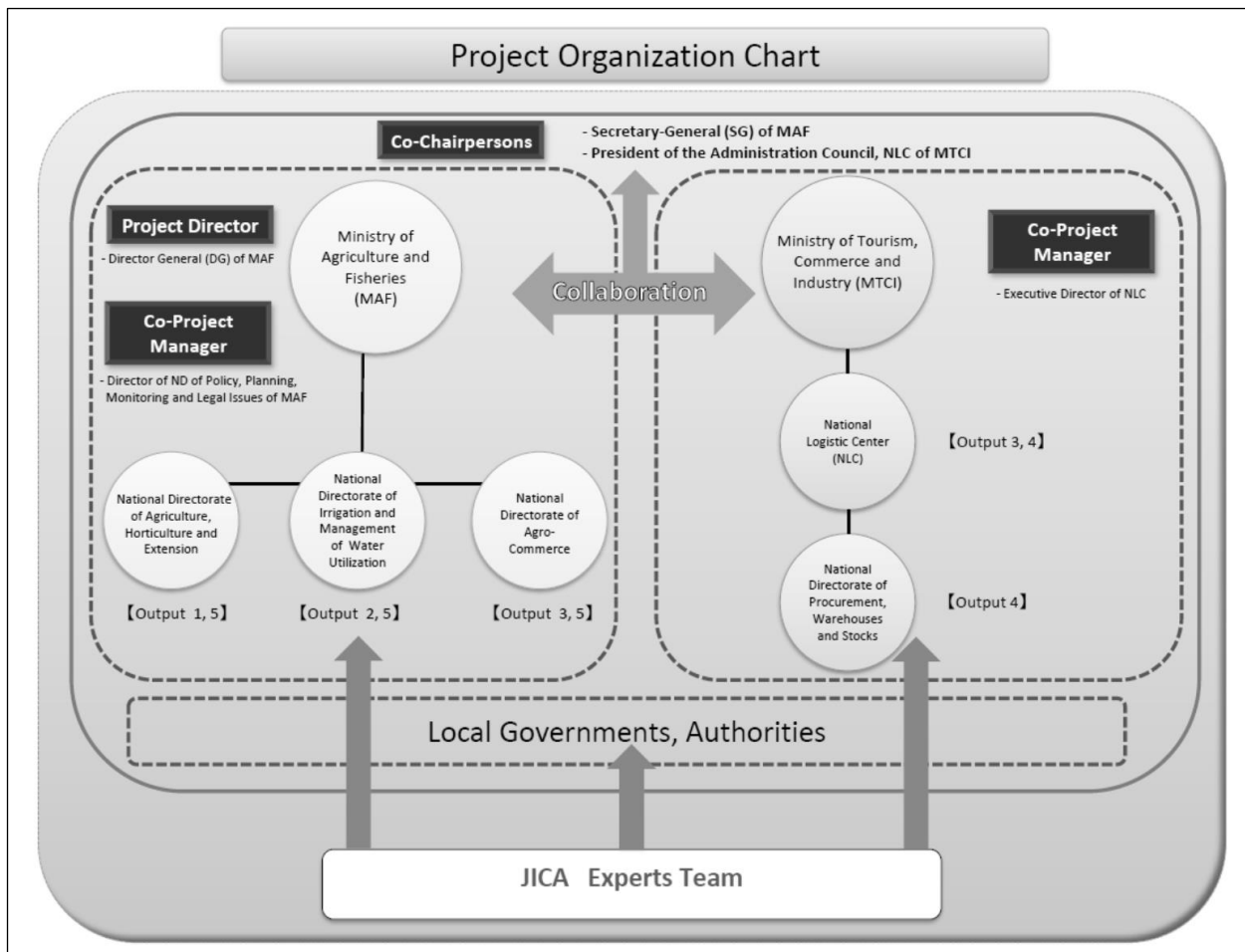
3－5 実施プロセス

3－5－1 プロジェクトの実施体制

本プロジェクトの実施機関は、MAFとMTCI傘下のNLCである。MAFは三つの部署がプロジェクトにかかわっており、農業・園芸・普及局が成果1、灌漑・水管理局が成果2、農業通商局が成果3を担当している。NLCは主に成果3と成果4にかかわっているが、NLCの調達・倉庫・備蓄局が特に成果4を担当している。

上記の実施機関に加え、プロジェクト対象地域であるブルト及びマリアナI灌漑地区にある3県（バウカウ県、マナツト県、ボボナロ県）の農業局及び同局所属の農業普及員、郡役場、村役場等の地方自治体関係者も、県・郡・村レベルの公的セクター関係者としてプロジェクト活動に関与している。

プロジェクトの実施体制図を図－3に示す。



出所：プロジェクト提供資料

図－3 プロジェクトの実施体制図

3-5-2 プロジェクトの運営状況

プロジェクト全体の運営体制として、合同調整委員会（Joint Coordinating Committee：JCC）が設置されており、各機関の調整、年間ワークプランの承認、全体の進捗レビュー、プロジェクトのモニタリング・評価、プロジェクト実施中に生じた課題に関する意見交換等を行っている。JCCのメンバーは、MAF次官とNLC長官が議長を務め、MAF及びNLC関係者、JICA専門家、JICA東ティモール事務所関係者で構成されている。JCC会合は年2回、中間レビュー時点で5回、計画どおり開催されており、プロジェクトの進捗状況や課題がメンバーに報告・共有されている。

一方、JCC会合や他の定例会議は計画どおり開催され、プロジェクトの進捗や課題が関係者に共有されているものの、プロジェクトの各活動が当初のPDMから大幅に変更されて実施されており、これらのレビューはPDMを踏まえて実施されていない。

加えて、プロジェクトでは年2回、「モニタリング・シート」という報告書を作成・提出することになっており、モニタリング・シートではPDM及びPOに基づき、これまでどの活動が行われ、どのような効果が発現しており、どのような改善課題があるのか等を報告することになっている。モニタリング・シートはこれまで計画どおり提出されているが、プロジェクトの活動やアプローチの変更については十分な説明がなされていない。

さらに、プロジェクトの実施機関はMAF及びNLCであるが、特に成果1と成果2の活動につ

いては、MAF と NLC よりも地方自治体関係者やプロジェクト雇用のスタッフにより主に実施されている。

上記の実施運営状況から、本プロジェクトは PDM に基づいた運営や実施機関の巻き込みが十分にはなされていないと考えられ、プロジェクトの後半期間では、本中間レビューにおいて提案される改訂 PDM に基づいた運営を行っていくこと、またプロジェクト完了後、東ティモール側が生じた効果を他の地域にも広めていくためにも MAF 及び NLC の関与をより高めていくことが必要だといえる。

3-5-3 プロジェクトの効果発現に対する貢献要因及び阻害要因

(1) 貢献要因

本プロジェクトにおいて、効果の発現や円滑な活動の実施に貢献している要因として、以下が挙げられる。

1) 新首相による国産米振興に対する後押し

東ティモールで 2018 年 6 月に新しく就任した首相は、就任以来、強力な国産米振興策を進めている。2018 年 12 月にブルト及びマリアナ I 灌漑地区で行われた田植え式には MAF の大臣が出席し、プロジェクト対象地域の農家が栽培カレンダーに従って田植えを行うことを大いに促進した。2019 年 2 月には国産米振興の戦略に関するハイレベル会合が行われ、首相主導の下、NLC の国産米買い取り用の追加予算が承認された。

首相夫人もチャクブ組合からコメを購入しており、チャクブ組合と提携ホテル・レストランによるコメ買い取り契約の署名セレモニーにも出席するなど、国産米の振興に積極的な支援を行っている。

これら首相及び首相夫人による国産米振興に対する強力な後押しは、農家の稲作に対するモチベーションの向上及びプロジェクトの効果発現に貢献している。

2) MAF によるチャクブ組合への積極的な支援

チャクブ組合は 2002 年に農家組合として設立されたのち、2009 年から活動休止状態になっていたが、2016 年に MAF の支援により再組織化され、プロジェクト活動を通じて MAF 所有の農業センターの建物を事務所兼倉庫として無償貸与されるなど、MAF から多大な支援を受けている。プロジェクトによって同組合はマリアナ I 地区の農家からコメを買い取るようになり、同地区における農家のコメの販売量増加や販売収入増加に貢献している。

3) アセルダ社による国産米振興に対する積極的な支援

アセルダ社はもともとキャンドルナツ油の輸出ビジネスを手掛けていたが、同社社長による国産品の生産を促進する方針の下、2014 年から国産米の販売を手掛けるようになった。国産米販売ビジネスは同社にとってまだ利益の低い事業ではあるものの、国産品促進の方針の下、ブルト地区の農家からもみを買取することを約束しており、プロジェクトにおけるコメの販売増加に貢献している。

(2) 阻害要因

プロジェクトにおいて、効果の発現にネガティブな影響を及ぼしたり、活動の円滑な実施を阻害したりした要因として、以下が挙げられる。

1) 近年の東ティモールのコメ市場における輸入米優位の傾向

東ティモールでは、上述のとおり農家の稲作に対するモチベーションの低下により、国産米の生産量及び耕作面積が減少している。一方、主にベトナム及びタイからのコメの輸入量が国産米の流通量に反比例して急増しており、それぞれ輸入米量のおよそ 80%、18% を占めている。東ティモールでは国産米の販売価格は輸入米のおよそ 2 倍であるため、消費者は安い輸入米をより多く購入している。このように、東ティモールのコメ市場における国産米需要の低下が、プロジェクトにおけるコメの生産量増加を阻害している。

2) 東ティモールにおける国産米振興に対する長期戦略及び明確な政策措置の欠如

近年、東ティモールでは流通しているコメの 8 割が輸入米であり、上記のとおり、輸入米のほとんどはベトナム及びタイから来ている。輸入米の消費者物価は国産米のほぼ半分となっているため、東ティモールにおける国産米の収穫後バリューチェーンは開発段階のごく初期にあるといえる。東ティモール政府は 2020 年までの食料自給達成の目標を掲げているものの、十分に練られた長期戦略の策定及び明確な政策措置の実施なくしてはこの目標は達成できない。これら国産米振興に対する長期戦略及び明確な政策措置、さらに目標を実現するための予算措置の欠如が、プロジェクトにおけるコメの生産量増加を妨げている。

3) プロジェクト対象地域の農家の稲作に対するモチベーションの低下

プロジェクト対象地域の農家は、コメを販売するために生産する意欲が低い。農家の稲作に対する低いモチベーションの理由として、①高い生産コスト及び低い販売利益、②コメ販売以外の他の収入源からの安定した収入、③コメ市場へのアクセスの少なさ、が挙げられる。

2017 年に実施されたベースライン調査において、1,519 世帯の農家を対象に得られたデータによると、コメの平均販売収入、平均生産コスト、平均収益は、それぞれ 183 USD、238 USD、-55 USD であり、稲作による収益は赤字であった。加えて、同じ調査により得られたデータでは、1,519 世帯の稲作以外の平均収入は 3,378 USD であった。稲作以外の収入源は、給料（固定給、日雇いによる臨時給）、年金、野菜や家畜等の販売などであり、コメの販売以外の収入割合が非常に多かった。さらに、同調査のデータによると、対象農家の 69% が自身で生産したコメを販売していなかった。よって、農家は大量のコメを生産したとしても、コメを販売する市場へのアクセスが限られていることを意味している。

これらの理由により、農家はコメの販売を通じて収入を増やす意欲が低下している。東ティモールでは近年、多くの農家が自家消費のためだけにコメを生産するようになっており、コメの耕作放棄地が拡大している。このように、農家の稲作意欲の低下がプロジェクトにおけるコメの生産促進を困難にしている。

4) ブルト灌漑施設の改修及び新しい水利組合の設立による伝統的な灌漑管理機能の喪失

ブルト灌漑施設の改修工事は 2017 年初めに完了し、改修施設の維持管理を行う新しい水利組合が組織された。ブルト地区では施設改修前、**Kabuwee** と呼ばれる伝統的な水管理人による灌漑施設の管理が行われていたが、新しい水利組合の設立により、**Kabuwee** による伝統的な管理機能が失われることとなった。これにより、プロジェクトにおいて水利組合に対する維持管理能力を強化する活動の実施が困難になり、成果 2 の低い達成状況の原因となった。

第4章 評価5項目による評価結果

本章では、評価5項目の観点からプロジェクトを評価する。各評価項目の判定については、「高い」「やや高い」「中程度」「やや低い」「低い」の5段階で評価する。

4-1 妥当性

本プロジェクトの妥当性は、以下の理由により「やや低い」と判断される。

(1) 東ティモールの開発政策との整合性

本プロジェクトは、東ティモールの国家開発計画及び農業セクター開発計画の目標と整合している。現在の東ティモールの国家開発計画は「戦略的開発計画 2011年～2030年 (Strategic Development Plan 2011-2030 : SDP)」であり、農業セクターを経済開発における最も重要なセクターの一つと位置づけている。同計画では、開発目標として営農技術の向上や食料生産の向上、主食食料であるコメの自給率の向上等が挙げられており、2020年までの食料自給達成を目標としている。

農業セクターの開発計画である「MAF 戦略計画 2014年～2020年 (MAF Strategic Plan 2014-2020)」は、国のコメ生産増加における具体的な目標を設定しており、2023年までに国内のコメの耕作面積を 50,000 ha まで拡大すること、コメ市場における国産米の比率を 70% まで増加させることを目標としている。

よって、本プロジェクトの目的は、東ティモールの開発政策に沿うものである。

(2) 日本のODA政策との整合性

本プロジェクトは、日本の対東ティモール援助政策とも整合している。外務省「対東ティモール民主共和国 国別開発協力方針」(2017年5月策定)において、SDP及び「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」との整合性を踏まえ、援助の基本方針として「持続可能な国家開発の基盤づくり支援」が掲げられている。加えて「産業の多様化の促進」が重点分野の一つに位置づけられ、石油・天然ガス依存型経済からの脱却に不可欠な産業の多様化のため、農水産を含む産業の育成及び効率化の促進、産業人材育成のための支援を行うことが明記されている。

さらに上記方針の下、策定された「対東ティモール民主共和国 事業展開計画」(2018年4月策定)では、「産業多様化の促進」の重点分野における開発課題として「産業多様化開発」が設定されており、本プロジェクトは同開発課題における「産業多様化プログラム」の一環として実施されている。同プログラムでは、農林水産資源を含む産業分野の支援を通じて産業の多様化に資する支援、産業の多様化に必要な社会的弱者や持続性等の視野を含めた政策や制度を企画できる人材の育成に資する支援を行うことが計画されている。

よって、本プロジェクトの目的は、日本の対東ティモール援助政策に沿うものである。

(3) 東ティモールの国産米をとりまく状況

上記のとおり、プロジェクトの目的である国産米振興は東ティモールの開発政策と一致して

いるが、現状において、東ティモール政府により上記の政策を実現させるための具体的・実質的な措置はとられていない。

近年の東ティモールにおける国産米生産の動向について、最近 7 年間の東ティモールのコメの生産量、耕作面積、単収を表－8に示す。

表－8 東ティモールのコメの生産量、耕作面積、単収（もみベース）

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
生産量 (t)	98,297	119,166	85,334	88,822	60,361	35,361	36,982
耕作面積 (ha)	35,561	35,589	26,373	28,483	18,281	10,745	11,861
単収 (t/ha)	2.76	3.35	3.24	3.12	3.30	3.34	3.12

出所：National Directorate of Agriculture, Horticulture and Extension, MAF, Global Trade Atlas 2017

表－8のとおり、コメの生産量、耕作面積とも過去 7 年間で急激に減少しており、2017 年時の両データとも、2011 年時のデータに比べて 3 分の 1 近くに減っている。一方、単収は 3.2 t/ha 前後で変化していない。

反対に、コメの輸入量は表－9のとおり、最近 7 年間で急激に増加している。

表－9 東ティモールのコメ輸入量（もみベース）

(単位：t)

2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
62,114	100,653	139,671	222,274	300,000	115,786	143,344

出所：National Directorate of Agriculture, Horticulture and Extension, MAF, Global Trade Atlas 2017

表－10 は、2011 年～2017 年の東ティモールの人口動態を示している。表のとおり、東ティモールの人口は年々増加している。

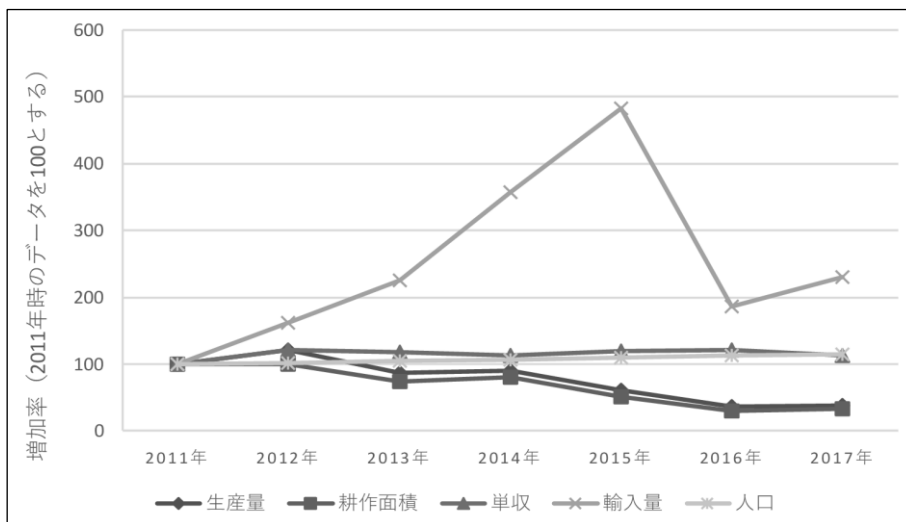
表－10 東ティモールの人口

(単位：人)

2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
1,131,523	1,156,760	1,184,366	1,212,814	1,240,977	1,268,671	1,296,311

出所：Timor-Leste – World Bank Open Data <<https://data.worldbank.org/country/timor-leste>>

上記の表をすべて一つの図にまとめると、図－4のとおりになる。



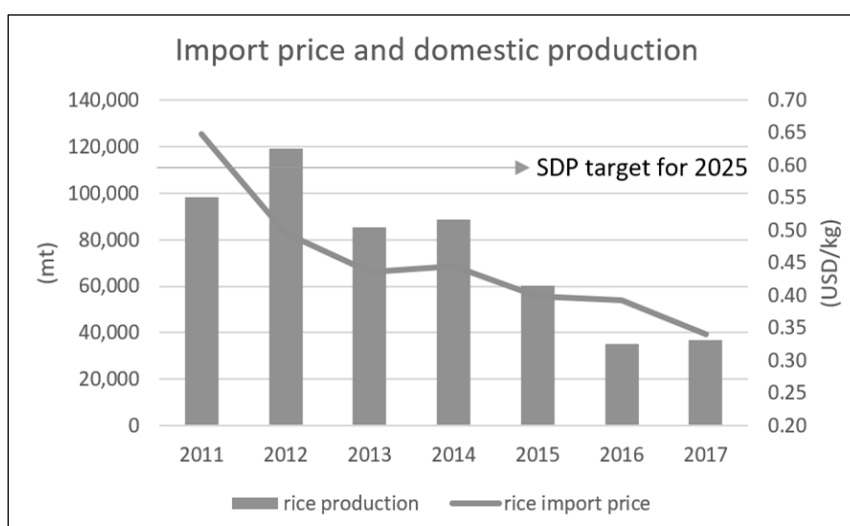
出所：中間レビュー調査団作成

図－４ 東ティモールにおける近年のコメ市場の傾向

図－４のとおり、近年、東ティモールでは人口増加に伴ってコメの消費量も増加しているものの、国産米の生産量は減っており、主にベトナムやタイからの輸入米量が増えている。国産米の市場価格は輸入米の2倍近いため、安い輸入米が消費者により購入されている。

「第3章 3-5-3 プロジェクトの効果発現に対する貢献要因及び阻害要因」で述べたとおり、国産米の生産量及び耕作面積の減少の主な理由は、農家のコメ販売のための生産意欲が低下していることによる。農家にとっては、低い収益性をもつコメの販売収入を増加させるよりも、他の収入源を創出したり、他の収入源からの収入を増加させたりする方が合理的だといえる。

図－５は、国産米の生産量と輸入米の価格が比例していることを明確に示している。



出所：FAOSTAT, UN-Comtrade, National Directorate of Agriculture, Horticulture and Extension, MAFの資料を基に中間レビュー調査団作成

図－５ 輸入米価格と国産米生産量との関係

上記の状況を克服するため、輸入米に対して国産米の競争力を十分につけさせる必要があるが、ベトナムの整備されたタネ配布システム、三期作の適用、耕運機・田植え機・稲刈り機で機械化された営農、高い肥料の活用率、高度で大規模な精米加工、運河を利用した低コストの輸送システムなど、コメのバリューチェーン全体と比較すると、東ティモールではバリューチェーンのすべての段階が未開発だといえる。よって、競争力をつけるには1年や2年でなく10年以上のスパンが必要なうえ、公的・民間セクターからの多大な投資も必要とする。このため、まずは政府が競争力強化に向けた長期的な戦略を立てることが必要であり、開発の初期段階を支援するため、政府は国境における輸入品規制のようなシンプルな生産性向上以外の対策をとる必要がある。学校給食プログラムやファーマーズ・マーケット、段階的に生産性の違いを埋め合わせる補助金システムのような国産品用のマーケット創出を行うことが必要である。

以上の要素を総合的に考えると、本プロジェクトは非常に厳しい状況に置かれており、プロジェクト実施の妥当性を弱めているといえる。政府が過渡的措置として国産米と輸入米の競争格差を埋めるようコメ市場に介入しなければ、現行の輸入米優位の状態を覆すことは非常に難しく、これはプロジェクトの及ぶ影響を超えた外部条件といえる。

(4) 開発ニーズとの整合性

本プロジェクトの目的は、コメの販売収入増加を通じて農家の収入を増やすことである。国産米の生産量増加は東ティモール政府のニーズを満たしており、収入増加は農家のニーズを満たしている。しかしながら、上述のとおり、東ティモールにおいて現在生産されているコメはほとんどが自家消費用であり、国内で販売されている国産米の量は年々減少している。

加えて、東ティモールにおいて輸入米は国中に広く流通・販売されているため、輸入米の流通・販売システムは既に構築されているものの、国産米の流通・販売システムは構築されていない。よって、同国において国産米の流通・販売システムを構築・強化させるニーズは非常に高いのに比べ、農家にとってコメの生産を増加させるニーズは低いといえる。この点において、プロジェクトは東ティモール政府の開発ニーズを満たしているものの、コメの生産量を増加させることにも現在のマーケット状況でコメを販売することにも関心のない農家の開発ニーズは直接満たしていないといえる。

(5) プロジェクトアプローチ・デザインの適切性

本プロジェクトは、東ティモールにおける国産米の生産量増加及び国産米市場の拡大を通じて農家のコメ販売による収入増加を達成するようデザインされている。プロジェクトのデザインは生産増加とマーケット拡大の両方の要素をカバーしており、適切であるといえる。

一方、国産米市場の拡大は、農家のコメ販売収入増加の達成にとって不可欠な要素であり、たとえ国産米の生産量が増加したとしても、市場の拡大なしには収入増加は実現できないため、プロジェクトは両要素のうち国産米市場の拡大をまず達成する必要があることに留意すべきである。しかしながら、上述のとおり、政府が過渡的措置として国産米と輸入米の競争格差を埋めるようコメ市場への介入を行わなければ輸入米優位の傾向を覆すことは難しく、これはプロジェクトの影響が及ばない外部条件であるといえる。

プロジェクトのアプローチに関し、前章で述べたように、農家がコメをより生産し、販売しようという意欲が低下しており、現場での実際の状況把握を通じて、当初計画されたアプローチは

あまり効果的でないことが判明した。プロジェクトの有効性・持続性を高めるため、一部の活動はプロジェクトアプローチの変更に伴って変更され、特に成果 1 及び成果 2 の活動は当初の計画内容から大幅に変更された。両成果の活動は、農家対話を踏まえて試行錯誤のプロセスを繰り返しながら実施されている。

中間レビュー調査団は、変更されたプロジェクトのアプローチを基に改訂した PDM 案を提案したが、プロジェクトの残り期間では、改訂した PDM に沿ってプロジェクト活動が実施されることになる。

4-2 有効性

本プロジェクトの有効性は、中間レビュー時点で判断するのは困難である。

「第 3 章 3-4 プロジェクト目標の達成見込み」で述べたように、プロジェクト終了までにプロジェクト目標を達成するためにはさらなる努力を必要とするものの、同じく同節で述べたように、プロジェクトはたとえ成果 1 及び成果 2 を通じてコメの生産量増加を達成したとしても、成果 3 及び成果 4 の達成がなければ農家のコメの販売収入を増加させることは難しい。

さらに、上述のとおり、成果 3 の活動は順調に進んでいるものの、東ティモールにおいて比較的高価な国産米の潜在市場規模は、現状では依然として非常に限定的であるため、政府が過渡的措置として国産米と輸入米の競争力の格差を埋めるような効果的な政策をとらなければ、増産させたコメのすべてを成果 3 及び成果 4 の活動を通じて吸収することができなくなる。だが、このような政策措置はプロジェクトで扱える範囲を超え、外部条件だといえる。

よって、プロジェクトは非常に厳しい前提条件の下で実施されており、東ティモール政府が国産米振興に係る政策を実現させるための措置をとらなければ、コメのバリューチェーン強化を通じて農家のコメの販売収入を増やすというプロジェクト目標を達成することは難しい。したがって、プロジェクト目標を達成するためには、東ティモール政府による国産米振興における長期戦略の策定及び明確な政策措置の実施が必要不可欠である。

このように、東ティモールの現在のコメ市場環境において、コメの生産を増加させ、農家のコメの販売収入の増加をめざすことは非常にハードルが高いため、プロジェクトのめざす方向としては、ニッチ戦略を追求し、中流層以上のコメ購買客をターゲットにしたニッチ市場を開拓することも一つのオプションとして考えられる。加えて、今後プロジェクトの有効性をより高めるためには、プロジェクトの残り期間で中央政府との政策対話を行い、東ティモール政府が国産米振興に係る政策を実施するよう積極的に働きかけることが強く推奨される。

4-3 効率性

本プロジェクトの効率性は、中間レビュー時点で判断するのは困難である。

プロジェクトの効率性は、これまでに投入されたインプットのレベルと産出されたアウトプットのレベルを比較することにより判断される。「第 3 章 3-1 投入実績」で述べたように、成果 2 及び成果 4 の担当専門家はフルに投入されていないが、日本側・東ティモール側ともおおむね計画どおり投入は行われている。

同時に、「第 3 章 3-3 成果の達成状況」で述べたように、中間レビュー時点で投入がフルに

行われていないとしても、プロジェクト対象地域における農家の稲作に対する低いモチベーションにより、成果1及び成果2のアウトプット産出レベルは低いといえる。

しかしながら、成果1及び成果2のアウトプットはプロジェクトの後半期間で明確な形となって現れることが見込まれるため、プロジェクトの効率性は現時点で判断するのではなく、残りの期間で産出されたアウトプットの達成レベルを基に判断することが望ましい。

4-4 インパクト

本プロジェクトのインパクトは、中間レビュー時点で判断するのは困難である。

(1) 上位目標の将来的な達成見込み

上位目標及びPDMで設定された指標は、以下のとおり。

上位目標：	コメの生産向上による収入増加を通じて、プロジェクト対象地域の農家世帯の生計が向上する。
指標：	バウカウ県、マナツト県、ボボナロ県の農家世帯の平均年間所得が2021年～2026年の間に32%増加する。 (注：32%の増加のうち、コメ生産による収入増が18%増、他の収入源による増加が14%増により達成される)

上位目標とその設定指標は、プロジェクト目標とその設定指標と対象範囲が異なるというだけではほぼ同じである。プロジェクト目標の対象がブルト及びマリアナI灌漑地区の対象農家（直接受益者）であるのに対し、上位目標の対象はバウカウ県、マナツト県、ボボナロ県の農家（間接受益者を含む）である。

中間レビュー時点において上位目標の将来的な達成見込みを予想することは困難であるが、プロジェクト完了後に上位目標を達成するための条件として、東ティモール政府が国産米振興・保護政策を実現させるための政策措置を行うことが必要であることは、明確である。よって今後、政府が国産米振興における長期戦略を策定し、明確な政策措置を行うことが必要である。さらに、プロジェクト目標の達成と同様、農家が高品質のコメを購入する購買者層をターゲットとしてコメを生産し、コメの販売収入を増やすことをめざすことも推奨される。

(2) その他のインパクト

中間レビュー時点において、環境や社会配慮面などを含め、本プロジェクトによる政治的、社会的、経済的なプラスまたはマイナスのインパクトは報告されていない。プロジェクトの残り期間においても、プロジェクトによるプラスまたはマイナスのインパクトが生じることは考えにくい。

4-5 持続性

本プロジェクトの持続性は、中間レビュー時点で判断するのは困難である。

(1) 政策・制度面

東ティモール政府はSDP及びMAF戦略計画の下、今後も国産米振興を優先する政策を維持

し続けることが見込まれる。さらに、「第3章 3-5-3 プロジェクトの効果発現に対する貢献要因及び阻害要因」で述べたとおり、2018年6月に就任した新首相は強力な国産米振興策を進めており、2019年2月には国産米振興の戦略に関するハイレベル会合が行われ、首相主導の下、NLCの国産米買い取り用の追加予算が承認された。よって、プロジェクト期間中、東ティモールにおいて国産米振興に対する政策的な支援が続くことは期待されるが、「第3章 3-5 実施プロセス」や「4-1 妥当性」でも述べたように、政府によって長期戦略及び明確な政策措置が同意・導入されなければ、これらの政策的な支援は推進力を失うことになる。

(2) 組織面

プロジェクトでは、特に郡や村レベルの地方自治体を積極的に巻き込み、これら自治体と農家の間の良好関係を築くことを促している。同時に、「第3章 3-5-2 プロジェクトの運営状況」で述べたように、プロジェクトの前半期間では、プロジェクト活動のうち特に成果1及び成果2の活動は地方自治体やプロジェクト雇用スタッフの主導により進められており、中央の実施機関であるMAFやNLCの関与が少なかった。よって、プロジェクトの組織的な持続性の観点から、プロジェクトの残り期間においてはMAFやNLCの関与をより高める形で活動を実施していき、中央及び地方政府が国産米の生産及び販売を増やすメカニズムを引き継ぐことができるようなシステムを提案していくことが望まれる。

(3) 財政面

これまでのプロジェクト期間中、MAF及びNLCとも、プロジェクト活動の継続的な実施に必要な予算を確保・遅延なく配賦することは難しい状況にあった。「第3章 3-1 投入実績」で述べたとおり、2018年6月に行われた大統領選挙とそれに伴う政権交代により、2018年の予算配賦は大幅に遅延した。しかしながら、「第3章 3-5-3 プロジェクトの効果発現に対する貢献要因及び阻害要因」で述べたとおり、新しく就任した首相主導の下、NLCが国産米を買い取るための追加予算が承認された。プロジェクト目標を達成するにはNLCへの継続的な国産米買い取り用の予算配分が必要であり、新首相による予算措置はプロジェクトにとって大きな追い風となる約束であるため、プロジェクトの残り期間中、この約束が確実に履行されるよう注意を払う必要がある。

(4) 技術面

プロジェクト対象地域の農家、ブルト及びマリアナ灌漑地区の水利組合、チャクブ組合など、プロジェクトのすべての対象者の技術的・組織的能力はまだ向上の余地があり、プロジェクトでは、これら対象者の能力強化を引き続き行う必要がある。特に、「第3章 3-3 成果の達成状況」の成果1で述べたように、対象農家や関係者によって具体的な技術的課題が幾つか挙げられたため、プロジェクトでは今後、関係者に対してこれらの技術的課題を解決するための方策を示していく必要がある。

4-6 結論

上述の中間レビュー調査における検証の結果、本プロジェクトは、現行のPDMを基に各成果の達成状況やプロジェクト目標の終了までの達成見込みを判断することは困難であり、中間レビュー時

点における評価5項目の観点からの評価を行うことも困難である。

一方、中間レビュー調査団は、本プロジェクトが外部条件により非常に厳しい状況下で実施されているものの、農家のモチベーションを高めるために地方自治体を巻き込みつつ協働して取り組み、以下に掲げるようなさまざまな効果を生み出していることも確認した。

成果1及び成果2に関しては、地方関係者の協働関係が促進され、ブルト及びマリアナI灌漑地区の対象農家の20%以上が、提案する栽培カレンダーに従うこととなった。また、ブルト灌漑地区では地方自治体リーダーの主導の下、灌漑水の共同管理に関する話し合いの場もたれた。

成果3に関しては、国産米の販売チャンネルはアセルダ社とチャクブ組合との協力により安定的に増えており、ホテルやレストラン、他のチャンネルを通じた国産米の販売促進活動は、農家の収入向上にある程度貢献している。

しかしながら、プロジェクト目標を達成するためには東ティモール政府による国産米振興に係る長期戦略の策定及び明確な政策措置の実施が必須であり、プロジェクトの残り期間において、政府が同政策を実行に移す努力を引き続き行うことが必要である。

第5章 提言と教訓

5-1 提言

上述の結果を踏まえ、中間レビュー調査団は以下のとおり提言を行った。

(1) 政策の実施に関する提言

- 東ティモール政府は、農業・農村開発の初期段階における国産米振興に係る政策を実行に移す。

「第4章 4-1 妥当性」の「(3) 東ティモールの国産米をとりまく状況」で述べたとおり、現状において、東ティモール政府により国産米振興・保護に係る政策を実現させるための具体的・実質的な措置はとられていない。しかしながら、政府による措置なくしてはプロジェクト目標を達成することは難しく、東ティモール政府が本課題に対処するために努力することが強く推奨される。具体的には、2019年及び2020年に学校給食プログラム用に少なくとも合計3,000tの国産米を購入すること、輸入米に対して低関税率割当を導入することを計画するなどの措置をとることなどが推奨される。

- プロジェクトチームは、MAFとNLCを含むタスクフォースと政策対話を行い、東ティモール政府の国産米振興に係る政策実施を促進する。

上記の提言を踏まえ、日本側はMAF及びNLCと政策対話を行い、政府の国産米振興に係る政策実施を促進することが必要である。そのため、成果4及び成果5の活動実施をサポートする長期または短期専門家の配置が提案される。専門家の配置は2名必要と考えられ、1名の専門家は東ティモールのコメ政策に対し、過渡的措置として輸入米に対する低関税率割当を導入することの可能性についての議論や助言を行うことが期待され、もう1名の専門家は、NLCが農家からコメを買い取る際に遅延せずに支払いを行うことや、購入したコメを倉庫に適切に備蓄するなどのロジスティクスの支援をサポートすることが期待される。

(2) 農家への共同アプローチに関する提言

- プロジェクトチームは、プロジェクトの持続性を確保するため、東ティモールの普及方法に統合させる形で活動を実施することを検討する。

MAF 農業・園芸・普及局の局長によると、農家対話による現場の状況把握を通じて、東ティモールにおける国産米普及の課題として以下の9点の課題が挙げられる。

1. 広大な耕作放棄地
2. 二期作の未実施
3. 低い生産性
4. 生産の欠如
5. 稲作技術（伝統的技術、Good Agricultural Practice : GAP)
6. 肥沃でない土壌（資金不足による化学肥料の非適用)
7. 低品質なコメ
8. マーケットの欠如

9. 貧弱な生産コスト管理

上記に加え、「第3章 3-3 成果の達成状況」の成果1で述べた三つの課題（技術的課題、マーケットの課題、農家自身のマインドセット）にも留意する必要がある。

プロジェクトでは、MAFとプロジェクトチームとの議論を踏まえてこれらの課題を吟味し、対策を検討する必要がある。また、既存のGAPに基づく指導やFarmers Field Schoolで指導されている稲作技術の一部は、これらの課題に対処するうえで効果的である可能性があるため、プロジェクトでどの技術が対策として適用できるか精査する必要がある。さらに、プロジェクトが農家の資金負荷及び労働負荷を避けるために最小限の技術を特定したことを踏まえたうえで、技術の普及の有効性を検討することも重要である。

- 農業普及員をプロジェクト対象地域における普及・モニタリング活動により参加させるようにする。

東ティモールでは、基本的に村ごとに1名の農業普及員が配置されており、プロジェクト対象地域では、ブルト及びマリアナI灌漑地区にある10村にそれぞれ配置されているほか、県レベルに1名のシニア農業普及員、郡レベルに各村の普及員を統括する普及員1名も配置されている。プロジェクトでは、現場で活動を実施するうえでこれらの普及員と協力関係にあるものの、農家対話の実施や暦の正常化・直線植え・除草などの指導、農家のモニタリングとフォローアップなど、農家に直接関与する活動は主にプロジェクト雇用スタッフにより実施されている。プロジェクト完了後の持続性の観点から、10村を担当する農業普及員をプロジェクト対象地域の農家を対象にした普及・モニタリング活動により参加させることが推奨される。加えて、現場の営農活動に若者を積極的に巻き込んでいくことも、プロジェクト活動のよりよい促進に資する選択肢として提案される。

(3) マーケットに関する提言

- プロジェクトは東ティモールにおけるプレミアム米市場を開拓するために、コメの生産量増加だけでなく質の向上にも取り組んでいく。

国産米の輸入米に対する競争力をつけて販売を増加させるためには、国産米の市場拡大や生産量の増加だけでなく品質も向上させることが重要である。東ティモールの現在の国産米市場では、異なる品種のコメや破碎米も混ざった状態で売られている。よって、プロジェクトにおいてコメの品質基準を設定し、高級品市場をターゲットにできるようコメの品質を向上させていくことが必要である。

(4) プロジェクトの実施体制に関する提言

- プロジェクト対象地域の地方自治体も実施機関に加える。

現在のプロジェクト実施機関はMAFとMTCI傘下のNLCであるが、プロジェクト対象地域にあるバウカウ県、マナツト県、ボボナロ県のMAF事務所、ベマッセ郡、ラレイア郡、マリアナ郡の郡役場などの地方自治体も、変更後のプロジェクトアプローチの下、プロジェクト活動における重要なプレーヤーやファシリテーターの役割を果たすことが期待される。よって、改訂PDMにおいてこれらの地方自治体も実施機関に加えることとし、プロジェクトにおける地方自治体の関与を明文化させることが推奨される。

(5) プロジェクトの運営に関する提言

- 現行の PDM (Version 1.0) は、プロジェクトで行われたさまざまな変更に基づいて改訂し、残りのプロジェクト期間では改訂された PDM に基づき活動を実施・モニタリングしていく。
プロジェクトにおいて、現状に合わせてアプローチや活動内容を変更し、活動に農家対話を取り入れたことはよいものの、適切なプロジェクト運営の観点から、これらの変更は PDM の改訂に反映されるべきである。中間レビュー調査団は、プロジェクト実施中になされた変更に基づいて改訂 PDM を提案したが、PDM はプロジェクトに対する関係者の共通理解を図るために重要なツールであるため、プロジェクトの運営は PDM を基に行うことが推奨される。残りのプロジェクト期間において、今後実施される活動、進捗や成果の達成状況、解決すべき課題や今後の方針について、改訂された PDM に基づいてモニタリング・レビューが行われるべきである。

5-2 教訓

中間レビュー調査団は、本プロジェクトの実施により以下の教訓を得た。

- 農家対話プロセスを通じた必要最小限の技術の設定

プロジェクトは、農家対話を通じて稲作に対する農家のモチベーション低下の課題を把握した。対話プロセスを通じ、プロジェクトはアウトプットを算出するための鍵となる活動として、暦の正常化を設定した。暦の正常化の採用率は依然として高くはないものの、このアプローチは、生産性を上げ、休耕期に市場機会を得るために過剰なインプット（労働及び資本）を必要としないという点において、農家による導入が期待できるアプローチといえる。同アプローチは実施の初期段階のため採用率はまだ低いですが、今後、成果 3 及び成果 4 におけるコメの販売方法と組み合わせて増やしていく必要がある。

付 属 資 料

1. 中間レビュー調査日程
2. 中間レビュー調査団ミニッツ
3. JCC ミニッツ
4. 評価グリッド

1. 中間レビュー調査日程

Schedule of Mid-term Review

Date	Day	Mr. Kenichi SHISHIDO (Leader)	Mr. Shiroshi NAKADA (Agricultural Policy)	Mr. Shuji SEGAWA (Cooperation Planning)	Ms. Sawa HASEGAWA (Evaluation Analysis)	Venue
2019/3/4	Mon				Leave Tokyo 12:20 Arrival at Dili	
2019/3/5	Tue				14:30 MAF DG 15:00-17:00 Project members	Dili
2019/3/6	Wed				9:30-10:30, Attend the 1997A session by Professor Kakuia 13:00-14:00 Meeting with JICA TL 14:15-15:30 Meeting among HC, JICA TL Office and experts Move from Dili to Maliana	Dili --> Maliana (4hrs)
2019/3/7	Thu				08:00 MAF Director of Maliana (MAF Office), 09:00 Suro Chief (MAF Office), 10:00 Suro Chief (MAF Office), 10:00 Suro Chief (MAF Office), 14:00 NUA President (his residence), 15:30 Suro Chief in Hoba (Suco Office), 16:00 President CAAKUB (CAAUB Office)	Maliana
2019/3/8	Fri				08:30 Mr. Jonas Borges (Farmer 1) (his residence), 10:00 Mr. Paulino Noron (Farmer 2) (his residence), 14:00 Ms. Maria (Farmer 3) (her residence), 15:00 Mr. Cosme Soares (Farmer 4) (his paddy field)	Maliana
2019/3/9	Sat				08:00 - 10:00 Site Visit	Maliana --> Dili (4hrs)
2019/3/10	Sun				Documentation	Dili
2019/3/11	Mon				08:00 AM Move from Dili to Buluto 10:30 Sub-district Administrator in Lala, Manatuto (Mr. Simão da Costa), 11:20 Sub-district Administrator in Vemasse, Baucau (Mr. Sebastião F. de A. Correia) PM Site Visit	Dili --> Buluto (3hrs)
2019/3/12	Tue				08:30 Caicua Suco Chief (Mr. Geraldo Romaldo da Costa), 11:00 MAF Director in Baucau (Mr. Augustino Eusebio Gueres), 14:00 Director of ACELDA (Mr. Higinio Freitas)	Buluto
2019/3/13	Wed				08:30 Mr. Domingos Gusmão (Farmer 1), 10:00 Mr. Jacinto Sebastião Viegas (Farmer 2), 14:00 Mr. Simão Soares (Farmer 3), 15:30 Mr. Gil Onofre Soares (Farmer 4)	Buluto
2019/3/14	Thu				08:30 Extensionista in Ligage Suco (Mr. Americo de Costa Soares) 08:30 Extensionista in Hauralea Suco (Mr. António de Sousa Correia) 10:30 President of Farmers Association in Laleia (Mr. Alfredo João Viegas) PM Move from Buluto to Dili	Buluto --> Dili (3hrs)
2019/3/15	Fri				08:30 NLC, Director of Procurement & warehouses visit (bebora, itbar)	Dili
2019/3/16	Sat				14:20 Arrival at Dili 16:00 Briefing	Dili
2019/3/17	Sun				12:20 Arrival at Dili 14:30 Discussion among team members	Dili
2019/3/18	Mon				08:30 Meeting with TL evaluators @JICA TLM Move from Dili to Buluto 12:30 Site visit 14:30 Sub-district Administrator in Vemasse, Baucau 15:30 Suco Chief in Caicua	Dili --> Buluto (3hrs) Dili separately
2019/3/19	Tue				08:30 Suco Chief in Haur-Ralan 09:30 Sub-district Administrator in Laleia, Manatuto	Buluto and Dili separately
2019/3/20	Wed				08:30 MAF Director in Manatuto Municipality Move from Buluto to Dili (2.5hrs) 13:00 Discussion in Evaluators	Dili
2019/3/21	Thu				08:00 MAF Director of Extension (discussion) 09:30 NLC, Director of Procurement (discussion) 16:00 MAF, Director of Agro-Commerce (discussion)	Dili
2019/3/22	Fri				09:00 MAF, Director of Irrigation (discussion) 11:00 WFP 16:00 Report on rice processing products (Ms. Shiba) @ JICA TL Office 17:30 Discussion with project members	Dili
2019/3/23	Sat				12:20 Arrival at Dili Meeting among team members	Dili
2019/3/24	Sun				Discussion with project members	Dili
2019/3/25	Mon				10:00 NLC President, Executive Director 14:30 Discussion with MAF 1, Ministry, 2, SG, 3, DG.	Dili
2019/3/26	Tue				Harvest Ceremony in Buluto Finalizing Evaluation Report	Dili
2019/3/27	Wed				08:00-12:00 JCC	Dili
2019/3/28	Thu				14:30 Embassy of Japan/ Ambassador of Japan to Timor-Leste (Mr. Minami)	Dili
2019/3/29	Fri				13:20 Departure from Dili Arrival at Tokyo	Dili

**MINUTES OF MEETING
BETWEEN
MIDTERM REVIEW TEAM
AND
MINISTRY OF AGRICULTURE AND FISHERIES
MINISTRY OF TOURISM, COMMERCE AND INDUSTRY
OF THE DEMOCRATIC REPUBLIC OF TIMOR-LESTE
ON
THE PROJECT FOR INCREASING FARMERS HOUSEHOLDS' INCOME
THROUGH STRENGTHENING DOMESTIC RICE PRODUCTION IN TIMOR-
LESTE**

The Midterm Review for the Project for Increasing Farmers Households' Income through Strengthening Domestic Rice Production in Timor-Leste (hereinafter referred to as "Project") was conducted from 4th to 28th March 2019. As a result of discussions, the Midterm Review Team, Ministry of Agriculture and Fisheries (hereinafter referred to as "MAF") and National Logistic Center (hereinafter referred to as "NLC") recorded the points stipulated in the attached document.

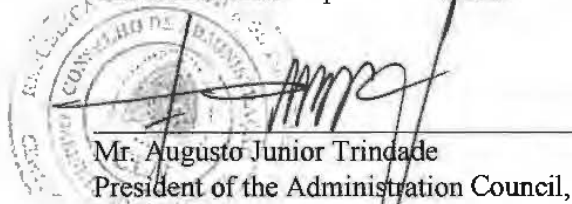
Dili, March 28, 2019



Mr. Shishido Kenichi
Director General,
Rural Development Department,
Japan International Cooperation Agency
Japan

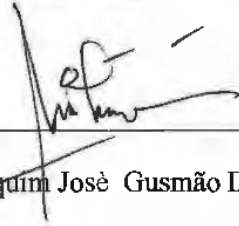


Ms. Maria Odete do Céu Guterres
Director General for Agriculture,
Ministry of Agriculture and Fisheries,
The Democratic Republic of Timor-Leste



Mr. Augusto Junior Trindade
President of the Administration Council,
National Logistic Center, Ministry of
Tourism, Commerce and Industry
The Democratic Republic of Timor-Leste

Witness:



H.E. Mr. Joaquim José Gusmão Dos Reis
Martins
Minister for Agriculture and Fisheries

The Attached Document

Joint Midterm Review

JICA dispatched the Japanese Midterm Review Team (hereinafter referred to as “the Japanese Team”), headed by Mr. Shishido Kenichi, to Timor-Leste from 4th March to 28th March 2019, for the purpose of conducting the Joint Midterm Review for the Project in accordance with the Record of Discussions of the Project.

The Joint Midterm Review Team (hereafter referred to as the Team), which consists of members from the Japanese Team and the Timor-Leste Team, headed by Mr. Belchior Nunes Cardoso, was jointly organized for the purpose of conducting the Midterm Review.

After review and analysis of the activities and achievements of the Project, the Joint Midterm Review Team prepared the Joint Midterm Review Report.

Main results and recommendations were explained by the Joint Midterm Review Team according to the summary document attached as ANNEX I.

1. Key achievements observed by the Midterm Review Team

1.1 Promoting collaboration at local level in Buluto and Maliana I through “Farmers’ Dialogue” and “Normalization of Crop Calendar”

Through “Farmers’ Dialogue”, key issues of rice cultivation were identified. In order to facilitate collaboration among stakeholders including farmers, suco and aldeia chiefs, municipality and sub-municipality administrators and to build mutual trust among them, the “Normalization of Crop Calendar” was also introduced as a core activity to promote rice cultivation by farmers.

1.2 Promotion of domestic rice through market expansion

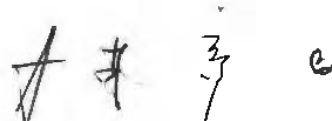
A total income of USD 172,251 has been generated in total through sales of rice in 2017 and 2018 in Buluto and Maliana. With support from MAF and the Project, domestic rice purchase by CAAKUB and ACELDA has increased, and the market has also been expanded to restaurants, hotels, and farmers’ market.

Further market expansion is expected in the second half of the project period, through expansion of market channels and promotion of domestic rice consumption also with strong support from the Prime Minister.

2. Negative factors for realization of project effects

2.1 Recent trend of a prominent position of imported rice in the rice market of Timor-Leste

While the production amount as well as the harvested area of domestic rice have been decreasing in Timor-Leste due to the low motivation for rice cultivation among farmers mentioned above, the amount of imported rice mainly from Vietnam and Thailand has rapidly increased. Since a price of domestic rice is almost double of imported rice, people are likely to consume the cheap imported rice. The less demand of domestic rice in the rice market of Timor-Leste has discouraged the project to increase the production amount of rice.



2.2 Insufficient long-term strategy and clear policy measures to promote domestic rice in Timor-Leste

The consumer price of imported rice is almost half of domestic rice, so post-harvest and value chain for domestic rice is still in the very early stage of development. Although the government has a policy to be self-sufficient in 2020, it cannot be achieved without a well-designed long-term strategy and clear policy measures. Insufficient long-term strategy, policy measures, as well as budget to realize the target have discouraged the project to increase the production amount of rice. Dependency and distrust among stakeholders was also generated through external driven interventions in the past.

2.3 Low motivation for rice cultivation among farmers in the project sites

Farmers in the project sites are not so motivated to cultivate rice for sale. There are three main reasons for low motivation among farmers; i.e. 1) high production cost and low profit of rice sales, 2) having enough income sources other than rice sales, and 3) little access to the rice market.

3. Key recommendations made by the Midterm Review Team

All parties agreed to conduct activities following recommendations by the Mid-term Review Team.

3.1 Policy Implementation

The Timorese government should implement the policy on domestic rice protection; e.g. purchasing at least a total of 3,000 ton of domestic rice in 2019 and 2020 for School Feeding Program, etc.

The Project should promote policy dialogue with MAF and NLC to encourage them to implement the policy; e.g. future policy option to promote domestic rice (tax for import rice, expansion of purchase system etc.)

Possible policy measures were explained by the Team based on ANNEX II.

3.2 Approach to Farmers (Collaborative Approach)

All stakeholders should work together to motivate the farmers. The Taskforce for promoting production and purchase of domestic rice should discuss detailed plan for policy implementation among relevant ministries, while local leaders and farmers should work together to promote production of rice.

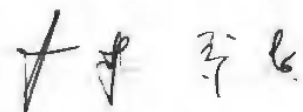
The project should also integrate its activities into Timor-Leste's extension system for future sustainability (e.g. more involvement of extension officers, Farmers Field School). The project should also transfer appropriate techniques identified through close dialogue with local farmer.

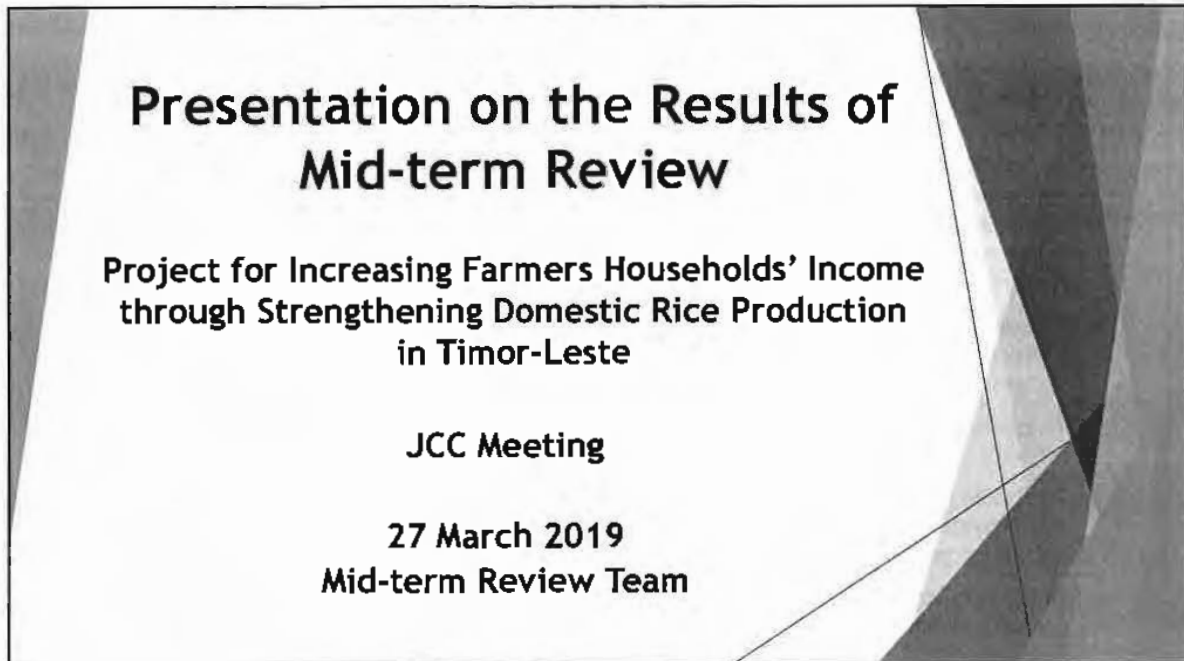
3.3 Market Expansion

The project is recommended to work through not only an increase in production amount but also improvement in quality of rice to develop a premium rice market. At the current situation of rice price, expected amount of demand for domestic rice is around 700 tons. It means that either the government should purchase the rest of domestic rice, or implement appropriate policies to change the current situation of the rice market in Timor-Leste.

The End of the Document

ANNEX I: Summary of the Mid-term Review
ANNEX II: Note on possible policy measures





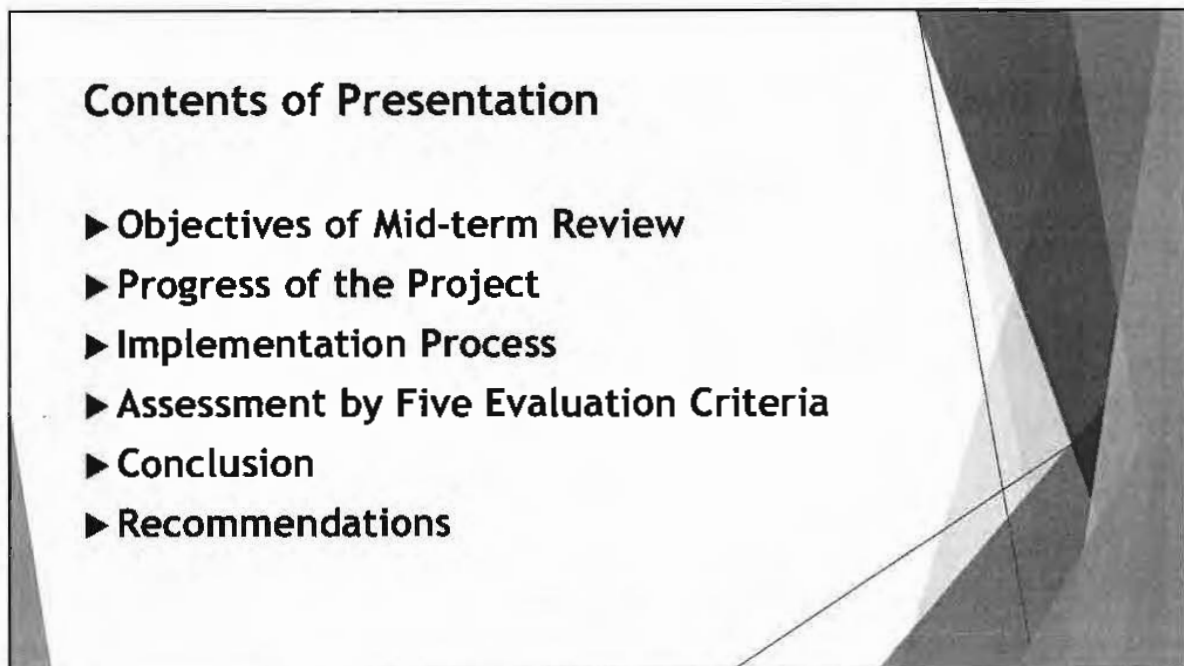
**Presentation on the Results of
Mid-term Review**

**Project for Increasing Farmers Households' Income
through Strengthening Domestic Rice Production
in Timor-Leste**

JCC Meeting

27 March 2019
Mid-term Review Team

1



Contents of Presentation

- ▶ **Objectives of Mid-term Review**
- ▶ **Progress of the Project**
- ▶ **Implementation Process**
- ▶ **Assessment by Five Evaluation Criteria**
- ▶ **Conclusion**
- ▶ **Recommendations**

2

Handwritten signatures and initials

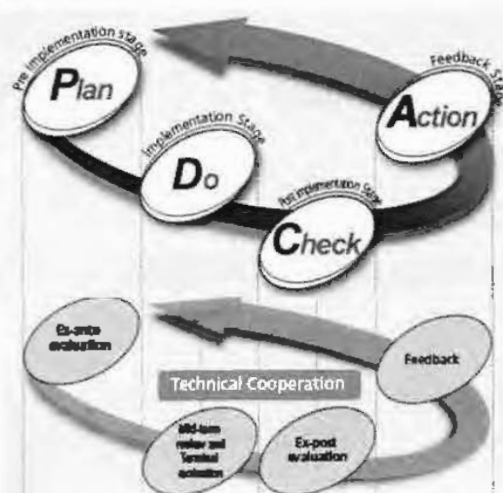
1

Objectives of Mid-term Review

- ▶ To review progress of the project (inputs provided, activities implemented and outputs produced to date) on the basis of Project Design Matrix (PDM) and Plan of Operation (PO), and assess current achievements of Outputs as well as a future prospect for achievement of Project Purpose
- ▶ To examine the current project management structure as well as the project implementation process and identify obstacles and/or enabling factors which have been affecting the implementation
- ▶ To assess the project from the viewpoint of Five Evaluation Criteria, i.e. relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability
- ▶ To discuss measures to be taken for the project's further improvement and provide recommendations on the measures to be taken in the remaining project period
- ▶ To identify lessons learned useful for future projects and/or other ongoing projects as necessary

3

Evaluation in Project Management



4

Progress of the Project

Expected Outputs of the Project (based on the PDM ver.1)

- ▶ Output 1: Improvement of cultivation techniques for increasing rice production in the project sites
- ▶ Output 2: Strengthening of capability of operation and maintenance (O&M) for irrigation facilities of Buluto and Maliana I
- ▶ Output 3: Establishment of system(s) of domestic rice distribution/sales for the rice branded by the project
- ▶ Output 4: Improvement of the rice purchasing/distribution system of the government
- ▶ Output 5: Dissemination of the project effects to other municipalities under the initiative of MAF

5

Progress of the Project (Continued)

Current Implementation Status of the Project Outputs

- ▶ Output 1: Working together with local stakeholders, 649 farmers in Buluto and Maliana I participated in socialization workshops on the Normalization of Crop Calendar in 2018 and 366 farmers followed the normalization of crop calendar.
- ▶ Output 2: The activities are to be implemented according to the proposals based on the survey results conducted by the Professor Kakuta from Asia University. Rules and regulations for usage of irrigation are being discussed among stakeholders in Buluto.
- ▶ Output 3: 685 farmers in Buluto and Maliana I sold 412.6 ton of paddy rice through ACELDA and CAAKUB and they got income of 172,251 USD in 2017 and 2018.
- ▶ Output 4: 35 persons concerned participated in 5S (Sort, Straighten, Shine, Standardize, and Sustain) training for rice storage management in February 2019.
- ▶ Output 5: To be implemented

6

A f a

3

Observation by Mid-term Evaluation Team

Project Management Situation

- ▶ Activities especially for Output 1 and 2 have been implemented with more participation of the local government and project staff employed by the project.
- ▶ Project identified practical approach through Farmers Dialogue, to set normalization of cropping calendar as core activities to link farmers, local/national governments and the project.
- ▶ More participation and involvement of MAF and NLC are expected in the second half of the project so that the Timor-Leste side can expand the project effects to other areas after the end of the project.

7

Observation by Mid-term Evaluation Team

Factors That Promoted the Realization of Project Effects

- ▶ New Prime Minister's Support for promotion of domestic rice
- ▶ MAF's support for CAAKUB
- ▶ ACELDA's support for promotion of domestic rice

Factors That Inhibited the Realization of Project Effects

- ▶ Recent trend of a prominent position of imported rice in the rice market of Timor-Leste
- ▶ Insufficient long-term strategy and clear policy measure to promote domestic rice, particularly ;
 - a. The rice purchasing / distribution system does not work well
 - b. Dependency and distrust among stakeholders generated through external driven interventions in the past
- ▶ Low motivation for rice cultivation among farmers in the project sites
- ▶ Diversified economic opportunity drive down farmer's interest in rice farming, especially for young
- ▶ Loss of functioning traditional irrigation management after revision of Buluto irrigation facilities and establishment of new organization of WUA

8

Assessment by Five Evaluation Criteria

Relevance

- ▶ The project is consistent with the development policy of Timor-Leste “Strategic Development Plan (SDP) 2011-2030” “MAF Strategic Plan 2014-2020” and Japan’s ODA policy for Timor-Leste
- ▶ However, measures to realize the policy of domestic rice promotion have not been substantially taken by the Timorese government in the current situations.
- ▶ While the project largely meets the development need of the Timorese government, which is development and improvement of a domestic rice distribution and sales system, it does not directly meet the development need of farmers who have neither interest in increasing production amount of rice nor interest in selling their rice under the current market situations.
- ▶ The project design is appropriate in that the project covers both components of an increase in production amount of domestic rice and an expansion of the domestic rice market in Timor-Leste.

⇒The project is placed under severe situations and the relevance of the project is undermined.

9

Assessment by Five Evaluation Criteria

Effectiveness

- ▶ Even if the project achieves the increase in rice production amount through Output 1 and 2, it would be difficult to increase the farmers’ income from rice sales without achievement of Output 3 and 4.
- ▶ Despite the positive progress in Output 3, the potential market size is very limited under the current situations and thus, it is difficult to absorb all the increased production through the market unless the government impose effective policy to fill the competitiveness gap between domestic and imported products in a stepwise manner, which is an external condition beyond realm of the project.
- ▶ It is considered that the project has been implemented with very severe pre-conditions and that it is difficult to achieve Project Purpose unless the Timorese government take measures to realize the policy of domestic rice protection.

⇒Long-term strategy and clear policy measures to promote domestic rice by the Timorese government are necessary to achieve Project Purpose.

10

A # 3. a

5

Assessment by Five Evaluation Criteria

Efficiency

- ▶ Output 1 and 2 are to be produced in the second half of the project, so it is better to assess the efficiency of the project based on the levels of all Outputs produced in the rest of the project period.

⇒ It is difficult to judge the efficiency of the project as of the time of Mid-term Review.

Impact

- ▶ Long-term strategy and clear policy measures to promote domestic rice by the Timorese government are necessary to achieve Overall Goal after the end of the project.

⇒ It is difficult to judge the impact of the project as of the time of Mid-term Review.

11

Assessment by Five Evaluation Criteria

Sustainability

- ▶ Policy and institutional aspects: Although the political support for the domestic rice promotion is expected to be sustained in Timor-Leste, this support may lose its momentum unless long-term strategy and clear policy measures are agreed and introduced in the government.
- ▶ Organizational aspect: The project is proposed to implement activities with more participation of MAF and NLC in the rest of the project period to promote a system that the national and local governments can take over the mechanism for technology transfer, especially for Farmers Dialogue.
- ▶ Financial aspect: Continuous budget allocation for NLC to purchase domestic rice is necessary.
- ▶ Technical aspect: The technical capacity of all the target of the project including farmers in the project sites, WUA at Buluto and Maliana I, CAAKUB, etc. still needs to be improved so that it is necessary for the project to continuously make efforts for their capacity development.

12

Conclusion

- ▶ Based on the findings of the Mid-term Review, the Review Team concludes that it is difficult to assess current achievements of Outputs and a future prospect for achievement of Project Purpose as well as to assess the project from the viewpoint of Five Evaluation Criteria as of the time of Mid-term Review.
- ▶ On the other hand, the Review Team observed that the project been producing many effects in collaboration with local authorities in order to motivate farmers and work together effectively.
- ▶ For achievement of the Project Purpose, long-term strategy and clear policy measures to promote domestic rice by the Timorese government are necessary.

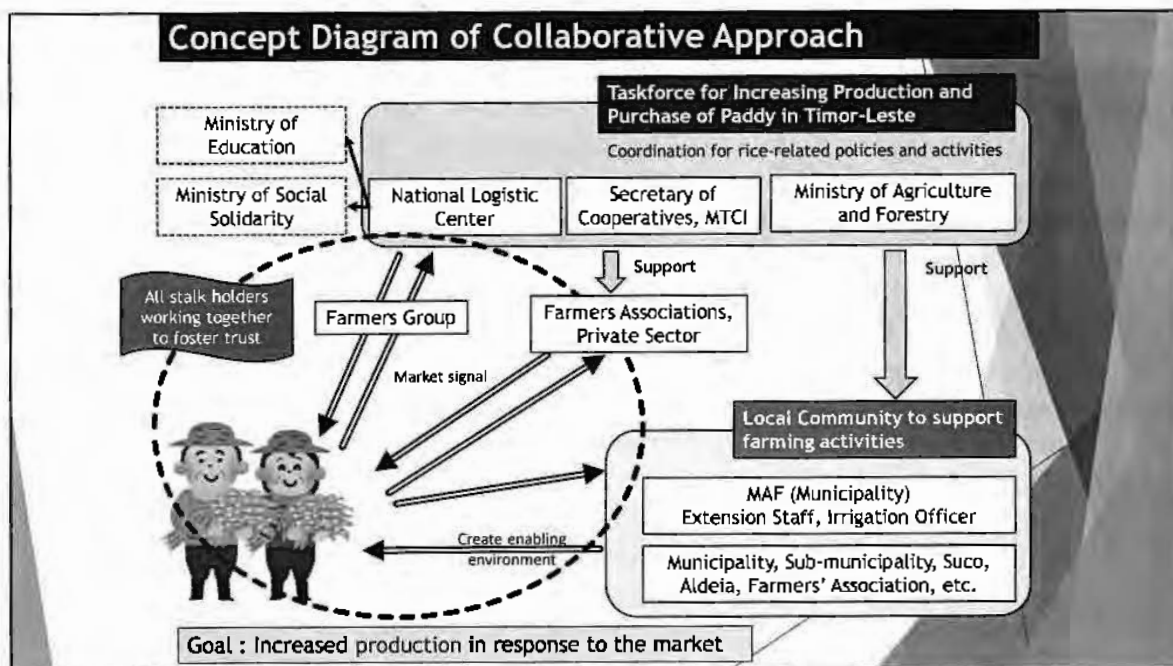
13

Taking a Collaborative Approach for Agriculture in Timor-Leste

- ▶ Through farmer's dialogue, it was identified that key issues which demotivate farmer in rice farming was dependency and distrust among stakeholders generated through external driven interventions in the past.
- ▶ By recognizing above situation, in order to increase farmers' income through improvement of rice value-chain, each stakeholder must understand their role and responsibility and work together.
- ▶ Central role should be played by farmers, with the support from local government and leaders through technical guidance, community management and information sharing
- ▶ The role of the central government is to support local government and farmers by implementing appropriate policies.

14

Handwritten signatures and initials, including a large signature and the number 7.



15

Recommendations

1. Policy Implementation

- ▶ The Timorese government is recommended to implement the policy on domestic rice protection; e.g. purchasing at least a total of 3,000 ton of domestic rice in 2019 and 2020 for School Feeding Program, etc.
- ▶ The project is recommended to promote policy dialogue with Taskforce including MAF and NLC to encourage them to implement the policy on domestic rice protection.

16

Recommendations (Continued)

2. Approach to Farmers

- ▶ The project is recommended to consider implementing its activities to be integrated into Timor-Leste's extension methods in order to ensure the sustainability of the project (e.g. more involvement of extension officers, Farmers Field School).
- ▶ Normalization of cropping calendar, line transplanting and weed control have been chosen as core techniques in the project. In the second half of the project, techniques needs to be considered to respond to the arising technical challenges identified through close dialogue with local farmers.

17

Recommendations (Continued)

3. Market

- ▶ The project is recommended to work through not only an increase in production amount but also improvement in quality of rice to develop a premium rice market in Timor-Leste.

4. Project Implementation Structure

- ▶ The local governments in the project target sites are recommended to be added to the implementing agencies of the project.

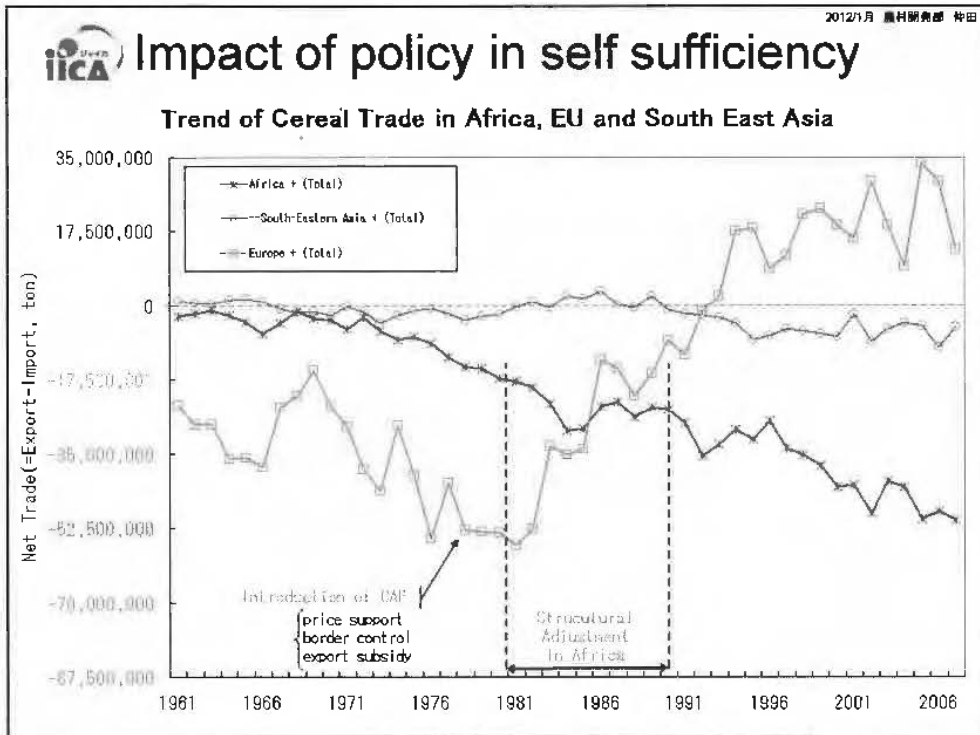
5. Project Management

- ▶ The present PDM (Version 1.0) should be revised based on the changes made in the project and the project is recommended to be implemented and monitored based on the revised PDM.

18

A # 3
7

9



1

2012/1月 農村開発部 林田

Impact of agriculture policy to the nation

<p>Issue</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ Flooding of low-cost agricultural products into domestic market ➤ Demotivate investment in agriculture from government, private sector and farmer 	
<p>Policy measures</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ Industrialized nations have been nurturing agriculture sector by combining “border control”, “price policy” and “farm subsidy” ➤ Meanwhile, huge financial burden and adverse impact to the market, made these policies to be amended 	
<p>Advantage</p> <ul style="list-style-type: none"> • Increase self-sufficiency • Secure farm income • Increased job opportunity in rural are 	<p>Disadvantage</p> <ul style="list-style-type: none"> • Gov. financial burden • Consumer burden • Trade distortion • WTO rule compliance

2 国際協力機構

[Handwritten signature and scribbles]

2

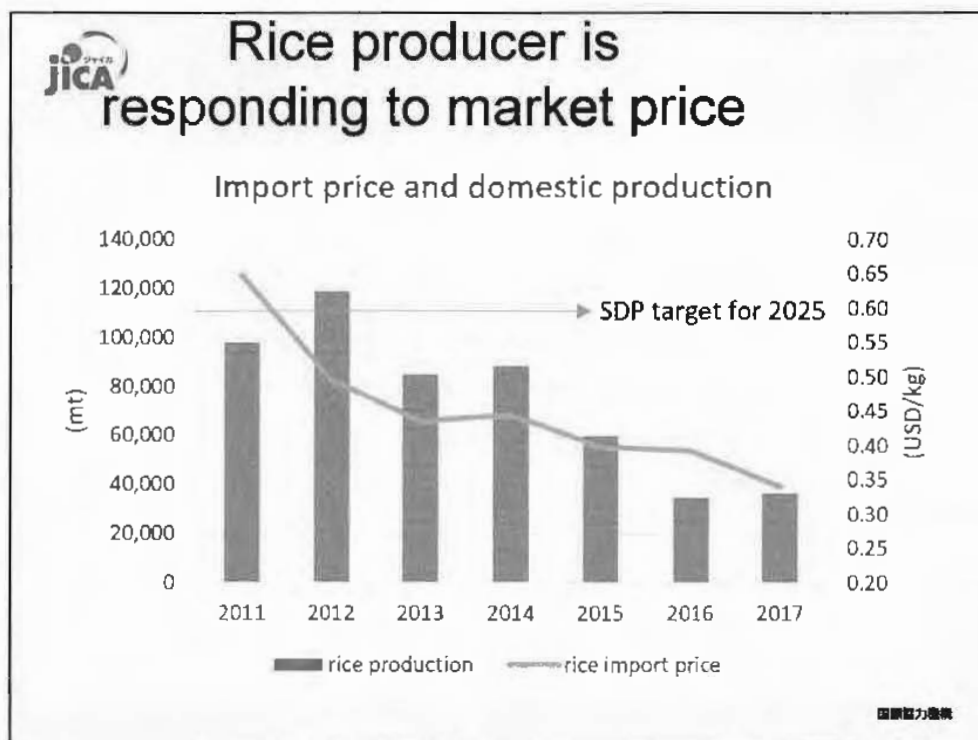
2012/1月 農村開発部 仲田

Example of policy measure

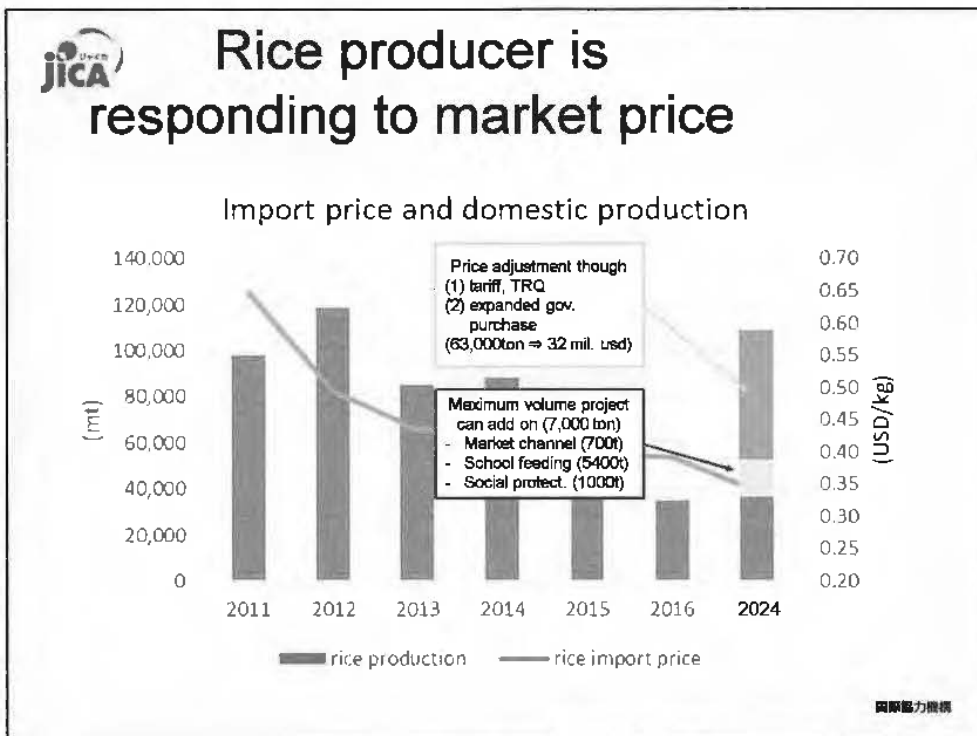
Policy measure	How it works	WTO compliance
Border control		
Tariff	<ul style="list-style-type: none"> • tax on importation • works to increase domestic price • Benefit transfer from consumer to farmer 	High
Tariff rate quota	<ul style="list-style-type: none"> • Combination of import tariff and import quota • Low tariff for minimal national requirement, high tariff for extra quantity • Philippine, Thailand, Indonesia and other 	High
Domestic support		
Government purchase (strategic food reserve)	<ul style="list-style-type: none"> • Government purchase national products • Allowed for limited situation (public stock for food security, domestic food aid, etc.) • India, Indonesia, and other 	Moderate
Farm inputs, irrigation and other	<ul style="list-style-type: none"> • To fill productivity gap by supporting farm inputs, irrigation, technical support 	High

3 国際協力機構

3



4



5

Possible measures considered in Timor-Leste

2012年1月 農村開発部 作成

Policy measure	Required action
Internalize Farmer Dialogue procedure	1. Discuss and design system to internalize collaborative approach
Functionalize Government purchase • school feeding prg. / Social protection	1. Introduction of voucher system for prompt payment 2. MOU between LNC, MOE and MSS for budgeting and targeting 3. Assign staff, allocate budget required for design and implementation
Introduction of tariff rate quota (TRQ)	1. Collection of data required to set quota volume 2. Design quota allocation system including auction / licensing system

In considering current competitiveness gap with imported rice, stepwise approach is required, starting from "premium market" and "strategic food reserve, school feeding" to make successful case in domestic rice value chain

6 国際協力機構

Handwritten signatures and initials.

6

Proposed Project Design Matrix (PDM) Version 2.0

Project Names: The Project for Increasing Farmers Households' Income through Strengthening Domestic Rice Production in Timor-Leste あ

Project Period: 5 years (September 2016 –September 2021)

Implementation Agencies: Ministry of Agriculture and Fisheries (MAF), Ministry of Tourism, Commerce and Industry (MTCI), Local Authorities in the Project Sites

Project Sites: Project Sites for each Output are as follow:

Output 1: Buluto and Maliana I irrigation schemes, and its surrounding area

Output 2: Buluto and Maliana I irrigation schemes

Output 3: Dili, Baucau, Manatuto and Bobonaro municipalities

Output 4: Buluto and Maliana I irrigation schemes, Rice stockpiling warehouses in Dili and Maliana

Output 5: Areas outside Buluto and Maliana I irrigation schemes

Direct Target Groups: Staff of Respective Ministries and Municipalities, Targeted Farmers in Baucau, Manatuto, Bobonaro and other municipalities, and Targeted Rice Retail Traders

Indirect Target Groups: All Farmers in Baucau, Manatuto, Bobonaro and other municipalities, Private Sector related to Rice Distribution and Marketing, and Consumers (March 27th, 2019)

Narrative Summary		Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
Super Goal				
Livelihood of farmers living in Timor-Leste is improved through increase in income by improved rice value-chain.	<ul style="list-style-type: none"> - The TL government is strengthened to share the project outcomes in the project sites with stakeholders over the country. - The production of domestic rice in Timor-Leste is stable or increases for five years after the achievement of the Overall Goal of the Project. 	Government records and other official documents		
Overall Goal/				
Farmers households' income from rice production in the targeted municipalities is increased through the improvement of rice value-chain (Production, Harvesting, Post-harvest and Processing, Distribution, and Sales/Consumption).	More than USD 2,262,000 of income is generated by sales of rice by farmers in Bobonaro, Manatuto and Baucau per year. (equivalent to 5,655 tons of paddy sales at USD 0.40/kg)	<ul style="list-style-type: none"> -Records of CAAKUB Farmers' Association, ACELDA, and NLC -Government records and other official documents 	The Government implements appropriate policies for domestic rice promotion.	
Project Purpose				
Farmers households' income from rice production in the project sites is increased through the improvement of rice value-chain (Production, Harvesting, Post-harvest and Processing, Distribution, and Sales/Consumption) achieved by collaborative approach ¹ .	More than USD 1,400,000 of income is generated by sales of rice by farmers in Maliana ² and Buluto per year. (equivalent to 3,500 tons of paddy sales at USD 0.40/kg)	<ul style="list-style-type: none"> -Records of CAAKUB Farmers' Association, ACELDA, and NLC -Government records, other official documents, project monitoring sheets /progress reports -Farmers' Dialogue Report 	<ul style="list-style-type: none"> -Massive natural disasters (such as drought and flood) do not occur. -Budget for purchase of domestic rice is prepared and its disbursement is conducted by NLC to meet its target amount of domestic rice purchase. 	

¹ Collaborative approach requires all stakeholders to understand their appropriate roles and responsibilities and to work together.

² Including both Maliana I and Maliana II irrigation schemes.

Outputs				
1.	System of rice farming is improved. (This system is a component of rice business system.)	1-1	More than 60% of farmers in Buluto I and Maliana I follow the crop calendar ³ . 25% of farmers in Buluto and 10% of farmers in Maliana I practice double cropping with introduction of associated techniques ⁴ .	<p>Baseline and end-line surveys, government records, other official documents, project monitoring sheets /progress reports</p> <p>-Farmers' Dialogue Report</p> <p>-Baseline and end-line surveys, government records, other official documents, project monitoring sheets /progress reports</p> <p>-Farmers' Dialogue</p> <p>-Records of CAAKUB Farmers' Association and ACELDA</p> <p>-Baseline and end-line surveys, government records, other official documents, project monitoring sheets /progress reports</p> <p>-Farmers' Dialogue Report</p> <p>-Baseline and end-line surveys, government records, other official documents, project monitoring sheets /progress reports</p> <p>-Records of NLC</p> <p>-Farmers' Dialogue</p>
		1-2	Water distribution mechanism among farmers is established with support from irrigation staff, extension staff and local authorities in Buluto and Maliana I.	
		2-1	Sub-canal of irrigation schemes are cleaned and maintained by farmers in Buluto and Maliana I.	
		2-2	A total of more than 500 tons of paddy is sold by farmers in Buluto and Maliana per year through CAAKUB and ACELDA ⁵ .	
		3-1	Marketing channel for domestic rice is expanded to private sectors such as restaurants, hotels, and farmers' market.	
		3-2	Plan of government purchase and distribution of domestic rice is prepared annually by the Taskforce for domestic rice ⁶ .	
		4-1	Appropriate system of payment from NLC to farmers is introduced so that the timing of payment meets farmers' needs.	
		4-2	More than 3,000 tons of paddy is purchased by NLC in Buluto and Maliana.	
		4-3		
2.	System of irrigation water management among farmers is improved. (This system is a component of rice business system.)			
3.	System of domestic rice distribution / sales is improved. (This system is a component of rice business system.)			
4.	System of domestic rice purchasing / distribution system by the government is improved.			

³ Following the crop calendar means that the farmer is working together with other farmers in the community in terms of water management, input management such as usage of agricultural machineries, livestock management etc.) A farmer who prepares rice nursery no later than one month later from the date which representative of rice community announces Let's begin to prepare nursery' is considered to have followed the crop calendar.

⁴ Associated techniques indicate techniques identified in Activities 1-2 and 1-6.

⁵ Evaluation shall be conducted using the amount of sales through CAAKUB and ACELDA, but marketing channels are not limited to these two. Sales through local markets or to local restaurants directly by farmers are also expected.

⁶ Taskforce aims to increase production and purchase of paddy in Timor-Leste and is composed of Ministry of Agriculture and Forestry, Ministry of Tourism, Commerce and Industry, National Logistic Center and other stakeholders in the Central Government.

<p>5. The Government promotes domestic rice by planning appropriate policies and disseminating lessons learned from the Project.</p>	<p>4-4 80% trainees of SS (Sort, Straighten, Shine, Standardize, and Sustain) training for rice storage management understand 80% contents of the training.</p> <p>5-1 The Central Government approves a plan to implement policies required to promote production of rice, such as tariff rate quota system.</p> <p>5-2 Workshops and trainings on the project activities are held for stakeholders in other areas at least ten times to share collaborative approach.</p>	<p>-End-line surveys, government records, other official documents, project monitoring sheets /progress reports</p>	
<p>Activities</p>		<p>Inputs</p>	
<p>0. Baseline Survey (first six months) and End-Line Survey (last six months)</p>	<p>Japanese Side</p>	<p>Timor-Leste Side</p>	<p>Pre-conditions</p>
<p>0-1 Design and conduct the baseline survey in first six months of the project for gathering detailed data/information required for the implementation of the project.</p>	<p>1. Dispatch of Japanese experts in specific fields. - Chief Advisor - Agricultural Distribution and Sales - Project Coordinator - Stockpiling Rice Warehouse SS Management - Irrigation Management / Water Management Groups - Rice Cultivation Techniques (Detailed position of each long-term & short-term expert will be decided during the base line survey)</p>	<p>1. Allocation of counterpart personnel from MAF and MCI (Co-Chairpersons, Project Director, Project Managers, Project Sub-Managers), municipality level contact points and other government officials.</p>	<p>Proper allocation of budgets to the implementing agencies.</p>
<p>0-2 Revise the project documents (PDM, Plan of Operation (PO), etc.) and get approval from the Joint Coordinating Committee (JCC).</p>	<p>2. Trainings in Japan and/or in other countries.</p>	<p>2. Provision of space and building for the project offices.</p>	
<p>0-3 Design and conduct the End-Line Survey for evaluating results of the project in last six months of the project.</p>	<p>3. Provision of equipment and materials as necessary for the project implementation.</p>	<p>3. Budget for operational cost for the project implementation (local costs, electricity, water, internet access and travel allowances for Timorese counterparts, etc.)</p>	
<p>1. System of rice farming is improved. (This system is a component of rice business system.)</p>	<p>4. Budget for the operational costs for the project implementation.</p>	<p>4. Supply or replacement of equipment and any other materials other than the equipment provided by JICA.</p>	
<p>1-1 Enhance the understanding of the stakeholders on their role and responsibility through Farmers Dialogue (FD) process</p>			
<p>1-2 Identify core set of cultivation techniques that should be introduced in order to increase production in the target area.</p>			
<p>1-3 Facilitate/conduct socialization activities for early cropping and market-oriented farming through FD process, workshop and follow up meeting among farmers and stakeholders in order to promote normalization of crop calendar.</p>			
<p>1-4 Facilitate coordination of water distribution, coexisting grazing and multi cropping with proper tractor</p>			

<p>utilization under collaboration among farmers and stakeholders in order to promote effective utilization of rice field.</p>	
<p>1-5 Introduce core set of cultivation techniques identified in activity 1-2 (mainly on-farm water management, line-transplanting, and weed control) based on each farmer's social and field circumstance in order to increase productivity.</p>	
<p>1-6 Revise core set of techniques identified in Activity 1-2 according to concerns and problems raised by farmers during the project.</p>	
<p>1-7 Support farmers to design plan of rice-centered farming based on their circumstances in order to promote sustainable rice-centered farming through activities 1 to 6.</p>	
<p>2. System of irrigation water management among farmers is improved. (This system is a component of rice business system.)</p>	
<p>2-1 Enhance the understanding on the role and responsibility of the stakeholders through Farmers Dialogue process.</p>	
<p>2-2 Draft and revise the strategy of irrigation water management.</p>	
<p>2-3 Support and facilitate discussion on the rules and regulations of farmers' groups in Buluto and Maliana I irrigation schemes among stakeholders. (e.g. existing WUA, Kabuwees, leaders of farmers' groups, Suco chiefs and sub-municipality administrators.)</p>	
<p>2-4 Support implementation of water management by farmers' groups based on the rules and regulations discussed by local stakeholders in Buluto and Maliana I.</p>	
<p>2-5 Support establishment of the system to continue water management by farmers' groups in Buluto and Maliana I.</p>	
<p>2-6 Share the results and lesson learned with local and central government for better management in next cultivation, and for better, functioning policy framework.</p>	
<p>3. System of domestic rice distribution/ sales is improved. (This system is a component of rice business system.)</p>	

3-1	Enhance the understanding of the stakeholders on their role and responsibility through Farmers Dialogue process.		
3-2	Make implementation plan(s) to improve post-harvest and processing, distribution, and sales/consumption of domestic rice through Farmers' Association(s) and private sector.		
3-3	Introduce the implementation plan(s) to farmers, Farmers' Association, Private Sector and all stakeholders through report distribution, workshops, and Farmers' Dialogue.		
3-4	Conduct direct OJT (On The Job Training) to farmers' association (s) and private sector(s) in order to improve paddy purchasing, paddy drying, milling, packing, distribution, and sales of domestic rice.		
3-5	Conduct direct OJT (On The Job Training) to Farmers' Association (s) in order to strengthen financial administration and organizational management.		
3-6	Conduct cooking OJT (On the Job Training) to women or women's group(s) in order to develop rice-processed goods.		
3-7	Create markets to increase the consumption of domestic rice through the viewpoints of organic, high nutrition and freshness.		
4.	System of domestic rice purchasing / distribution system by the government is improved.		
4-1	Enhance the understanding of the stakeholders on their role and responsibility through Farmers Dialogue process.		
4-2	Support planning of appropriate rice purchasing/ distribution system in Malina and Buluto.		
4-3	Support implementation of purchasing operation of rice in Maliana and Buluto.		
4-4	Support distribution operation of rice, in collaboration with Ministry of Education and Ministry of Social Solidarity based on the plan prepared in Activity 4-2.		
4-5	Rehabilitate rice stockpiling warehouses in Dili and Maliana.		
4-6	Implement 5S (Sort, Straighten, Shine, Standardize, and Sustain) training for rice storage management for the staff of the warehouses.		
5.	The Government promotes domestic rice by		

<p>planning appropriate policies and disseminating lessons learned from the Project.</p>			
<p>5-1 Support examination on possible policies for promotion of domestic rice production, such as tariff rate quota through policy dialogue.</p>			
<p>5-2 Support preparation of implementation plan for the policy that have been chosen through the process of Activity 5-1.</p>			
<p>5-3 Conduct workshops and trainings to disseminate technical knowledge and skills of the project activities to stakeholders in other areas under the initiative of MAF.</p>			

[Handwritten signature]
[Handwritten initials]

March 27, 2019
JICA Project Team

MINUTES OF MEETING

The 6th (sixth) meeting of Joint Coordinating Committee for the JICA Technical Cooperation Project for Increasing Farmers Households' Income through Strengthening Domestic Rice Production in Timor-Leste

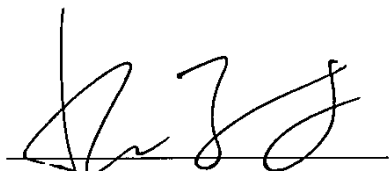
Pursuant to the Record of Discussions signed between Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”), the Ministry of Agriculture and Fisheries (hereinafter referred to as “MAF”) and Ministry of Tourism, Commerce, and Industry (hereinafter referred to as “MTCI”) of the Democratic Republic of Timor-Leste dated 25 May 2016, the 6th meeting of Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as “the JCC”) for the Project for Increasing Farmers Households' Income through Strengthening Domestic Rice Production in Timor-Leste (hereinafter referred to as “the Project”) was convened on March 27, 2019 at the Conference Room of the MAF in Dili.

The main points of the JCC meeting is as following.

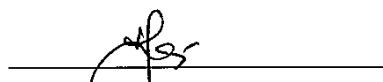
- 1) The summary result of the Mid-term Review was presented by Ms. Sawa Hasegawa, principal consultant, OPMAC Corporation. The presentation material is attached as Attachment 1, and the Mid-term Review Report is attached as Attachment 2.
- 2) Possible policy measures were presented by Mr. Shunichi Nakada, Senior Advisor, JICA Headquarters. The presentation material is attached as Attachment 3.
- 3) Based on the findings through the Mid-term Review, PDM Version 2 was proposed by Mr. Shunji Segawa, JICA Headquarters. The presentation material is attached as Attachment 4 and 5.
- 4) In the section of the discussion, it is discussed and confirmed that continuous cooperation and coordination among all stakeholders is necessary in order to promote domestic rice production and sales, and PDM Version 2 will be further discussed among JCC members to be revised accordingly with the Project's current activities and strategies. Detailed minutes of the JCC meeting is attached as Attachment 6.

Dili, March 27, 2019


March 27, 2019
JICA Project Team



Mr. Masafumi Nagaishi
Chief Representative,
JICA Timor-Leste Office,



Ms. Maria Odete do Céu Guterres
Director General for Agriculture,
Ministry of Agriculture and Fisheries,
The Democratic Republic of Timor-Leste



Mr. Jacinto Paijo
Executive Director of National Logistic Center,
Ministry of Tourism, Commerce and Industry
The Democratic Republic of Timor-Leste
For
Mr. Augusto Junior Trindade
President of the Administration Council,
National Logistic Center,
Ministry of Tourism, Commerce and Industry
The Democratic Republic of Timor-Leste

Attachments:

1. Summary of the Mid-term Review
2. Mid-term Review Report
3. Note on possible policy measures
4. PDM Version 1 (current version)
5. PDM Version 2 (proposed version)
6. Minutes of the JCC meeting

**Aprezentasaun Konaba Rezultadu
Husi Avaliasaun Mediu-Prazu**

**Projetu Hasa'e Rendimentu Uma-Kain liu husi
Hametin Produsaun Foos Rai iha Timor-Leste**

Inkontru JCC

27 Marsu 2019
Ekipa Avaliasaun Mediu-Prazu

1

Konteudu Aprezentasaun

- ▶ **Ojetivu husi Avaliasaun Mediu-Prazu**
- ▶ **Metodolojia Avaliasaun**
- ▶ **Progresu Projetu nian**
- ▶ **Prosesu Implementasaun**
- ▶ **Avalia tuir Kriteria Lima Avaliasaun nian**
- ▶ **Konkluzaan**
- ▶ **Rekomendasaun sira**

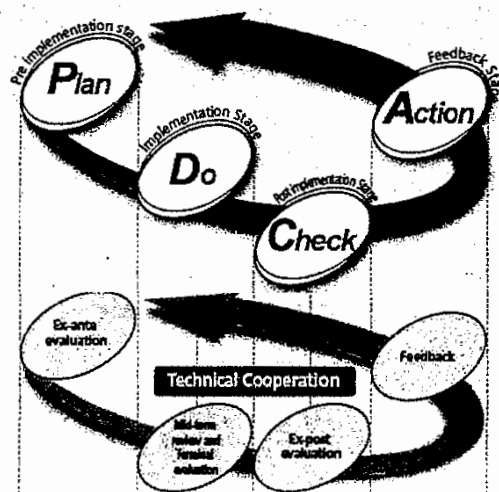
2

Ojetivu husi Avaliasaun Mediu-Prazu

- ▶ Atu hatene progresu projetu nian (rezultadu husi atividade sira ne'ebe implementa ona to'o ohin loron) tuir prinsipiu husi Project Design Matrix (PDM) no Planu Operasaun (OP), no avalia atinjimentu atual nomos nudar perspektiva ida ba futuru ba atinjimentu husi Ojetivu Projetu nian
- ▶ Atu ezamina postura jestaun projetu atual nomos prosesu imlementasaun projetu nian no identifika obstaklu sira/fator sira ne'ebe impede iha implementasaun
- ▶ Atu avalia projetu husi pontu de vista Kriteria Lima Avaliasaun nian, ex. relevansia, efetividade, efisiensia, impaktu no sustentabilidade.
- ▶ Atu diskuti medidas sira foti hodi solusiona ba melloramentu projetu iha futuru no hato'o rekomendasaun sira atu halo tuir iha periodu restante projetu nian.
- ▶ Atu identifika lisaun aprendida sira ne'ebe util ba futuru projetu nian ka projetu seluk ne'ebe implementa hela kuantu nesesaria.

3

Avaliasaun ba Jestaun Projetu



4

Progressu Projetu nian **Espektativa husi Projetu (bazea ba PDM ver.1)**

- ▶ Komponente 1: Hadi'a teknik kultivasaun nian hodi hasa produsaun foos iha area projetu.
- ▶ Komponente 2: Hametin kapasidade operasaun no manutensaun(O&M)ba fasilidade irigasaun nian iha Buluto no Maliana I
- ▶ Komponente 3: Establesimentu sistema distribuisaun/ fa'an foos rai ho nia marka rasik husi projetu
- ▶ Output 4: Hadia sistema sosa/distribuisaun foos guvernunian.
- ▶ Output 5: Dizeminaun informasaun konaba atividade projetu nian ba munisipiu seluk tuir inisiativu MAF

5

Progresu Projetu nian (kontinua)

Status Implementasaun aktual resultadu husi Projetu

- ▶ Komponente 1: Servisu hamutuk ho parseiru sira, agrikultor 649 iha Buluto no Maliana I partisipa iha sosializasaun workshop konaba Normalizasaun Kalendariu Kultivasaun nian iha 2018 no agrikultor 366 mak halo tuir normalizasaun kalendariu kultivasaun.
- ▶ Komponente 2: Aktividade sira sei implementa basea ba proposta husi rezultadu peskiza ne'ebe hala'o husi Professor Kakuta husi Asia University. Lei no regras konaba utilizaun irigasaun diskuti hela entre parseiru sira iha Buluto.
- ▶ Komponente 3: Agrikultor hamutuk 685 iha Buluto no Maliana I fa'an ona harengon hamutuk 412.6 toneladas liu husi ACELDA no CAAKUB no sira hetan ona rendimentu hamutuk 172,251 USD iha 2017 no 2018.
- ▶ Komponente 4: Pesonal hamutuk 35 partisipa ona iha treinamentu 5S (Sort, Straighten, Shine, Standardize, and Sustain) Treinamentu konaba jestaun farmaseutika iha Febreiru 2019.
- ▶ Komponente 5: Foin atu implementa

6

Observasaun husi Ekpa Avaliasaun Mediu- Prazu Situasaun Jestaun Projetu

- ▶ Atividade sira especialmente Komponente 1 no 2 implementa ona ho partisipasaun husi autoridade lokal no staff projetu sira ne'ebe emprega husi projetu.
- ▶ Projetu hala'o aproximasaun pratiku liu husi Dialogu ho Agrikultor sira, atu hamosu normalizasaun kalendariu kultivasaun nian nudar atividade prisipal ida atu liga agrikultor, autoridade lokal/nasional no projetu.
- ▶ Partisipasaun no involvimentu barak liu tan MAF no CLN iha periodu metade projetu ne'e nian atu nune'e parte Timor-Leste bele habelar liu tan experiensia husi projetu ne'e ba area seluk depois remata projetu ne'e.

7

Observasaun husi Ekpa Avaliasaun Mediu-Prazu

Fator sira ne'ebe promove realizasaun efeitu sira Projetu nian

- ▶ Apoiu husi Primeiro Ministro foun ba promosaun foos rai.
- ▶ Apoiu MAP nian ba CAAKUB
- ▶ Apoiu ACELDA nian ba promosaun foos rai

Fator sira ne'ebe impede realizasaun efeitu sira Projetu nian

- ▶ Situasaun agora foos importaun domina liu merkadoria iha Timor-Leste
- ▶ Menus stratejia longu-prazu no politika klaru atu promove foos rai, partikularmente;
 - a. Sistema sosa no distribuisaun foos la funsiona ho diak
 - b. Dependensia no lakon konfiasa ba malu entre entidade relevantes mai husi intervensaun internal husi pasadu.
- ▶ Menus motivasaun ba kutlivaun hare husi agrikultor sira iha area projetu
- ▶ Diversifika oportunidade ekonomika diminui intrese agrikultor sira nian halai natar, espesialmente joven sira.
- ▶ Lakon ona funsionaamentu jestaun irigasaun tradisional nian hafoin rehabilitasaun irigasaun no kriaun organizaun foun WUA.

8

Avaliasaun tuir kriteriu lima konaba avaliasaun nian

Relevansia

- ▶ Projetu ne'e konsisten ho politika dezenvolvimentu Timor Leste nian "P. Estratejiku Dezenvolvimentu Nasional" (PEDN) 2011-2030 "Planu Estratejiku MAP nian 2014-2020" no politika ODA Japaun nian ba Timor-Leste.
- ▶ Maibe ba situasaun agora, governu Timorese seidauk foti medidas atu rea politika promosaun foos rai nian.
- ▶ Embora projetu ne'e responde ona ba dezenvolvimentu governu Timor nian, ne'ebe halo melloramentu sistema distribuisaun no fa'an, maibe la responde direktamente nesidade dezenvolvimentu ba agrikultor sira ne'ebe la iha vontade atu hasa'e sira nia produsaun nein atu fa'an foos iha situasan merkadoria agora.
- ▶ Dezenu husi projetu ne'e apropiadu ne'ebe kobre komponente rua hane hasa'e montante produsaun foos rai no habelar merkadoria fa'an foos rai iha Timor-Leste.

⇒ Projetu ne'e koloka iha situasaun ida ne'ebe defisil no relevansia husi proje prejudikadu.

9

Kriteria Lima ba Avaliasaun

- ▶ maske projeto atinji kresimentu montante produsaun fos rai liu hui komponente 1 no 2 maibe ida ne'e sai hanesan difikuldade boot atu hasae rendimentu uma kain agrikultor liu husi faan fos sein atinji tarjetu komponente 3 no 4.
- ▶ Maske iha progresu positivu husi komponente 3, situasaun atual hatudu katak numeru merkadu potensial limitadu tamba ne difikulta tebes atu fasilita hotu numeru kresimentu produsaun hare hodi faan ba iha merkadu, exepu se wainhira governu governu aplika politika nebe efetivu atu bele prenxe diferente competisaun entre produsaun domestika no produsaun importasaun etapa ba etapa, ne hanesan kondisaun nebe ses husi area Projetu.
- ▶ Ne konsidera katak projetu ne halao ho kondisaun grave tebes no difikulta atu bele atinji metas husi projetu, exepu Governu Timor Leste toma medida atu realiza politika hodi protégé produsaun foos rai.

Strategia longo prajo no politika neebe mak klaru atu promove foos rai husi Governu Timor Leste nesesarío tebes atu atinji objetivu husi projeto ne.

10

Kriteria Lima konaba Avaliasaun

Efisiensia

- ▶ Komponente 1 no 2 tenke produs iha periodu metade projetu hodi nune bele melhora liu tan hodi halo avaliasaun efisiensia projetu bazeia ba nivel komponente neebe mak produs iha periodu metade projetu nian.

Difikulta tebes atu hare impaktu projetu iha Avaliasaun mediu prajo

Impaktu

- ▶ Strategia longo prajo no politica neebe mak klaru atu promove foos rai husi Governu Timor Leste nesensario tebes atu atinji objetivu geral husi projeto ne.

Difikulta tebes atu hare impaktu projetu iha Avaliasaun mediu prajo

11

Kriteria Lima ba Avaliasaun

Sustentabilidade

- ▶ Aspetu politika no institucional: maske suporta politika ba promosaun fos rai iha espektasaun sustentabilidade iha Timor Leste, suporta ne bele lakon nia momentu se enkuadu governu menus strategia longo praju no politika klaru nebe mak promove no deside husi Governu.
- ▶ Aspetu organizaun : projetu nia proposta atu implementa aktividade tenke hetan partisipasaun barak liu tan husi MAP ho CLN iha metade periodo projeto atu promove Sistema oinsa governu nasional no local bele uza mekanismu transferensia teknologia, espesial ba dialogu ho natar nain.
- ▶ Aspetu finansas: kontinua alokasaun orsamentu ba CLN atu bele sosa produktu local (Hare) nesensariu tebes.
- ▶ Aspetu teknika : kapasidade teknika targetu hotu iha iha area projetu agrikultor iha area projetu, Asosiasaun uza Be iha BULuto no Maliana I, CAAKUB no seluk tan. Persija tebes atu hasae, nesensario tebes ba projetu atu kontinua halo esfossu hodi dezemvolve sira nia kapasidade.

12

Konklusaun

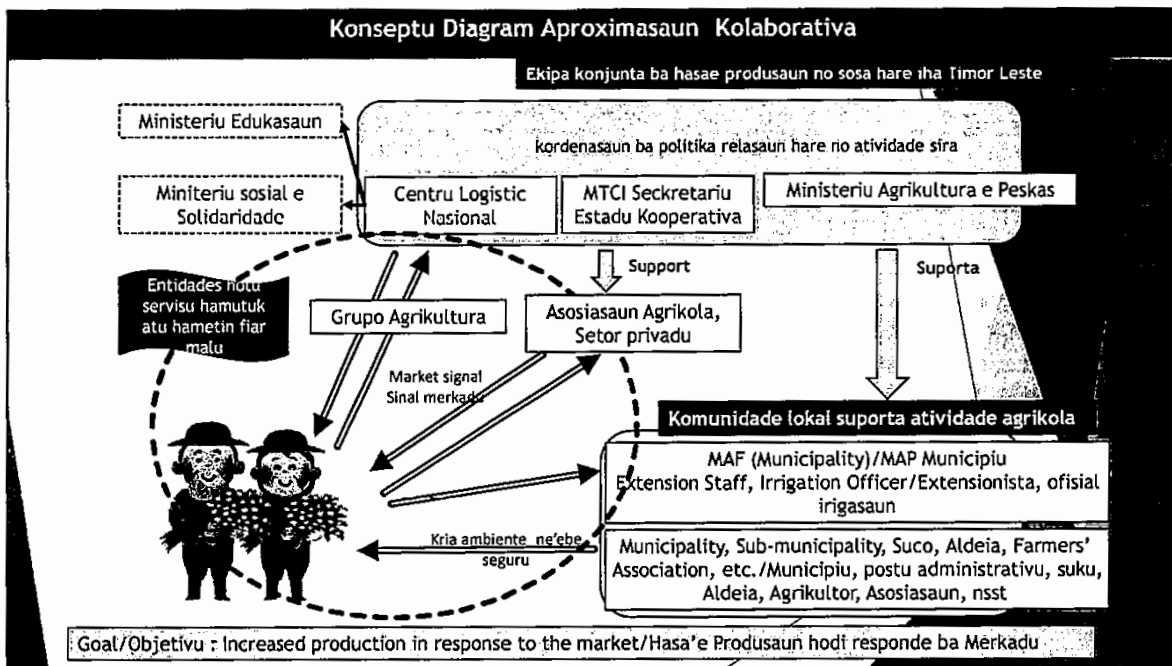
- ▶ Bazeia ba faktus husi avaliasaun mediu prajo, equipa avaliasaun foti konklusaun katak difisil atu hare atinjimentu husi komponente iha tempu agora no perspektiva atu atinji obejtuvitu projetu iha futuru hanesan mos avaliasaun projetu husi pontu de vista kriteria lima ba avaliasaun iha avaliasaun mediu praju.
- ▶ Iha sorin seluk, equipa avaliasaun observa katak projetu ne produs ona efeito barak hanesan colaborasaun ho autoridade local iha hanoin ida atu motiva agrikultor no efetivu servisu hamutuk.
- ▶ Ba atinji obejtuvitu projetu strategeia longo prajo no politika klaru atu promove fos rai husi Governu Timor Leste.

13

Foti aproximasaun Kolaborativu ba Agrikultura iha Timor-Leste

- ▶ Liu husi dialogue ho agrikultor sira, identifika katak kestaun prinsipal ne'ebe deskoraja agrikultor sira iha kultivasaun hare mak dependensia no lakon konfiansa ne'ebe mai husi intervensaun external tempu pasadu.
- ▶ Rekonese situasaun sira iha leten, atu bele hasa'e rendimentu agrikultor sira nian, liu hosi hadi'a kadeia de valor, parseiru sira hotu tenke intende sira nia papel no responsabilidade konaba servisu hamutuk.
- ▶ Agrikultor mak papel central, ho apoiu husi autoridade lokal, liu husi matadalan tekniku nian, jestaun komunidadade no fahe informasaun ba malu.
- ▶ Papel governu central maka atu apoiu governu lokal no agrikultor sira liu husi implementasaun politika diak sira.

14



15

Rekomendasaun

1. Politika Impmentasaun
 - > Rekomenda Governu Timor Leste atu implementa politika hodi proteje foos rai
 - exemplu; Sosa foos rai mais e menus 3000 toneladas iha tinan 2019 2020 ba programa merenda eskolar no seluk-seluk tan.
 - > Projetu rekomenda atu promote politika dialogue ho ekipa konjunta inklui MAP no NLC atu enkoraja sira atu implementa politika hodi proteje ba foos rai

16

Rekomendasaun(Kontinua)

2. Aproximsaun ba Agrikultor sira

- Projetu rekomena atu kondidera implementa kada atividade atu intregadu ba iha Timor Leste nia metodu extensaun atu aseguira sustentabilidade ba projetu.
(ex. Involve barak husi ofisial extensaun sira, Kapasitasaun agrikultura iha terenu).
- Normalizasaun ba kalendariu kultivasaun, kuda lina, hamos du'ut hanesan mos tekniku iha projetu nian iha periode metade husi projetu, tekniku presiza atu konsidera hodi responde ba dezafiu tekniku sira ne'ebe indentifika liu husi dialogue ho agrikultor sira lokal.

17

Rekomendasaun (kontinua)

3. Merkaduria

- Projetu rekomena atu serbisu laos atu hasa'e deit montante produsaun maibe atu hadia mos kuantidade produsaun hare atu dezemvolve foos ho marka premium iha merkadu Timor Leste.

4. Estrutura implemntasaun projetu

- Governu lokal sira iha area projetu rekomena atu aumenta implementasaun agensia sira nia projetu.

5. Jestaun Projetu

- Apresenta PDM (Versaun1.0) tenki halo revizaun baseia ba mudansa halo iha. projetu no projetu rekomena atu implementa no monitoria ba ba iha revizaun PDM.

18

MID-TERM REVIEW REPORT

ON

**THE PROJECT FOR INCREASING FARMERS
HOUSEHOLDS' INCOME THROUGH STRENGTHENING
DOMESTIC RICE PRODUCTION**

IN

THE REPUBLIC DEMOCRATIC OF TIMOR-LESTE

MARCH 2019

TABLE OF CONTENTS

1. INTRODUCTION.....	- 1 -
1.1 Objectives of Mid-term Review	- 1 -
1.2 Methodology	- 1 -
1.3 Members of Mid-term Review Team	- 2 -
1.4 Schedule of Mid-term Review	- 2 -
2. OVERVIEW OF THE PROJECT	- 3 -
2.1 Background of the Project.....	- 3 -
2.2 Outline of the Project	- 3 -
3. PROGRESS OF THE PROJECT	- 5 -
3.1 Inputs.....	- 5 -
3.2 Activities	- 6 -
3.3 Outputs	- 9 -
3.4 Project Purpose.....	- 15 -
3.5 Implementation Process	- 16 -
4. EVALUATION OF THE PROJECT BY FIVE EVALUATION CRITERIA.....	- 20 -
4.1 Relevance	- 20 -
4.2 Effectiveness	- 23 -
4.3 Efficiency	- 24 -
4.4 Impact.....	- 24 -
4.5 Sustainability.....	- 25 -
5. CONCLUSION AND RECOMMENDATIONS	- 27 -
5.1 Conclusion.....	- 27 -
5.2 Recommendations	- 27 -
5.3 Lessons Learned.....	- 29 -

ANNEX LIST

- Annex 1: Project Design Matrix (Version 1.0)
- Annex 2: Plan of Operation (Version 1.0)
- Annex 3: Schedule of Mid-term Review
- Annex 4: Inputs Provided
- Annex 5: Seminars and Workshops Conducted

ABBREVIATIONS

C/P	Counterpart Personnel
IRCS	Improved Rice Cropping System
JCC	Joint Coordinating Committee
JICA	Japan International Cooperation Agency
MAF	Ministry of Agriculture and Fisheries
MTCI	Ministry of Tourism, Commerce and Industry
M/M	Minutes of Meeting
NLC	National Logistic Center
O&M	Operation and Maintenance
ODA	Official Development Assistance
OJT	On-the-job-training
PDM	Project Design Matrix
PO	Plan of Operation
SDGs	Sustainable Development Goals
SDP	Timor-Leste Strategic Development Plan
WUA	Water Users Association

1. INTRODUCTION

1.1 Objectives of Mid-term Review

The objectives of the Mid-term Review are as follows.

- 1) To review progress of the project (inputs provided, activities implemented and outputs produced to date) on the basis of Project Design Matrix (PDM) and Plan of Operation (PO), and assess current achievements of Outputs as well as a future prospect for achievement of Project Purpose
- 2) To examine the current project management structure as well as the project implementation process and identify obstacles and/or enabling factors which have been affecting the implementation
- 3) To assess the project from the viewpoint of Five Evaluation Criteria, i.e. relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability
- 4) To discuss measures to be taken for the project's further improvement and provide recommendations on the measures to be taken in the remaining project period
- 5) To identify lessons learned useful for future projects and/or other ongoing projects as necessary

1.2 Methodology

(1) Framework of Mid-term Review

The project is reviewed by using PDM as a framework of evaluation. The current PDM (Version 1.0, prepared in November 2017) shown in Annex 1 is used as a basis of evaluation. Both quantitative and qualitative data are gathered and utilized for analysis. Data collection methods used for the analysis include; literature review, questionnaires, key informant interviews, and direct observations.

(2) Five Evaluation Criteria

Based on the observations made under the items above, the project is evaluated from the viewpoint of Five Evaluation Criteria shown in Table 1 below, which was defined by the Japan International Cooperation Agency (JICA) and originally proposed by the Development Assistance Committee of the Organization for Economic Co-operation and Development.

Table 1: Definition of Five Evaluation Criteria

Criteria	Definition
Relevance	Degree of compatibility between the development assistance and priority of policy of the target group, the recipient, and the donor.
Effectiveness	A measure of the extent to which an aid activity attains its objectives.
Efficiency	Efficiency measures the outputs – qualitative and quantitative – in relation to the inputs. It is an economic term which is used to assess the extent to which aid uses the least costly resources possible in order to achieve the desired results. This generally requires comparing alternative approaches to achieving the same outputs, to see whether the most efficient process has been adopted.
Impact	The positive and negative changes produced by a development intervention, directly or indirectly, intended or unintended. This involves the main impacts and effects resulting from the activity on the local, social, economic, environmental and other development indicators.

Criteria	Definition
Sustainability	Sustainability is concerned with measuring whether the benefits of an activity are likely to continue after donor funding has been withdrawn. Projects need to be environmentally as well as financially sustainable.

Source: New JICA Guidelines for Project Evaluation First Edition (2010)

1.3 Members of Mid-term Review Team

The members of the Mid-term Review Team are shown below.

<Timorese side>

Name	Role in the Team	Position, Organization
Mr. Belchior Nunes Cardoso	Leader, Evaluation of NLC activities	Advisor, National Logistic Center, Ministry of Tourism, Commerce and Industry
Ms. Carla Maria Jose da Cruz	Evaluation of MAF activities	Financial Assistant, Ministry of Agriculture and Fisheries

<Japanese side>

Name	Role in the Team	Position, Organization
Mr. Kenichi Shishido	Leader	Director General, Rural Development Department, JICA
Mr. Shunichi Nakada	Agricultural Policy	Senior Advisor, JICA
Mr. Shunji Segawa	Cooperation Planning	Team 1, Agricultural and Rural Development Group 1, Rural Development Department, JICA
Ms. Sawa Hasegawa	Evaluation Analysis	Principal Consultant, Project Management Department, OPMAC Corporation

1.4 Schedule of Mid-term Review

The Mid-term Review was conducted from 4th to 29th March 2019 in Timor-Leste. The detailed schedule is shown in Annex 3.

2. OVERVIEW OF THE PROJECT

2.1 Background of the Project

Timor-Leste depends heavily on natural resources such as crude oil and natural gas for its source of revenue. It accounts for almost 80% of GDP which is a big concern as the resources are said to be possibly depleted in the near future. It is imperative for the country to develop industries which can cover the revenue loss of the natural resources.

The agricultural sector accounts for about 80% of GDP when natural resources are excluded, and it is one of the most promising industries in the country. About 60% of labor force is engaged in the agricultural sector, and it is creating further employment opportunity for younger generation. In 2011, the Government of Timor-Leste formulated the Strategic Development Plan 2011-2030 in which the agricultural sector has been assessed as one of the most significant sectors for economic development, and it has also articulated the achievement of food self-sufficiency by 2020. However, under the current situation, small-scale farmers who are the majority of the country population are still depending on inefficient and low-input traditional style agriculture, and thus improvement of productivity is insufficient. Especially rice production is limited to fill only 40% of domestic demand. The trend of country's dependency on import rice will accelerate further in the future if the situation continues.

To address the issues, the Government of Timor-Leste and JICA agreed to implement the project titled "The Project for Increasing Farmers Households' Income through Strengthening Domestic Rice Production in Timor-Leste" starting from September 2016.

2.2 Outline of the Project

The contents of the current PDM is as follows.

(1) Project name

The Project for Increasing Farmers Households' Income through Strengthening Domestic Rice Production in Timor-Leste

(2) Project period

September 2016 – September 2021 (five years)

(3) Implementing agencies

Ministry of Agriculture and Fisheries (MAF), Ministry of Tourism, Commerce and Industry (MTCI)

(4) Project sites

Output 1: Buluto and Maliana I irrigation schemes, and its surrounding area

Output 2: Buluto and Maliana I irrigation schemes

Output 3: Dili, Baucau, Manatuto and Bobonaro Municipalities

Output 4: Rice stockpiling warehouses in Dili and Maliana

Output 5: Other municipalities such as southern part of Timor-Leste under the initiative of MAF

(5) Target groups

Direct target: Staff of respective ministries and municipalities, Targeted farmers in Baucau, Manatuto, Bobonaro and other municipalities such as southern part of Timor-Leste, and Targeted rice retail traders

Indirect target: All farmers in Baucau, Manatuto, Bobonaro and other municipalities, Private sector related to rice distribution and marketing, and Consumers

(6) Super Goal, Overall Goal, Project Purpose and Outputs

Super Goal:

Livelihood of farmers living in Timor-Leste is improved through increase in income by improved rice production.

Overall Goal:

Livelihood of farmers living in the targeted municipalities is improved through increase in income by improved rice production.

Project Purpose:

Farmers households' income from rice production in the project sites is increased through the improvement of value-chain (Production, Manufacturing & Processing, Distribution, and Sales/Consumption).

Outputs:

1. Cultivation techniques for increasing rice production are improved in the project sites.
2. Capability of operation and maintenance (O&M) for irrigation facilities is strengthened.
3. System(s) of domestic rice distribution/sales are prepared for the rice branded by the project.
4. The rice purchasing/distribution system of government is improved.
5. The Project activities are shared with stakeholders in other municipalities such as southern part of Timor-Leste under the initiative of MAF.

3. PROGRESS OF THE PROJECT

3.1 Inputs

Inputs from both the Japanese and the Timorese sides have been provided largely as planned with some changes from both sides. On the Japanese side, a dispatch of long-term expert in charge of Output 2 (strengthening of capability of O&M for irrigation facilities) has been postponed due to a change of project approach after starting the project, and a long-term expert in charge of Output 4 (improvement of rice purchasing/distribution system of the government) is yet to be dispatched due to a difficulty to appoint the person concerned. A short-term expert for Output 4 has been dispatched instead. As for the Timorese side, a budget disbursement was delayed in 2018 due to a presidential election and corresponding changes in political administrations made in June 2018. The summary of inputs provided by both sides is as follows (the details are shown in Annex 4).

(1) Japanese side

Items	Inputs Provided
Dispatch of experts	5 long-term experts and 8 short-term experts in charge of the following 10 assignments were dispatched as of the end of March 2019. <Long-term> 1) Chief Advisor 2) Rice Cultivation Techniques 3) Agricultural Distribution and Sales 4) Project Coordinator <Short-term> 1) Rice Cultivation Techniques 2) Rice Farming Survey 3) Survey on Rice Distribution and Sales 4) Irrigation Management 5) Organization of Water Users Association (WUA) 6) Rice Stockpile Management (5S・KAIZEN) 7) Rice Processing Products
Counterpart training	3 persons participated in the counterpart training at Okinawa in Japan as of the end of February 2019 concerning establishment of farmers market.
Provision of equipment	32 items including vehicles and threshing machines (total cost: USD 305,725) were provided as of the end of March 2019.
Operational cost	The local operation cost amounting to USD 890,147 was borne by the Japanese side as of the end of December 2018.

(2) Timorese side

Items	Inputs Provided
Allocation of counterpart personnel (C/P)	The following C/P were assigned as of the end of March 2019. 1) 2 Co-Chairpersons from MAF as well as the National Logistic Center (NLC), MTCI 2) Project Director from MAF 3) 2 Co-Project Managers from MAF as well as NLC, MTCI 4) Staff of MAF and NLC, MTCI

Items	Inputs Provided
Facility and equipment	Project office space, office equipment, electricity, parking space were provided by MAF in Dili, Buluto and Maliana.
Operational cost	The electricity cost for the project offices in MAF, Buluto and Maliana amounting to USD 2,400 has been borne by the Timorese side as of the end of December 2018. Note: It is difficult to calculate the amount expended for the project so only the electricity cost expended is shown above.

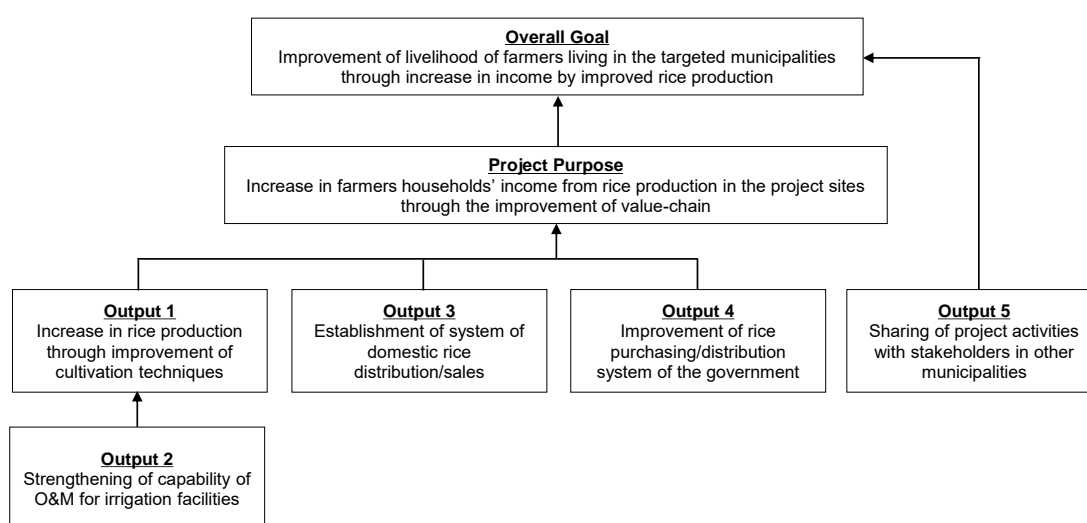
3.2 Activities

The project activities consist of the following five components; i.e. 1) increase in rice production through improvement of cultivation techniques (Output 1), 2) strengthening of capability of O&M for irrigation facilities (Output 2), 3) establishment of system(s) of domestic rice distribution/sales (Output 3), 4) improvement of rice purchasing/distribution system of the government (Output 4), and 5) sharing of project activities with stakeholders in other municipalities such as southern part of Timor-Leste (Output 5). Activities on the three components of Output 1, 3 and 4 are planned to be implemented to improve a value-chain of rice in Timor-Leste and achieve Project Purpose at the end of the project. In particular, activities of Output 1 are mainly related with the upstream chains of ‘production’ and ‘harvesting’ in the rice value-chain and activities of Output 3 and Output 4 are mainly related with the downstream chains of ‘processing,’ ‘distribution’ and ‘sales/consumption.’

On the other hand, activities of Output 2 are not directly connected to improvement of the rice value-chain, and are supposed to be implemented to contribute to achievement of Output 1.

Furthermore, activities of Output 5 are planned to be implemented to disseminate the project effects to other municipalities in Timor-Leste and achieve Overall Goal and Super Goal after the project implementation.

The following figure shows the relationship among Overall Goal, Project Purpose and the respective Outputs.



Source: Prepared by the Mid-term Review Team

Figure 1: Relation among Overall Goal, Project Purpose and Outputs

In the original plan, the main project activities were to provide training on each Output; i.e. 1) training on cultivation techniques (the Improved Rice Cropping System training) to target farmers, 2) O&M training for irrigation facilities to WUA members, 3) training on domestic rice distribution/sales (marketing, processing, packaging, etc.) to target farmers as well as business operators, and 4) 5S training for rice storage management to government staff.

However, in the early stages of the project, it was found through an understanding of the actual situation in the field that the planned approach consisting of provision of training was not so effective to motivate and fully involve farmers especially for the target of Output 1 and Output 2.

The approach of “Farmers Dialogue” was introduced to the project instead, which is a farmer-oriented approach that directly involves each farmer in the project sites of Buluto and Maliana I irrigation schemes. The Farmers Dialogue mainly consists of the four activities; i.e. 1) data collection on farmers’ activities, 2) extension of farming techniques, 3) dissemination of market information, and 4) monitoring of farmers’ activities.

Through the Farmers Dialogue, several factors to demotivate farmers were identified. A critical issue was distrust among stakeholders in a rice production system. A number of supports previously provided to farmers made adverse impacts on them such as dependency on the government and development partners or concerns about inequality of government services, which resulted in distrust among stakeholders (farmers, extension officers, the government, development partners).

The second factor is a structural issue surrounding the rice industry in Timor-Leste. A premature rice value chain for domestic rice combined with dependency on low-cost imported rice which limit farmers sales opportunity for their production. As a result, farmers tend to produce rice only for self-consumption, which gives a bias in farming practice towards extensive and low input farming (no/limited farm inputs and labors). This hindered adoption of new technologies which generally require additional inputs and labors.

Based on the above recognition, the project identified simplified set of techniques (cropping calendar, line transplanting and weed management) which farmers may possibly adopt under the current situations without external inputs as well as possibly increase their market opportunities through early harvesting and double cropping. In fulfilling this aim, a collaboration between farmers and local authorities as well as involvement of local stakeholders are required throughout the entire production system including water management and value chain. This approach was set as a core tool to achieve Project Purpose.

The target farmers of the project are in 1) Buluto irrigation scheme (780 ha irrigation area in total) located in Baucau Municipality and Manatuto Municipality and 2) Maliana I irrigation scheme (840 ha irrigation area in total) located in Bobonaro Municipality. The number of the target farmers per the target area obtained from the baseline survey is shown below. The total number of target farmers (household base) is 1,519.

Table 2: Number of Target Farmers per Area

Irrigation Scheme	Municipality	Sub-municipality	Village	Area Covered (ha)	No. of Farmers (household)
Buluto	Baucau	Vemassee	Vemassee Tasi	394	199
			Caicua	11	11
	Manatuto	Laleia	Uaigae	54	47
			Lifau	131	96
			Hatu Ralan	167	114
	Total			757	467
	Maliana I	Bobonaro	Maliana	Lahomea	346
Ritabou				570	438
Holsa				79	67
Odomau				92	77
Raifun				301	211
Total			1,388	1,052	
Grand Total				1,519	

Source: Prepared by the Mid-term Review Team based on the reference provided by the project

Note: The numbers of target farmers above are from the baseline survey conducted in 2017 and the numbers were reduced to 1,461 (420 in Buluto and 1,041 in Maliana I) at the follow-up survey conducted in 2018 since some farmers in Maliana I were not at home and farmers in Uaigae Village in Buluto were not visited at that time.

As referred to in “3.1 Inputs,” a long-term expert in charge of Output 2 has yet to be assigned as well as full-scale activities on Output 2 have yet to be implemented. The Project has judged that it is more effective to involve farmers and WUA members and to encourage their initiative in handling O&M for irrigation facilities.

On the other hand, the activities of Output 3 to establish the system of domestic rice distribution/sales have been implemented almost as planned under cooperation from the National Directorate of Agro-Commerce of MAF although the training has been provided to the target as a daily On-the-job-training (OJT).

As for Output 4, also as referred to in “3.1 Inputs,” a long-term expert in charge has yet to be assigned due to absence of expert available and a short-term expert has been assigned instead from October 2018. The 5S training to improve rice stockpile management was mainly provided to staff of Bebora Warehouse located in Dili and Maliana Warehouse located in Bobonaro in February 2019. However, activities on improving the domestic rice purchasing/distribution system of NLC have yet to be implemented due to the absence of expert in charge.

The activities of Output 5, namely sharing of project activities with stakeholders in other municipalities such as southern part of Timor-Leste has yet to be implemented since workshops and seminars for other municipalities are to be conducted in the rest of the project period.

The following Figure 2 shows a concept diagram of the project based on the changed approach.

Regarding the current results of Indicator 1-1, the production amount of rice (paddy) in Buluto and Maliana I irrigation schemes obtained at the baseline survey conducted in 2017 and the second survey conducted in 2018 as part of the Farmers Dialogue are as follows.

Table 3: Production Amount of Paddy in Buluto and Maliana I Irrigation Schemes

	2017			2018			Increase rate
	Total production amount	Number of farmers included	Average production amount per farmer	Total production amount	Number of farmers included	Average production amount per farmer	
Buluto	1,347 ton	464	2.90 ton	1,116 ton	420	2.66 ton	-8%
Maliana I	3,435 ton	1,047	3.28 ton	3,302 ton	1,041	3.17 ton	-3%
Total	4,782 ton	1,511	3.16 ton	4,418 ton	1,461	3.02 ton	-4%

Source: Baseline survey and Report on the second Farmers Dialogue

As shown above, the production amount of rice in the project sites decreased. The current achievement level of Indicator 1-1 is therefore low as of the time of Mid-term Review.

Regarding the current results of Indicator 1-2, IRCS training has not been implemented in the project since the implementation method of training for farmers has been changed from provision of IRCS training to a direct approach to farmers through the Farmers Dialogue as mentioned above. The data on understanding level of participants in IRCS training are therefore not available.

Instead of conducting IRCS training, intensive instructions on rice cultivation techniques including nursery preparation, land preparation, water intake management, line-transplanting, weed control were provided to farmers in the project sites. The following table shows the number of participants in the instructions and the practice rate of instructions among the target farmers.

Table 4: Number of Participants in Instructions and Practice Rate of Instructions

	2017		2018	
	No. of farmers participated	No. of farmers practicing after participating in the activity	No. of farmers participated	No. of farmers practicing after participating in the activity
Buluto	16	11	42	39
Maliana I	42	27	42	38
Total	58	38	84	77
Practice rate	66%		92%	

Source: Reference provided by the project

As shown above, the average practice rate of instructions on rice cultivation techniques is 79%.

In addition, the socialization workshops to introduce the “Normalization of Cropping Calendar” were held for farmers in Buluto and Maliana irrigation schemes. The Normalization of Cropping Calendar promotes farmers for timely cropping to have more opportunities of selling their rice when the demand by the market is high and also of implementing second cropping within the same rainy season. The workshops were held 5 times in Buluto in September 2018 and 7 times in Maliana I in October 2018 with participation of 272 farmers in Buluto and 377 farmers in Maliana I, the total being 649 farmers. Advantages of practicing the normalization of crop calendar and

rice cultivation techniques such as line-planting/line-transplanting, weeding, etc. have been delivered to farmers in the project sites through the monitoring staff employed by the project.

As a result of the socialization workshops, the launching ceremony for nursery transplanting was held with a participation of the Minister of MAF on 12 December 2018 in Buluto and on 14 December 2018 in Maliana I. 148 farmers in Buluto and 218 farmers in Maliana I followed the normalization of crop calendar and started transplanting within one month after the launching ceremony.

It was observed that the adoption of technology by farmers is still limited. The Mid-term Review Team identified several reasons for the limitation. The project needs to identify solutions for them and guide farmers to overcome the following issues.

- ✓ Technical concern
Water management for early transplanting, water availability during dry season growth, possible animal attack to the nursery or insect/bird attack to the matured rice, harvesting during rainy season
- ✓ Market concern
Market opportunities are still not visible for farmers, opportunities for other income sources (pension, construction, work in abroad)
- ✓ Mindset of local farmers
Farmer tend not to believe new technology until they actually see the successful case

According to the results above, the current achievement level of Output 1 is considered to be low if evaluated based on the current results of both indicators above. The approach to implement the activities on Output 1, however, was largely changed from the original plan so that the present indicators are not appropriate to verify the achievement of Output 1. The Mid-term Review Team therefore proposes to assess the achievement of Output 1 based on different indicators to be revised in accordance with the change of approach.

Output 2: Capability of operation and maintenance (O&M) for irrigation facilities is strengthened.
Indicators: 2-1. Rotation system on collective work to remove sediment at main irrigation facilities is established and the WUA is continuously operated at least one year in the project sites. 2-2. 80% of trainees of O&M training understand 80% contents of the training.

Regarding the current results of Indicator 2-1, the rotation system on collective work to remove sediment at main irrigation facilities has not been established both at Buluto and Maliana I irrigation schemes, while cleaning of main canals to remove sediment was conducted in some parts of the schemes before the start of rainy season of 2019 as well as cleaning of some of branch canals is conducted by farmers groups in Maliana I. WUA was organized at Buluto in early 2017 when the rehabilitation of Buluto irrigation facilities was completed and at Maliana I in 2009. However, WUA organized at Maliana I did not function more than one or two years after its establishment and WUA organized at Buluto has also not functioned since its formation. The current achievement level of Indicator 2-1 is low as of the time of Mid-term Review.

Difficulty of water management in Buluto includes the two issues. First, after the introduction of modern irrigation scheme, traditional mechanism of water management was restructured and during this transition stage, no rules were enforced to maintain equal water distribution. As a result, even water availability was significantly improved, many farmers were deeply dissatisfied with water management. Second, new irrigation scheme combined several traditional irrigation

scheme into a single system. As a result, new water system faced a challenge to distribute water equally among sub-scheme. The project has set up a coordination committee composed by five villages covered by irrigation system and supported development of rules and regulations. Finalization of this process and support on actual implementation are expected to the project during the remaining project period.

Regarding the current results of Indicator 2-2, O&M training for irrigation facilities to WUA members has not been implemented in the project. The data on understanding level of participants in O&M training are therefore not available, so it is not possible to verify the current achievement level of Indicator 2-2.

The strategy paper on capability of O&M for irrigation facilities was prepared in May 2018 based on the survey results conducted by the Professor Kakuta from Asia University in February 2018. Professor Kakuta conducted a survey at the Buluto irrigation scheme in February 2019 again and proposed a management of irrigation facilities in the form of making existing function in the community useful. The activities of Output 2 are to be implemented based on the proposal.

According to the results above, same as Output 1, the current achievement level of Output 2 is considered to be low if evaluated based on the current results of both indicators above. It is difficult to verify the current achievement level of Output 2 since the results of two indicators cannot be obtained. The approach to implement the activities on Output 2 was largely changed from the original plan same as Output 1, so the Mid-term Review Team proposes to assess the achievement of Output 2 based on different indicators to be revised in accordance with the change of approach.

Output 3: System(s) of domestic rice distribution/sales are prepared for the rice branded by the project.	
Indicators:	<p>3-1. 3,000 t milled rice (5,000 t paddy rice) of the domestic rice branded by the project is sold through the distribution/sales system(s) at the end of the project period in Buluto and Maliana I.</p> <p>3-2. 80% trainees of trainings of farmers' association management; training of marketing; training of rice milling, processing, and packaging understand 80% contents of the trainings.</p>

Regarding the current results of Indicator 3-1, domestic rice produced by the target farmers in Buluto has been purchased by ACELDA, a private company based in Baucau Municipality and involved with exporting business of candlenuts oil to USA. ACELDA started the domestic rice sales business in 2014, purchasing paddy from farmers not only around Baucau but also in Maliana. ACELDA has been selling its milled rice to supermarkets in Dili and its own shops in Baucau since its start of rice business and started to directly sell it to hotels and restaurants with support from the project.

On the other hand, domestic rice produced by the target farmers in Maliana I has been purchased by the Center for Agricultural Service of Kuda Ulun Bobonaro (CAAKUB), a farmer's association based in Bobonaro Municipality. CAAKUB was reorganized in 2016 with support from the National Directorate of Agro-Commerce of MAF and started to purchase paddy from farmers in Maliana I with a support of the project. The rice milled at CAAKUB is branded with its logo mark and has been sold to hotels and restaurants in Maliana and Dili.

The following table shows the amount of rice purchased by ACELDA and CAAKUB in 2017 and 2018.

Table 5: Amount of Paddy Rice Purchased by ACELDA and CAAKUB

		2014	2015	2016	2017	2018	Total
ACELDA	Amount of paddy rice purchased (ton)	22.5	91.2	96.6	46.9	253.7	300.6
	Number of farmers purchased from (household)	-	-	-	200	358	558
	Amount of payment (USD)	-	-	-	24,816	101,492	126,308
CAAKUB	Amount of paddy rice purchased (ton)	-	-	-	39.6	72.4	112
	Number of farmers purchased from (household)	-	-	-	38	89	127
	Amount of payment (USD)	-	-	-	15,554	30,389	45,943

Source: Reference provided by the project

Note: The data of 2014, 2015 and 2016 are provided to show the past amount of paddy rice ACELDA purchased. CAAKUB started their sales of local rice by the project.

As shown above, the total amount of paddy rice sold in Buluto and Maliana I is 412.6 ton as of the time of Mid-term Review. Although the current data is almost one-tenth of the target value of 5,000 ton, the potential amount of paddy rice produced for sale in both areas could be no more than 1,000. The target value of 3,000 ton milled rice (5,000 ton paddy rice) is therefore considered to be not realistic. Furthermore, room for increase of rice sales is very limited since a demand for domestic rice is small in the current market in Timor-Leste. The Mid-term Review Team proposes to set a more realistic target value of Indicator 3-1 based on a real supply capacity as well as a demand in the market.

In relation with the activities of Output 3, the Farmers Market is planned to be opened in May 2019 with an initiative of the Agro-Commerce Department of MAF whose staff participated in Training in Japan and took a course of “Establishment and Management of Farmers’ Market” in October 2018. In addition to the channels of ACELDA and CAAKUB, farmers in Buluto and Maliana I are going to have one more channel of Farmers Market and the amount of rice sold by them is going to increase through this new channel.

Regarding the current results of Indicator 3-2, trainings of farmers’ association management; training of marketing; training of rice milling, processing, and packaging have been implemented through OJT for the members of CAAKUB, ACELDA and even for staff of the Agro-Commerce Department of MAF. The data on understanding level of participants in the training, however, has not been collected. Since this indicator is also considered to be not appropriate to assess the achievement of Output 3, it is proposed to set a different indicator instead of the present Indicator 3-2.

According to the results above, the current achievement level of Output 3 is considered to be low if evaluated based on the current results of indicators although the activities of Output 3 have been implemented at a good rate as mentioned above. Since the present indicators set for Output 3 are not appropriate, it is proposed that the achievement of Output 3 should be also assessed based on different indicators to be revised.

Output 4: The rice purchasing/distribution system of government is improved.
Indicators: 4-1. The ratio of animal feeding is decreased to less than 50%. 4-2. 80% trainees of 5S (Sort, Straighten, Shine, Standardize, and Sustain) training for rice storage management understand 80% contents of the training.

Regarding the current results of Indicator 4-1, the data on this indicator has never been collected so that it is not possible to verify the current achievement level of Indicator 4-1. Since this indicator is considered not appropriate to assess the achievement of Output 4, it is recommended to set a different indicator instead of the present Indicator 4-1. It is more appropriate to set a quantitative indicator to measure an increase in amount of domestic rice purchased by NLC to assess the achievement of Output 4.

NLC is engaged in purchasing and sales of both domestic rice and imported rice in Timor-Leste. Although NLC has had difficulty in purchasing domestic rice since the start of the project due to a budget constraint, a budget to purchase 10,000 ton of domestic rice was approved for NLC in 2019 with a Prime Minister’s initiative in promotion of domestic rice. More and more farmers will therefore have opportunity for selling their paddy to NLC from 2019. 200 ton out of the 10,000 ton of domestic rice are planned to be used for the School Feeding Program led by the Ministry of Education.

Furthermore, since the administrator of NLC spoke that NLC is going to preferentially purchase paddy from farmers in Buluto and Maliana irrigation schemes, sales amount of paddy at the project sites is expected to increase from the first cropping in 2019. Followed by this positive chance, the project and NLC discussed on a cooperation to promote the purchasing of rice from the target farmers of the project and made the Joint Operation Plan to show actions to be taken by both sides with a timeline in February 2019.

Regarding the current results of Indicator 4-2, 5S (Sort, Straighten, Shine, Standardize, and Sustain) training for rice storage management was conducted during 11-13 February 2019. There were 35 participants in total; 22 participants from NLC including managers and workers of Bebora Warehouse, Maliana Warehouse and Tibar Warehouse, 5 participants from the Agro-Commerce Department of MAF, 3 participants from the Department of School Feeding Program of the Ministry of Education, 2 participants from CAAKUB and ACELDA respectively, and 1 participant from World Food Program.

The test on the participant’s comprehension was conducted on the last day of 5S training, which is measured with scores from 0 to 20. The result of test are as follows.

Table 6: Test Result on 5S Training

Score	8	11	12	15	16	17	18	19	20	Total No.
No. of participants	1	1	1	5	1	2	2	11	11	35

Source: Reference provided by the project

Based on the results above, 27 participants out of 35 participants got scores more than 15, which indicates that 77% of participants understood 80% contents of the training, slightly less than the target value of 80%.

The training was conducted only one time and it is important to repeatedly conduct the 5S training to have those concerned understand and acquire knowhow on the proper rice storage management.

According to the results above, the current achievement level of Output 4 is considered to be in half way as of the time of Mid-term Review. The achievement of Output 4 is proposed to be assessed based on the results of revised indicator of Indicator 4-1 and Indicator 4-2.

Output 5: The Project activities are shared with stakeholders in other municipalities such as southern part of Timor-Leste under the initiative of MAF.
Indicators: 5-1. Meetings and workshops on the project activities are regularly held for stakeholders in other municipalities such as southern part of Timor-Leste. 5-2. Trainings on the project activities are implemented at least 11 times for stakeholders in other municipalities such as southern part of Timor-Leste.

Regarding the current results of Indicator 5-1, the meetings and workshops for stakeholders in other municipalities such as southern part of Timor-Leste are yet to be implemented. Same as Indicator 5-1, the training regarding Indicator 5-2 is yet to be implemented as well.

Since the activities of Output 5 are planned to be implemented after other Outputs are to be achieved to some extent, the achievement level of Output 5 needs to be verified later.

3.4 Project Purpose

Same as Outputs, the current progress and prospect for future achievement of Project Purpose is considered based on the current achievement level of indicators set for Project Purpose in PDM. The indicator set for Project Purpose as well as its current result is as follows.

Project Purpose:	Farmers households' income from rice production in the project sites is increased through the improvement of value-chain (Production, Manufacturing & Processing, Distribution, and Sales/Consumption).
Indicator:	Farmers household' average annual income is increased by 50% ^{Note} in Buluto and Maliana I. Note: 50% increase in the farmers' income shall be achieved by 36% increase through rice production and 14% increase through other sources of income.

The data on average annual income of farmers household in Buluto and Maliana I obtained at the baseline survey conducted in 2017 and the second survey conducted in 2018 as part of Farmers Dialogue are as follows.

Table 7: Average Annual Income of Farmers Household in Buluto and Maliana I

Unit: USD

	2017		2018		Increase rate	
	Income from rice sale	Income from other sources	Income from rice sale	Income from other sources	Income from rice sale	Income from other sources
Buluto	114	3,472	119	-	4%	-
Maliana I	213	3,337	183	-	-14%	-
Both	183	3,378	165	-	-10%	-

Source: Baseline survey and Report on the second Farmers Dialogue

Note: The data on income from other sources were not collected in the second survey.

As shown above, the average annual income from rice sales in 2018 decreases from that in 2017. The main reason of decrease in rice sales is considered to be the decrease in production amount of rice in the project sites as shown at the result of Indicator 1-1 of Output 1. Although the amount of rice purchased by ACELDA and CAAKUB increased especially in 2018, this increase is not reflected to the income data above which were collected in the beginning of 2018.

Furthermore, even if the project achieves the increase in rice production amount through Output 1 and 2, it would be difficult to increase the farmers' income from rice sales without achievement of Output 3 and 4.

Based on the result of indicator, the current achievement level of Project Purpose is considered to be low as of the time of Mid-term Review. It is prospected to be difficult to achieve Project Purpose unless the sales amount of rice of farmers in the project sites will increase by the end of the project through the achievement of Output 3 and 4.

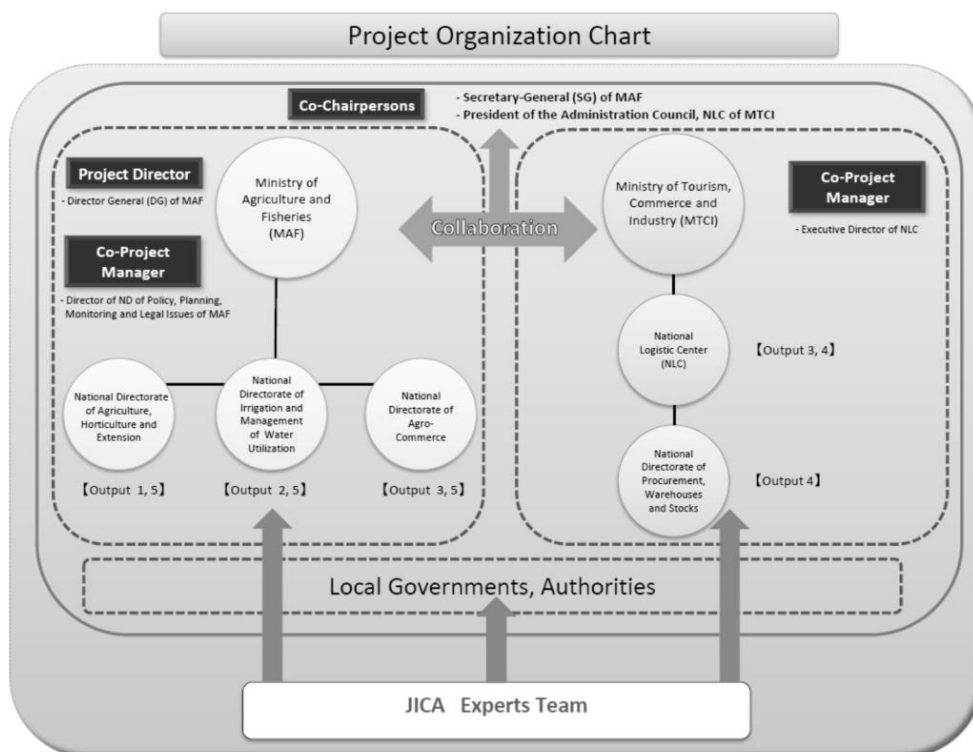
3.5 Implementation Process

(1) Project implementation structure

The implementing agencies of the project are MAF and NLC, MTCI. The three directorates of MAF are engaged in the project, namely the National Directorate of Agriculture, Horticulture and Extension mainly in charge of Output 1, the National Directorate of Irrigation and Management of Water Utilization mainly in charge of Output 2, and the National Directorate of Agro-Commerce mainly in charge of Output 3. NLC under MTCI is engaged in Output 3 and Output 4, and the National Directorate of Procurement, Warehouses and Stocks of NLC is especially engaged in Output 4.

In addition to the agencies above, the local government such as the Municipal Directors of MAF, extension officers, sub-municipality administrators, village chiefs, etc. in the two project sites of Buluto and Maliana I irrigation schemes are involved in the project as those concerned in the public-sector at the district (municipality), sub-district (sub-municipality) and village levels.

The following figure shows the project implementation structure.



Source: Provided by the project

Figure 3: Project Implementation Structure

(2) Project management situation

As the management board of the project, the Joint Coordinating Committee (JCC) was established to facilitate inter-organizational coordination, approve annual work plans, review overall progress, conduct monitoring and evaluation of the project, and exchange opinions on major issues that arose during the project implementation. The members of JCC consist of the representatives of MAF and NLC, JICA experts and the representatives of JICA Timor-Leste Office with the chairpersons being the Secretary-General of MAF and the Administrator of NLC. The JCC meetings have been held twice a year as planned, five times so far, and the progress, challenges and issues to be changed/improved of the project have been reported and shared among the members.

While JCC meetings and regular meetings have been held as planned and the progress and challenges of the project have been shared among the members concerned, these reviews have not been made based on PDM since the project activities have been implemented with largely changed from the original PDM.

In addition, the project is requested to submit reports called “Monitoring Sheets” to be made based on PDM and PO twice a year, which are to report what kind of activities have been done, what kind of achievements have been made, what kind of issues should be improved, etc. While the reports have been submitted as planned, the change of approach and activities made in the project have not been explained in the reports although they were largely changed from the original PDM.

Furthermore, while the implementing agencies of the project are MAF and NLC, activities especially for Output 1 and 2 have been implemented with more participation of the local authorities and project staff employed by the project than participation of MAF and NLC.

Considering the implementation and management situations above, it is considered that the project management has not been made fully PDM-based. More participation and involvement of MAF and NLC are expected in the second half of the Project so that the Timor-Leste side can expand the project effects to other areas after the end of the project.

(3) Factors that promoted realization of project effects

The project had the following promoting factors.

1) Strong support for promotion of domestic rice provided by the new Prime Minister

The Prime Minister inaugurated in June 2018 has provided positive and strong support for domestic rice promotion since his taking office. The launching ceremony for nursery transplanting was held with a participation of the Minister of MAF both in the Buluto and Maliana I irrigation schemes in December 2018 and this greatly contributed to encouraging farmers in the project sites to follow the crop calendar. A high-level meeting on the strategy for domestic rice promotion was held in February 2019 and additional budget to purchase domestic rice was approved for NLC with the Prime Minister’s initiative.

The First Lady has also provided positive support for domestic rice promotion; e.g. she has purchased rice from CAAKUB and attended a signing ceremony for CAAKUB’s making a contract with hotels and restaurants.

The great support provided by the Prime Minister and the First Lady has contributed to encouragement of farmers as well as realization of project effects.

2) Positive support for CAAKUB provided by MAF

While CAAKUB had not been functioning as a farmers association for several years, it was reorganized in 2016 with a great support from MAF. CAAKUB started to purchase paddy from farmers in Maliana I and this has contributed to increase in rice sold among farmers in Maliana I and income from rice selling.

3) Positive support for promotion of domestic rice provided by the ACELDA Company

While ACELDA was originally involved with exporting business of candlenuts oil, it started a domestic rice sales business in 2014 to promote domestic materials, although the local rice business is not yet profitable for them. ACELDA's engagement in purchasing paddy from farmers in Buluto has greatly contributed to increase in rice sales in the project.

(4) Factors that inhibited realization of project effects

The project experienced the following challenges which negatively influenced realization of project effects as well as smooth implementation of the project activities.

1) Recent trend of a prominent position of imported rice in the rice market of Timor-Leste

While the production amount as well as the harvested area of domestic rice have been decreased in Timor-Leste due to the low motivation for rice cultivation among farmers mentioned above, the amount of imported rice mainly from Vietnam (approximately 80% of the imported rice) and Thailand (approximately 18%) has been rapidly increased in inverse proportion to the amount of domestic rice. Since a price of domestic rice is almost double of imported rice, people are likely to consume the cheap imported rice. The less demand of domestic rice in the rice market of Timor-Leste has discouraged the project to increase the production amount of rice.

2) Insufficient long-term strategy and clear policy measures to promote domestic rice in Timor-Leste

Currently around 80% of rice is imported in Timor-Leste. The majority of imported rice comes from Vietnam and Thailand. The consumer price of imported rice is almost half of domestic rice, so post-harvest and value chain for domestic rice is still in the very early stage of development. Although the government has a policy to be self-sufficient in 2020, it cannot be achieved without a well-designed long-term strategy and clear policy measures. The insufficient long-term strategy, policy measures, as well as budget supports to realize the target have discouraged the project to increase the production amount of rice.

3) Low motivation for rice cultivation among farmers in the project sites

Farmers in the project sites are not so motivated to cultivate rice for sale. There are three main reasons for low motivation among farmers; i.e. 1) high production cost and low profit of rice sales, 2) having enough income sources other than rice sales, and 3) little access to the rice market.

First, according to data obtained from the Farmers Dialogue conducted in 2017, the average sales, cost and profit of rice among the 1,519 farmers households surveyed are 183 USD, 238 USD and -55 USD respectively. They have a minus profit of rice sales on average.

Second, according to data obtained from the same survey, the average gross income other than rice is 3,378 USD. They have much income other than the income from rice. Other income sources are salary, pension, sales of vegetables and livestock, etc.

Third, according to data obtained from the same survey, 69% of the farmers households surveyed did not sell their rice produced. It means that even if farmers produced a large amount of rice, they have little access to the rice market for sale.

These are the reasons why farmers are not motivated to increase their income through selling rice. More and more farmers are getting to cultivate rice only for their own consumption and deserted cultivated land are getting expanded in Timor-Leste. This discouragement among farmers made difficult for the project to promote more production of rice.

4) Loss of functioning traditional irrigation management after revision of Buluto irrigation facilities and establishment of new organization of WUA

The rehabilitation of Buluto irrigation facilities was completed in the beginning of 2017 and new organization of WUA to be engaged in the management of facilities was established. While the traditional irrigation management led by traditional water managers called “Kabuwee” had been functioning in the area, this function was lost with an establishment of new WUA. This has caused difficulty in promoting capacity development of WUA and the low achievement of Output 2.

4. EVALUATION OF THE PROJECT BY FIVE EVALUATION CRITERIA

This chapter overviews the project from the viewpoint of Five Evaluation Criteria. Regarding a judgement of the respective evaluation criteria, the following five scales of high, relatively high, medium, relatively low and low are used in this Mid-term Review.

4.1 Relevance

The relevance of the project is judged to be “relatively low” because of the following reasons.

(1) Consistency with the development policy of Timor-Leste

The project is consistent with the national development plan as well as the agricultural sector development policy of Timor-Leste. The current national development plan of Timor-Leste is the “Strategic Development Plan (SDP) 2011-2030” in which the agricultural sector has been assessed as one of the most significant sectors for economic development, and SDP has also articulated the achievement of food self-sufficiency by 2020.

The “MAF Strategic Plan 2014-2020” has a specific objective to increase rice production in the country. The Timorese government sets a specific goal to increase rice harvested area up to 50,000 ha as well as to increase the rate of domestic rice up to 70% in the rice market of the country by 2023.

Thus the project is in line with the national development policy above.

(2) Severe situations for promotion of domestic rice in Timor-Leste

As mentioned above, although the project objective of domestic rice promotion is consistent with the development policy of Timor-Leste, measures to realize the policy of domestic rice promotion have not been substantially taken by the Timorese government in the current situations.

As recent trends in production of domestic rice, the following table shows production amount, harvested area and yield of domestic rice in Timor-Leste for the current seven years.

Table 8: Production Amount, Harvested Area and Yield of Domestic Rice in Timor-Leste (paddy base)

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
Production amount (ton)	98,297	119,166	85,334	88,822	60,361	35,361	36,982
Harvested area (ha)	35,561	35,589	26,373	28,483	18,281	10,745	11,861
Yield (ton/ha)	2.76	3.35	3.24	3.12	3.30	3.34	3.12

Source: National Directorate of Agriculture, Horticulture and Extension, MAF, Global Trade Atlas 2017

As shown above, the production amount as well as the harvested area of domestic rice have rapidly decreased for the past seven years; both data in 2017 is almost one third of those in 2011. The yield has been consistent at around 3.2 ton/ha.

On the other hand, imported amount of rice has rapidly increased in the current seven years as shown below.

Table 9: Imported Amount of Rice in Timor-Leste (paddy base)

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
Imported amount (ton)	62,114	100,653	139,671	222,274	300,000	115,786	143,344

Source: National Directorate of Agriculture, Horticulture and Extension, MAF, Global Trade Atlas 2017

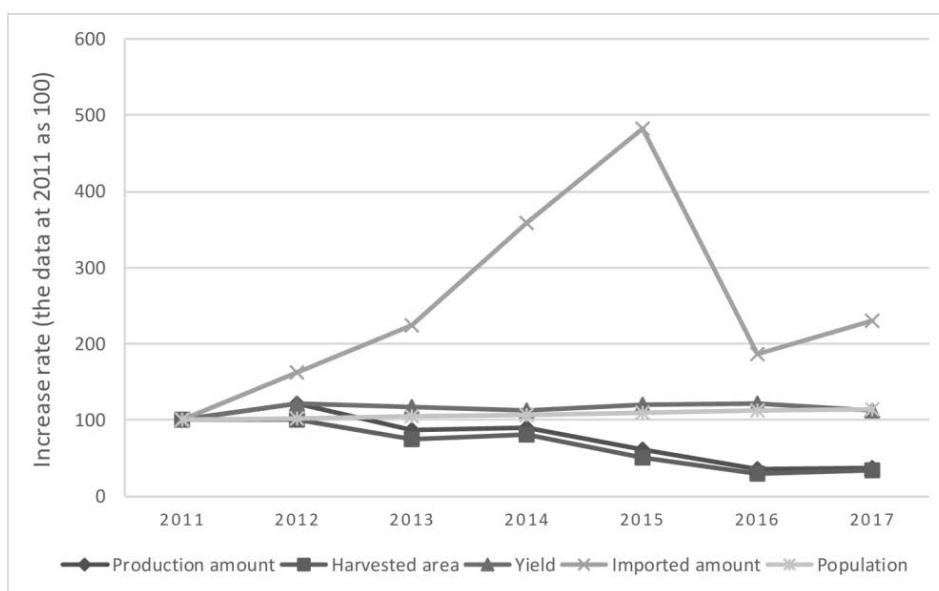
The following table shows the population in Timor-Leste. It has been increasing year by year.

Table 10: Population in Timor-Leste

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
1,131,523	1,156,760	1,184,366	1,212,814	1,240,977	1,268,671	1,296,311

Source: Timor-Leste – World Bank Open Data <<https://data.worldbank.org/country/timor-leste>>

The following is prepared to show all the trends above into a figure.

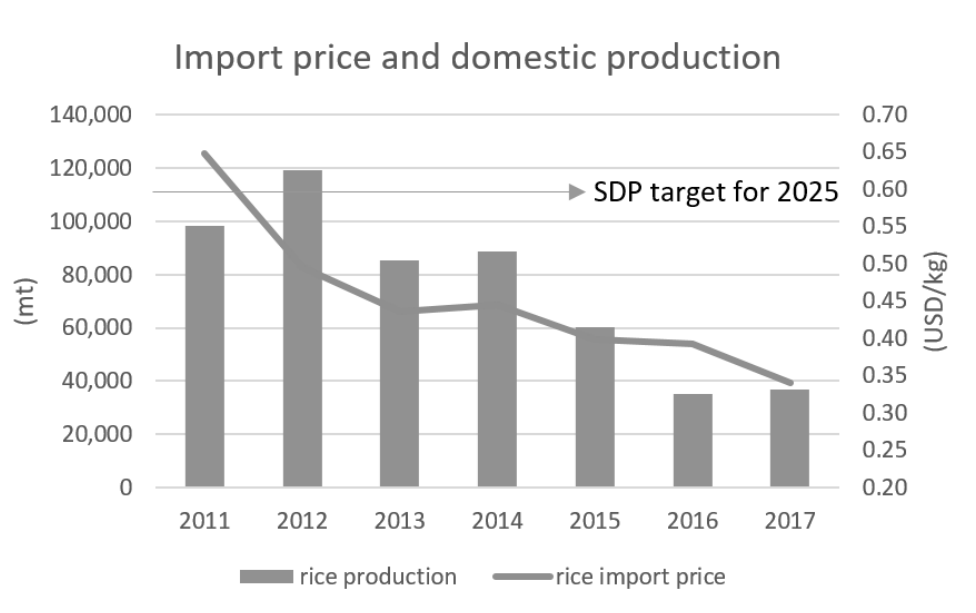


Source: Prepared by the Mid-term Review Team

Figure 4: Recent Trends in the Rice Market in Timor-Leste

As shown above, the amount of imported rice mainly from Vietnam and Thailand is increased while the production amount of domestic rice is decreasing, even though the consumption amount of rice is increases as the population of Timor-Leste grows. Since the price of domestic rice is almost double of imported rice, people are likely to consume the cheap imported rice.

As referred to in “(4) Factors inhibited realization of project effects” in “3.5 Implementation Process,” the main reason for the decrease in production amount and harvested area of domestic rice is that farmers are not so motivated to cultivate rice for sale. It is rational for them to find another income source or increase income from other sources rather than to increase rice sales income, which is low in profitability. The figure below clearly shows that the production of rice is discouraged as the price of imported rice becomes lower.



Source: Prepared by the Mid-term Review Team based on FAOSTAT, UN-Comtrade, National Directorate of Agriculture, Horticulture and Extension, MAF

Figure 5: Trend of the price of imported rice and the production of domestic rice

To overcome this situation, domestic rice needs to be competitive enough with imported rice. However, compared with the whole rice value chain of Vietnam, well-established seed distribution system, application of triple cropping system, mechanized farming system (tractors, transplanting, combine harvesters), high application of fertilizers, advanced large-scale rice processors, low-cost transportation system making use of canals, etc. all are underdeveloped in Timor-Leste. It cannot be achieved in a year or two, requires more than a decade and huge investment requires from both public and private sectors. This is why the government needs long-term strategy. To support the early stage of development, the government needs to take measures other than simple increase of productivity such as border control, market creation for domestic products through such as the School Feeding Program, farmers market, subsidy system to compensate productivity difference in a stepwise manner.

Considering all the factors above, the project is placed under severe situations and the relevance of the project is undermined. It would be difficult to reverse the trend of a prominent position of imported rice unless the government intervened in the rice market to fill the competitive gap between domestic and imported products as a transitional measure, which is an external condition beyond realm of the project.

(2) Consistency with the Japan’s Official Development Assistance (ODA) policy

The project is also consistent with Japan’s ODA policy for Timor-Leste. Both the “Country Assistance Policy for Timor-Leste” (May 2017) and the “Rolling Plan for Timor-Leste” (April 2018) by the Ministry of Foreign Affairs of Japan place “assisting the process for establishing the foundation of sustainable development of the country” as a basic policy for assistance, aligning with SDP as well as the Sustainable Development Goals (SDGs).

The Country Assistance Policy and the Rolling Plan also place the “promotion of industry diversification” as one of the priority areas. They specify that Japan assists Timor-Leste’s efforts in developing industries including agriculture and fishery, enhancing efficiency and developing

industrial human resources on the basis that Timor-Leste needs to diversify its industry away from the current economic structure which heavily depends on oil and gas development.

Thus the project is in line with the policy and plan above.

(3) Development needs of beneficiaries

The project objective is to increase farmers households' income through an increase in rice sales. An increase in production amount of domestic rice meets a need of the Timorese government and an increase in households' income meets a need of farmers. The current domestic rice produced in Timor-Leste, however, is mostly for self-consumption and the amount of domestic rice sold in the country is getting less recently as mentioned above.

In addition, it can be said that a distribution and sales system of imported rice has been already established in Timor-Leste since imported rice is widely distributed and sold nationally, while the system of domestic rice has not. It means that while there is a great need for developing and improving a domestic rice distribution and sales system in Timor-Leste, there is less need for increasing rice production among farmers. In this viewpoint, while the project largely meets the development need of the Timorese government, it does not directly meet the development need of farmers who have neither interest in increasing production amount of rice nor interest in selling their rice under the current market situations.

(4) Appropriateness of project design and approach

The project is designed to achieve an income increase from rice sales of farmers through an increase in production amount of domestic rice as well as an expansion of the domestic rice market in Timor-Leste. The design of the project is appropriate in that it covers both components.

It should be noted that the expansion of domestic rice market is inevitable to achieve the income increase. Even if the production amount of domestic rice is increased, the income increase could not be realized without the domestic rice market expansion, so it is necessary for the project to achieve the domestic rice market expansion at first. However, as mentioned above, it would be difficult to reverse the trend of a prominent position of imported rice unless the government intervened in the rice market to fill the competitive gap between domestic and imported products as a transitional measure, which are external conditions beyond the realm of the project.

Regarding the project approach, as mentioned in the previous chapter, the original approach of the project was found to be "not so effective" through an understanding of the actual situation in the field since farmers are not motivated to more produce and sell their rice. Part of the project activities were changed according to the change of project approach with consideration for enhancing effectiveness and sustainability of the project. The activities of Output 1 and 2 were especially changed from the original ones and has been implemented based on the Farmers Dialogue with taking a process of trial and error.

The revised PDM based on the revised approach of the project is proposed by the Mid-term Review and the project activities are going to be implemented based on the revised PDM for the rest of the project period.

4.2 Effectiveness

The effectiveness of the project is judged to be "medium" because of the following reasons.

As referred to in "3.4 Project Purpose," the project needs more efforts to achieve Project Purpose by the end of the project. However, also as referred to in "3.4 Project Purpose," even if the project

achieves the increase in rice production amount through Output 1 and 2, it would be difficult to increase the farmers' income from rice sales without achievement of Output 3 and 4.

Furthermore, as mentioned above, although a good progress has been observed in the activities of Output 3, the potential market size of relatively expensive domestic rice is still very limited under the current situations. Thus it is difficult to absorb all the increased production through Output 3 and 4 unless the government imposes effective policy to fill the competitiveness gap between domestic and imported products as a transitional measure, which is an external condition beyond the realm of the project. It is considered that the project has been implemented with very severe pre-conditions and that it is difficult to achieve Project Purpose which is the increase in farmers households' income from rice production through the improvement of rice value-chain unless the Timorese government take measures to realize the policy of domestic rice promotion. A long-term strategy and clear policy measures to promote domestic rice by the Timorese government are necessary to achieve Project Purpose.

Since it is difficult to aim for increasing rice production as well as increasing income from rice sales among farmers under the current environment in Timor-Leste, it would be an option that the project aims for carving out a niche in the rice market and pursue a niche strategy.

In addition, more policy dialogue with the central government is recommended to maximize the effectiveness of the project in order to encourage them to implement the policy on domestic rice promotion in the rest of the project period.

4.3 Efficiency

It is difficult to judge the efficiency of the project as of the time of Mid-term Review.

The efficiency of the project is assessed in view of the current produced outputs compared with the inputs provided. As referred to in "2.1 Inputs," both the Japanese and Timorese sides have provided their inputs largely as planned, although the long-term experts in charge of Output 2 and Output 4 have not been assigned.

At the same time, as referred to in "2.3 Outputs," the current produced levels of Output 1 and 2 are considered to be low even if the inputs are not provided in full as of the time of Mid-term Review, due to low motivation for rice cultivation among farmers in the project sites.

The achievements of Output 1 and 2 are to be visible in the second half of the project, so it is better to assess the efficiency of the project based on the levels of all Outputs produced in the rest of the project period.

4.4 Impact

It is difficult to judge the impact of the project as of the time of Mid-term Review.

(1) Prospect for future achievement of Overall Goal

Overall Goal and its indicator set in PDM are as follows.

Overall Goal:	Livelihood of farmers living in the targeted municipalities is improved through increase in income by improved rice production.
Indicator:	Farmers household' average annual income is increased by 32% in Baucau, Manatuto and Bobonaro municipalities in the period from 2021 to 2026. Note: 32% increase in the farmers' income shall be achieved by 18% increase through rice production and 14% increase through other sources of income.

Overall Goal and its indicator are almost the same as Project Purpose and its indicator with only a difference of target coverage between them; the target of Project Purpose is a direct target of farmers in Buluto and Maliana I while the target of Overall Goal includes indirect target of farmers in Baucau, Manatuto and Bobonaro municipalities.

Although it is difficult to project future achievement of Overall Goal at the time of Mid-term Review, it is clear that the Timorese government should take measures to realize the policy of domestic rice protection in order to achieve Overall Goal. A long-term strategy and clear policy measures to promote domestic rice by the Timorese government are needed. Also, same as the achievement of Project Purpose, the project is proposed to aim for income increase of farmers who produce rice for the target of customers who are likely to purchase a high-quality rice.

(2) Project impacts to be expected

There have been no reports of any positive or negative impact of the project in terms of the environmental and social aspects so far and it is unlikely that any positive and negative impact of the project will emerge in the remaining project period.

4.5 Sustainability

It is difficult to judge the sustainability of the project as of the time of Mid-term Review.

(1) Policy and institutional aspects

The Timorese Government has kept the policy of giving priority to the domestic rice promotion under SDP as well as the MAF Strategic Plan. Furthermore, as referred to in “(3) Factors promoted realization of project effects” in “3.5 Implementation Process,” the Prime Minister inaugurated in June 2018 has provided strong support for domestic rice promotion and a high-level meeting on the strategy for domestic rice promotion was held in February 2019. The political support for the domestic rice promotion is expected to be sustained in Timor-Leste during the project period. However, also as mentioned in “3.5 Implementation Process,” and “4.1 Relevance,” the political support may lose its momentum unless a long-term strategy and clear policy measures are agreed and introduced by the government.

(2) Organizational aspect

The project has positively involved the local authorities especially at the sub-municipality, village and sub-village levels and encouraged to make a good relationship between local authorities and farmers. While at the same time, as referred to in “(2) Project management situation” in “3.5 Implementation Process,” the project activities especially for Output 1 and 2 have been implemented with more participation of the local authorities and project staff employed by the project and with less participation of MAF and NLC during the early part of the project period. In view of an organizational sustainability of the project, it is desirable for the project to implement activities with more participation and involvement of MAF and NLC in the rest of the project period and to propose a system that the central and local governments can take over the mechanism for increase in the production and sales of domestic rice.

(3) Financial aspect

It has been difficult for MAF and NLC to secure and timely disburse the budget for continuous implementation of project activities. As referred to in “3.1 Inputs,” a budget disbursement was delayed in 2018 due to a presidential election and corresponding changes in political administrations made in June 2018. However, as referred to in “(3) Factors promoted realization of project effects” in “3.5 Implementation Process,” additional budget to purchase domestic rice

was approved for NLC with the Prime Minister's initiative. Continuous budget allocation for NLC to purchase domestic rice is necessary to achieve Project Purpose. This is a greatly positive promise for the project, so particular attention should be paid to the promise in the rest of the project period.

(4) Technical aspect

The technical and organizational capacity of all the target of the project including farmers in the project sites, WUA at Buluto and Maliana I, CAAKUB, etc. still needs to be improved. It is necessary for the project to continuously make efforts for their capacity development. Several concrete technical issues are already raised by farmers and other stakeholders as stated in Output 1 of "3.3 Outputs," so the project needs to show technical options to respond to those concerns.

5. CONCLUSION AND RECOMMENDATIONS

5.1 Conclusion

Based on the findings of the Mid-term Review, the Review Team concludes that it is difficult to clearly assess the current achievements of Outputs and a future prospect for achievement of Project Purpose if assessed based on the current PDM. It is also difficult to assess the project from the viewpoint of Five Evaluation Criteria as of the time of Mid-term Review.

On the other hand, the Review Team observed that although the project has been producing many effects in collaboration with local authorities in order to motivate farmers and work together effectively despite being implemented under the severe external conditions.

Regarding Output 1 and Output 2, the collaboration among local stakeholders has been promoted, leading to more than 20% of farmers in each area following the crop calendar proposed. Discussions regarding collaborative water management have also been initiated under the initiative of local leaders in Buluto.

Regarding Output 3, market channel for domestic rice has been steadily increased in collaboration with CAAKUB and ACELDA. Activities to promote domestic rice through restaurants, hotels, and other businesses will contribute to increase in the income of farmers to a certain extent.

To achieve Project Purpose, however, a long-term strategy and clear policy measures to promote domestic rice by the Timorese government are essential and it is required that the Timorese government continuously make efforts to put the policy into action in the rest of the project period.

5.2 Recommendations

Based on the results above, the Mid-term Review Team proposes the following recommendations.

(1) In terms of policy implementation

- The Timorese government is recommended to implement the policy on nurturing domestic rice which is in the early stage of development.

As mentioned in “(2) Severe situations to promote domestic rice in Timor-Leste” of “4.1 Relevance,” measures to realize the policy of domestic rice protection have not been substantially taken by the Timorese government in the current situations. Without the measures by the Timorese government, the project is difficult to achieve Project Purpose. It is therefore strongly recommended for the Timorese government to make efforts to deal with the issue; e.g. purchasing at least a total of 3,000 ton of domestic rice in 2019 and 2020 for the School Feeding Program, making a plan to introduce tariff rate quota to the imported rice etc.

- The project team is recommended to promote policy dialogue with Taskforce including MAF and NLC to encourage them to implement the policy on domestic rice protection.

Following to the recommendation above, it is recommended for the Japanese side to promote policy dialogue with MAF and NLC to encourage them to implement the policy on domestic rice protection. Assignment of long-term or short-term experts to support implementation of activities regarding Output 4 and Output 5 is suggested. One expert in charge is expected to have discussion and advices on the rice policy in Timor-Leste such as possibility of introducing tariff rate quota on imported rice as a transitional measure. Another expert is expected to support NLC in logistics of their purchasing domestic rice from farmers with no-delay payment and properly storing the rice purchased at their warehouses.

(2) In terms of collaborative approach to farmers

- The project is recommended to consider implementing its activities to be integrated into Timor-Leste's extension methods in order to ensure the sustainability of the project.

According to the National Director of Agriculture, Horticulture and Extension, there are nine challenges in promoting domestic rice in Timor-Leste, which are raised through the Farmers Dialogue as follows.

1. Big abandoned area
2. Not crop twice
3. Small productivity
4. Lack of production
5. Cultivation Techniques (traditional, conventional, PAD/GAP)
6. Not fertile soil (not apply chemical fertilizer due to no money)
7. Not good quality of rice
8. No market
9. Poor production cost management

In addition to above, the three challenges (technical challenge, market challenge and farmers mindset) mentioned in Output 1 of “3.3 Outputs” need to be addressed.

The project needs to consider how to address these challenges and measures to be taken with discussion between MAF and the project team. Some of rice cultivation techniques taught as Good Agricultural Practice or in the past Farmers Field School may be effective to handle the challenges, so the project needs to examine which techniques can be applied as the measures to be taken. It is also important to consider the effectiveness of technology promotion in recognizing that the project carefully identified a minimal set of technology to avoid increasing capital and labor burden of farmers.

- Extension officers are recommended to be more involved with extension and monitoring activities at the project sites.

In Timor-Leste, one extension officer is basically allocated to every village. At the project sites, they are allocated to the ten villages in the Buluto and Maliana I irrigation schemes, and one senior extension officer at the municipality level as well as one extension officer as a coordinator of village extension officers at the sub-municipality level are also allocated. While the project has a cooperation with them in conducting some project activities in the field, the main activities directly farmers such as the Farmers Dialogue, provision of instruction on normalization of crop calendar, line-planting, weed control, and follow-up and monitoring of farmers have been implemented by the national staff and monitoring staff employed by the project. From the viewpoint of sustainability after the project, it is recommended to more involve the extension officers in charge of the ten villages with the extension and monitoring activities targeted for farmers in the project sites.

(3) In terms of market

- The project is recommended to work through not only an increase in production amount but also improvement in quality of rice to develop a premium rice market in Timor-Leste.

It is important not to only expand the rice market and increase production amount of rice, but also to improve the quality of rice in order to achieve an increase in domestic rice sales as competition with imported rice. Varieties of rice or broken rice are sold in mixture in the current domestic rice market in Timor-Leste. It is therefore necessary for the project to develop a standard of quality of rice, in which a good quality of rice so that high-end market can be targeted.

(4) In terms of project implementation structure

- The local authorities in the project target sites are recommended to be added to the implementing agencies.

The current implementing agencies of the project are MAF and NLC, MTCI. The local authorities such as the municipal offices of MAF, sub-municipality offices and village offices in the project sites, specifically the three municipalities of Baucau, Manatuto and Bobonaro, the three sub-municipalities of Vemasse, Laleia and Maliana are expected to be important players and facilitators of the project activities under the revised project approach. It is therefore proposed that these local authorities be added to the implementing agencies in the revised PDM to stipulate their involvement to the project. In addition, it is also proposed to positively involve youth in farming activities as a possible option for better promotion of the project activities.

(5) In terms of project management

- The present PDM (Version 1.0) should be revised based on the changes made in the project and the project should be implemented and monitored based on the revised PDM.

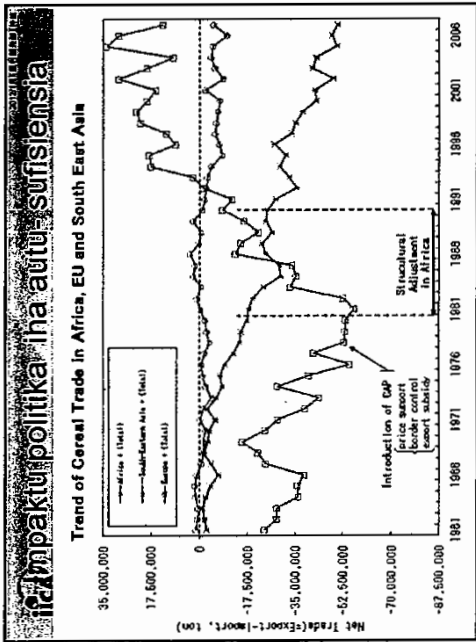
While it was favorable for the project to change the approach and activities according to the current situations and introduce the Farmers Dialogue in the project activities, the changes made in the project should be reflected to revision of PDM in view of proper project management. The Mid-term Review Team proposes a revised PDM based on the changes made during the project implementation. PDM is an important tool for the common understanding of those concerned and it is recommended to manage the project based on PDM. The activities to be implemented, progress or achievements to be made, challenges to be solved and ways forward of the project should be monitored and reviewed based on the new PDM in the rest of the project period.

5.3 Lessons Learned

The Mid-term Review Team obtained the following lesson learned from the project implementation.

- Identification of the minimal techniques set through the Farmers Dialogue process

Through the Farmers Dialogue, the project captured issues of demotivating farmers for rice farming. Through this process, the project set the normalization of cropping calendar as a key activity to integrate project outputs. While its adoption rate is still not high enough, this approach is a potential in the sense that it does not require excess inputs (labor and capital) to increase productivity as well as to seek market opportunity during off-peak season. The adoption rate is still low as it is in the early stage of implementation and further integration with Output 3 and 4, how to sell the products, is required.



1

ifc Impaktiivus poliitika agrikultuuri ja maanasaun

Kestavus

- Produktiivus ja poliitika: barak mak tamma iha merkado domestikua
- Menus investimtu iha agrikultura husi guvernu, setor pibeduno anitjijor

Desantajan

- Prekupasaun finansieiru gov.
- Prekupasaun konsumedor sira
- Distorasaun Komersial
- Konformidade regras WTO

Ventajan

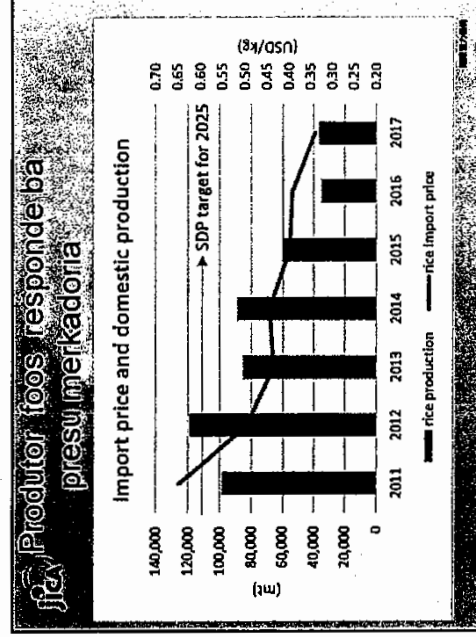
- Autu-subsensia
- Asuransi rendimtu agrikola
- Autu oporinidade servisu
- Intareajuria

2

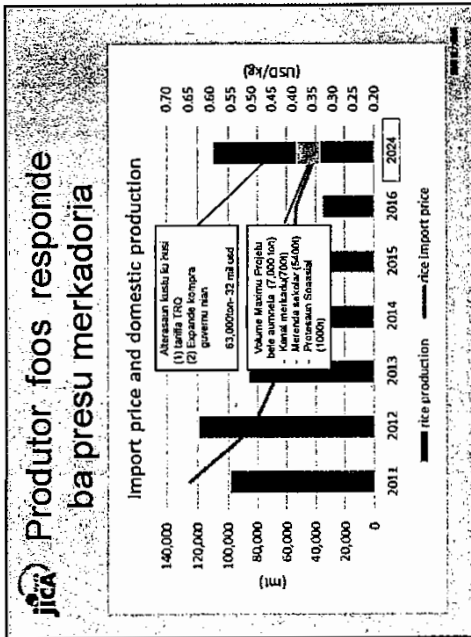
ifc Exempr Medias Politika

Medias Politika	Oinsa	Konformidade WTO
Autu	<ul style="list-style-type: none"> Desantajan Servisu oporinidade servisu Intareajuria Prekupasaun konsumedor sira Prekupasaun finansieiru gov. 	Autu
Apokijimtu		
Subsidio		

3



4



5

Medidas posibel bele kondidera ba Timor-Leste

Medidas Politika Assun ne'ebe presija

Integriza Di'aku podaze nasa sistema aproksimasaun atu memalizia dia'ogun ho agrikultura

Prosedimentu Di'abogu (2) Agrikultura

Funsiõna kompra gvernusa njan

- Programa merenda eskolar/prolesasaun sosial

Introduzasaun (Kroto) Terra (KRO)

Assun ne'ebe presija

- Introduz sistema Voucher atu aselera prosesu pagamentu
- Nota de intendimentu entre CLN no ME ba kesleau orsamentu no targetu.
- Alokasaun Staf, alokasaun orsamentu ne'ebe presija ba implementasaun.

Introduzasaun (Kroto)

- Kolasaun di'abogu ebe presija atu kriakolante Kroto
- Deszeta alokasaun sistema gada'jelaun filema lisenza

6

Project Design Matrix (PDM) Version 1.0

Project Names: The Project for Increasing Farmers Households' Income through Strengthening Domestic Rice Production in Timor-Leste

Project Period: 5 years (September 2016 –September 2021)

Implementation Agencies: Ministry of Agriculture and Fisheries (MAF), Ministry of Commerce and Industry (MCI)

Project Sites: Project Sites for each Output are as follow:

Output 1: Buluto and Maliana I irrigation schemes, and its surrounding area

Output 2: Buluto and Maliana I irrigation schemes

Output 3: Dili, Baucau, Manatuto and Bobonaro municipalities

Output 4: Rice stockpiling warehouses in Dili and Maliana

Output 5: Other municipalities such as southern part of Timor-Leste under the initiative of MAF

Direct Target Groups: Staff of Respective Ministries and Municipalities, Targeted Farmers in Baucau, Manatuto, Bobonaro and other municipalities such as southern part of Timor-Leste, and Targeted Rice Retail Traders

Indirect Target Groups: All Farmers in Baucau, Manatuto, Bobonaro and other municipalities, Private Sector related to Rice Distribution and Marketing, and Consumers

(November 30, 2017)

Narrative Summary		Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
Super Goal				
Livelihood of farmers living in Timor-Leste is improved through increase in income by improved rice production.	The TL government is strengthened to share the project outcomes in the project sites with the relevant stakeholders over the country.	Government records and other official documents		
Overall Goal				
Livelihood of farmers living in the targeted municipalities is improved through increase in income by improved rice production.	Farmers household ' average annual income is increased by 32% ¹ in Baucau, Manatuto and Bobonaro municipalities in the period from 2021 to 2026.	Government records and other official documents		
Project Purpose				
Farmers households' income from rice production in the project sites is increased through the improvement of value-chain (Production, Manufacturing & Processing, Distribution, and Sales/Consumption).	Farmers household ' average annual income is increased by 50% ² in Buluto and Maliana I.	Baseline and end-line surveys, government records, other official documents, project monitoring sheets /progress reports		
Outputs				
1. Cultivation techniques for increasing rice production are improved in the project sites.	1-1 The production of rice is increased by 80% in the project sites. 1-2 80% trainees of Improved Rice Cropping System (IRCS) training	Baseline and end-line surveys, government records, other official documents, project monitoring sheets	Massive natural disasters (such as drought and flood) do not occur.	

¹ 32% increase in the farmers' income shall be achieved by 18% increase through rice production and 14% increase through other sources of income.

² 50% increase in the farmers' income shall be achieved by 36% increase through rice production and 14% increase through other sources of income.

	understand 80% contents of the training.	/progress reports	
2. Capability of operation and maintenance (O&M) for irrigation facilities is strengthened.	<p>Rotation system on collective work to remove sediment at main irrigation facilities is established and the WUA is continuously operated at least one year in the project sites.</p> <p>2-1</p> <p>80% of trainees of O&M training understand 80% contents of the training.</p> <p>2-2</p> <p>3,000 t milled rice (5,000 t paddy rice) of the domestic rice branded by the project is sold through the distribution / sales system(s) at the end of the project period in Buluto and Maliana I.</p> <p>3-1</p> <p>80% trainees of trainings of farmers' association management; training of marketing; training of rice milling, processing, and packaging understand 80% contents of the trainings.</p> <p>3-2</p> <p>4-1</p> <p>The ratio of animal feeding is decreased to less than 50%.</p> <p>4-2</p> <p>80% trainees of 5S (Sort, Straighten, Shine, Standardize, and Sustain) training for rice storage management understand 80% contents of the training.</p> <p>5-1</p> <p>Meetings and workshops on the project activities are regularly held for stakeholders in other municipalities such as southern part of Timor-Leste.</p> <p>5-2</p> <p>Trainings on the project activities are implemented at least 11 times for stakeholders in other municipalities such as southern part of Timor-Leste.</p>	<p>Baseline and end-line surveys, government records, other official documents, project monitoring sheets /progress reports</p> <p>Baseline and end-line surveys, government records, other official documents, project monitoring sheets /progress reports</p> <p>Baseline and end-line surveys, government records, other official documents, project monitoring sheets /progress reports</p>	
3. System(s) of domestic rice distribution/ sales are prepared for the rice branded by the project.			
4. The rice purchasing / distribution system of government is improved.			
5. The Project activities are shared with stakeholders in other municipalities such as southern part of Timor-Leste under the initiative of MAF.			
Activities		Inputs	
0. Baseline Survey (first six months) and End-Line Survey (last six months)	Japanese Side	Timor-Leste Side	Pre-conditions
0-1 Design and conduct the baseline survey in first six months of the project for gathering detailed	1. Dispatch of Japanese experts in specific fields. - Chief Advisor - Agricultural Distribution and Sales	1. Allocation of counterpart personnel from MAF and MCI (Co-Chairpersons, Project Director, Project Managers, Project Sub-Managers), municipality	Proper allocation of budgets to the implementing agencies.

<p>data/information required for the implementation of the project.</p> <p>0-2 Help in functioning of the existing Rice Working Group for the implementation of the project.</p> <p>0-3 Revise the project documents (PDM, Plan of Operation (PO), etc.) and get approval from the Joint Coordinating Committee (JCC).</p> <p>0-4 Design and conduct the End-Line Survey for evaluating results of the project in last six months of the project.</p>	<p>- Project Coordinator - Stockpiling Rice Warehouse SS Management - Irrigation Management / Water Management Groups - Rice Cultivation Techniques (Detailed position of each long-term & short-term expert will be decided during the base line survey)</p>	<p>level contact points and other government officials.</p> <p>2. Provision of space and building for the project offices.</p> <p>3. Budget for operational cost for the project implementation (local costs, electricity, water, internet access and travel allowances for Timorese counterparts, etc.).</p> <p>4. Supply or replacement of equipment and any other materials other than the equipment provided by JICA.</p>	
<p>1. Cultivation techniques for increasing rice production are improved in the project sites.</p>	<p>2. Trainings in Japan and/or in other countries.</p> <p>3. Provision of equipment and materials as necessary for the project implementation.</p> <p>4. Budget for the operational costs for the project implementation.</p>		
<p>1-1 Prepare the institutional strengthening and human resources development (HRD) plan for the National Directorate (ND) of Agriculture, Horticulture, and Extension of MAF.</p>			
<p>1-2 Prepare extension plan for advanced rice cultivation techniques such as Improved Rice Cropping System (IRCS).</p>			
<p>1-3 Design and implement advanced rice cultivation techniques training to farmers and staffs of MAF.</p>			
<p>1-4 Select the targeted Suco in the targeted rice bowl areas.</p>			
<p>1-5 Organize workshops to select interested farmers for the participation in the targeted Suco.</p>			
<p>1-6 Prepare the cropping plan for each targeted Suco.</p>			
<p>1-7 Implement pilot project(s) for advanced rice cultivation technique to selected farmers.</p>			
<p>1-8 Improve advanced rice cultivation technique based on the result of 1-7.</p>			
<p>2. Capability of O&M for irrigation facilities is strengthened.</p>			
<p>2-1 Prepare the institutional strengthening and HRD plan for the ND of Irrigation and Management of Water Utilization of MAF.</p>			
<p>2-2 Revise the O&M policy and O&M manual in accordance with the local conditions for managing the irrigation facilities.</p>			
<p>2-3 Design and implement O&M training for the targeted municipality staff of irrigation.</p>			

2-4	Train the members of the water management groups ³ for managing the irrigation facilities through trained municipality staff of irrigation in each project site as well as for the organization management.		
2-5	Monitor and evaluate the O&M for irrigation facilities and organization management of water management groups (*1) and improve the O&M of irrigation facilities in each project site.		
3.	System(s) of domestic rice distribution/ sales are prepared for the rice branded by the project.		
3-1	Prepare the institutional strengthening and HRD plan for the ND of Agro-Commerce of MAF.		
3-2	Prepare system (s) of domestic rice distribution/ sales for the farmers for direct sales or sales through the private sector or through the MCI, etc. in each municipality of the project.		
3-3	Organize workshops for farmers, private sector, and MAF/MCI staff to introduce prepared model(s) of domestic rice distribution/ sales for each municipality of the project.		
3-4	Design and implement trainings of farmers' association management for rice marketing.		
3-5	Design and implement marketing training and rice milling, processing, and packaging training to farmers, private sector and the staff of MCI.		
3-6	Pilot prepared system (s) of domestic rice distribution/ sales in each municipality of the project.		
4.	The rice purchasing / distribution system of government is improved.		
4-1	Prepare the institutional strengthening and HRD plan for the National Logistic Center of MCI.		
4-2	Prepare the rice storage management guidelines, standard operating procedures (SOPs), storage tracking system, and manuals for rice storage management.		
4-3	Rehabilitate rice stockpiling warehouses in Dili and Maliana.		
4-4	Implement 5S (Sort, Straighten, Shine, Standardize, and Sustain) training for rice storage management for the staff of the warehouses.		
4-5	Implement the training for quality control from pests,		

³ Water management groups are defined as the organization, such as Water Users Association, Farmers Group, traditional water management units, etc.

<p>molds and rats.</p>	<p>4-6 Analyze and improve current rice purchasing/distribution system.</p>	<p>4-7 Implement purchasing/distribution of stockpiled rice.</p>	<p>4-8 Prepare the government guidelines for the rice price stabilization based on the results of Activity 4-7.</p>	<p>5-1 Disseminate technical knowledge and skills of the project activities to stakeholders in other municipalities such as southern part of Timor-Leste under the initiative of MAF.</p>		
	<p>5-2 Plan and implement in-country training for stakeholders in other municipalities such as southern part of Timor-Leste.</p>					

Proposed Project Design Matrix (PDM) Version 2.0

Project Names: The Project for Increasing Farmers Households' Income through Strengthening Domestic Rice Production in Timor-Leste

Project Period: 5 years (September 2016 –September 2021)

Implementation Agencies: Ministry of Agriculture and Fisheries (MAF), Ministry of Tourism, Commerce and Industry (MTCI), Local Authorities s in the Project Sites

Project Sites: Project Sites for each Output are as follow:

Output 1: Buluto and Maliana I irrigation schemes, and its surrounding area

Output 2: Buluto and Maliana I irrigation schemes

Output 3: Dili, Baucau, Manatuto and Bobonaro municipalities

Output 4: Buluto and Maliana I irrigation schemes, Rice stockpiling warehouses in Dili and Maliana

Output 5: Areas outside Buluto and Maliana I irrigation schemes

Direct Target Groups: Staff of Respective Ministries and Municipalities, Targeted Farmers in Baucau, Manatuto, Bobonaro and other municipalities, and Targeted Rice Retail Traders

Indirect Target Groups: All Farmers in Baucau, Manatuto, Bobonaro and other municipalities, Private Sector related to Rice Distribution and Marketing, and Consumers (March 27th, 2019)

Narrative Summary		Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
Super Goal				
Livelihood of farmers living in Timor-Leste is improved through increase in income by improved rice value-chain.	<ul style="list-style-type: none"> - The TL government is strengthened to share the project outcomes in the project sites with stakeholders over the country. - The production of domestic rice in Timor-Leste is stable or increases for five years after the achievement of the Overall Goal of the Project. 	Government records and other official documents		
Overall Goal	Farmers households' income from rice production in the targeted municipalities is increased through the improvement of rice value-chain (Production, Harvesting, Post-harvest and Processing, Distribution, and Sales/Consumption).	More than USD 2,262,000 of income is generated by sales of rice by farmers in Bobonaro, Manatuto and Baucau per year. (equivalent to 5,655 tons of paddy sales at USD 0.40/kg)	<ul style="list-style-type: none"> -Records of CAAKUB Farmers' Association, ACELDA, and NLC -Government records and other official documents 	The Government implements appropriate policies for domestic rice promotion.
Project Purpose	Farmers households' income from rice production in the project sites is increased through the improvement of rice value-chain (Production, Harvesting, Post-harvest and Processing, Distribution, and Sales/Consumption) achieved by collaborative approach ¹ .	More than USD 1,400,000 of income is generated by sales of rice by farmers in Maliana ² and Buluto per year. (equivalent to 3,500 tons of paddy sales at USD 0.40/kg)	<ul style="list-style-type: none"> -Records of CAAKUB Farmers' Association, ACELDA, and NLC -Government records, other official documents, project monitoring sheets /progress reports -Farmers' Dialogue Report 	<ul style="list-style-type: none"> -Massive natural disasters (such as drought and flood) do not occur. -Budget for purchase of domestic rice is prepared and its disbursement is conducted by NLC to meet its target amount of domestic rice purchase.

¹ Collaborative approach requires all stakeholders to understand their appropriate roles and responsibilities and to work together.

² Including both Maliana I and Maliana II irrigation schemes.

Outputs				
1. System of rice farming is improved. (This system is a component of rice business system.)	<p>1-1 More than 60% of farmers in Buluto I and Maliana I follow the crop calendar².</p> <p>1-2 25% of farmers in Buluto and 10% of farmers in Maliana I practice double cropping with introduction of associated techniques¹.</p>	<p>Baseline and end-line surveys, government records, other official documents, project monitoring sheets /progress reports</p> <p>-Farmers' Dialogue Report</p>	<p>-Massive natural disasters (such as drought and flood) do not occur.</p> <p>-Budget for purchase of domestic rice is prepared and its disbursement is conducted by NLC to meet its target amount of domestic rice purchase.</p>	
2. System of irrigation water management among farmers is improved. (This system is a component of rice business system.)	<p>2-1 Water distribution mechanism among farmers is established with support from irrigation staff, extension staff and local authorities in Buluto and Maliana I.</p> <p>2-2 Sub-canal of irrigation schemes are cleaned and maintained by farmers in Buluto and Maliana I.</p>	<p>-Baseline and end-line surveys, government records, other official documents, project monitoring sheets /progress reports</p> <p>-Farmers' Dialogue</p>		
3. System of domestic rice distribution / sales is improved. (This system is a component of rice business system.)	<p>3-1 A total of more than 500 tons of paddy is sold by farmers in Buluto and Maliana per year through CAAKUB and ACELDA³.</p> <p>3-2 Marketing channel for domestic rice is expanded to private sectors such as restaurants, hotels, and farmers' market.</p>	<p>-Records of CAAKUB Farmers' Association and ACELDA</p> <p>-Baseline and end-line surveys, government records, other official documents, project monitoring sheets /progress reports</p> <p>-Farmers' Dialogue Report</p>		
4. System of domestic rice purchasing / distribution system by the government is improved.	<p>4-1 Plan of government purchase and distribution of domestic rice is prepared annually by the Taskforce for domestic rice⁴.</p> <p>4-2 Appropriate system of payment from NLC to farmers is introduced so that the timing of payment meets farmers' needs.</p> <p>4-3 More than 3,000 tons of paddy is purchased by NLC in Buluto and Maliana.</p>	<p>-Baseline and end-line surveys, government records, other official documents, project monitoring sheets /progress reports</p> <p>-Records of NLC</p> <p>-Farmers' Dialogue</p>		

³ Following the crop calendar means that the farmer is working together with other farmers in the community in terms of water management, input management such as usage of agricultural machineries, livestock management etc.) A farmer who prepares rice nursery no later than one month later from the date which representative of rice community announces 'Let's begin to prepare nursery' is considered to have followed the crop calendar.

⁴ Associated techniques indicate techniques identified in Activities 1-2 and 1-6.

⁵ Evaluation shall be conducted using the amount of sales through CAAKUB and ACELDA, but marketing channels are not limited to these two. Sales through local markets or to local restaurants directly by farmers are also expected.

⁶ Taskforce aims to increase production and purchase of paddy in Timor-Leste and is composed of Ministry of Agriculture and Forestry, Ministry of Tourism, Commerce and Industry, National Logistic Center and other stakeholders in the Central Government.

<p>5. The Government promotes domestic rice by planning developing appropriate policies and disseminating lessons learned from the Project.</p>	<p>80% trainees of 5S (Sort, Straighten, Shine, Standardize, and Sustain) training for rice storage management understand 80% contents of the training.</p> <p>The Central Government approves a plan to implement policies required to promote production of rice, such as tariff rate quota system.</p> <p>Workshops on the project activities are held for stakeholders in XX other municipalities to share Collaborative Approach.</p>	<p>4-4</p>	<p>-End-line surveys, government records, other official documents, project monitoring sheets /progress reports</p>	<p style="text-align: center;">Inputs</p> <p style="text-align: center;">Japanese Side</p> <p>1. Dispatch of Japanese experts in specific fields.</p> <ul style="list-style-type: none"> - Chief Advisor - Agricultural Distribution and Sales - Project Coordinator - Stockpiling Rice Warehouse 5S Management - Irrigation Management / Water Management Groups - Rice Cultivation Techniques (Detailed position of each long-term & short-term expert will be decided during the base line survey) <p>2. Trainings in Japan and/or in other countries.</p> <p>3. Provision of equipment and materials as necessary for the project implementation.</p> <p>4. Budget for the operational costs for the project implementation.</p> <p style="text-align: center;">Timor-Leste Side</p> <p>1. Allocation of counterpart personnel from MAF and MCI (Co-Chairpersons, Project Director, Project Managers, Project Sub-Managers), municipality level contact points and other government officials.</p> <p>2. Provision of space and building for the project offices.</p> <p>3. Budget for operational cost for the project implementation (local costs, electricity, water, internet access and travel allowances for Timorese counterparts, etc.).</p> <p>4. Supply or replacement of equipment and any other materials other than the equipment provided by JICA.</p>	<p style="text-align: center;">Pre-conditions</p> <p>Proper allocation of budgets to the implementing agencies.</p>
<p style="text-align: center;">Activities</p> <p>0. Baseline Survey (first six months) and End-Line Survey (last six months)</p> <p>0-1 Design and conduct the baseline survey in first six months of the project for gathering detailed data/information required for the implementation of the project.</p> <p>0-2 Revise the project documents (PDM, Plan of Operation (PO), etc.) and get approval from the Joint Coordinating Committee (JCC).</p> <p>0-3 Design and conduct the End-Line Survey for evaluating results of the project in last six months of the project.</p> <p>1. System of rice production is improved. (This system is a component of rice business system.)</p> <p>1-1 Enhance the understanding of the stakeholders on their role and responsibility through Farmers Dialogue (FD) process</p> <p>1-2 Identify core set of cultivation techniques that should be introduced in order to increase production in the target area.</p> <p>1-3 Facilitate/conduct socialization activities for early cropping and market-oriented farming through FD process, workshop and follow up meeting among farmers and stakeholders in order to promote normalization of crop calendar.</p> <p>1-4 Facilitate coordination of water distribution, coexisting grazing and multi cropping with proper tractor</p>					

<p>utilization under collaboration among farmers and stakeholders in order to <u>promote effective utilization of rice field.</u></p>		
<p>1-5 Introduce core set of cultivation techniques identified in activity 1-2 (mainly on-farm water management, line-transplanting, and weed control) based on each farmer's social and field circumstance in order to increase <u>productivity.</u></p>		
<p>1-6 Revise core set of techniques identified in Activity 1-2 according to concerns and problems raised by farmers during the project.</p>		
<p>1-7 Support farmers to design plan of rice-centered farming based on their circumstances in order to promote sustainable rice-centered farming through activities 1 to 6.</p>		
<p>2. System of irrigation water management among farmers is improved. (This system is a component of rice business system.)</p>		
<p>2-1 Enhance the understanding on the role and responsibility of the stakeholders through Farmers Dialogue process.</p>		
<p>2-2 Draft and revise the strategy of irrigation water management.</p>		
<p>2-3 Support and facilitate discussion on the rules and regulations of farmers' groups in Buluto and Maliana 1 irrigation schemes among stakeholders. (e.g. existing WUA, Kabuwees, leaders of farmers' groups, Suco chiefs and sub-municipality administrators.)</p>		
<p>2-4 Support implementation of water management by farmers' groups based on the rules and regulations discussed by local stakeholders in Buluto and Maliana 1.</p>		
<p>2-5 Support establishment of the system to continue water management by farmers' groups in Buluto and Maliana 1.</p>		
<p>2-6 Share the results and lesson learned with local and central government for better management in next cultivation, and for better, functioning policy framework.</p>		
<p>3. System of domestic rice distribution/ sales is improved. (This system is a component of rice business system.)</p>		

3-1	Enhance the understanding of the stakeholders on their role and responsibility through Farmers Dialogue process.		
3-2	Make implementation plan(s) to improve post-harvest and processing, distribution, and sales/consumption of domestic rice through Farmers' Association(s) and private sector.		
3-3	Introduce the implementation plan(s) to farmers, Farmers' Association, Private Sector and all stakeholders through report distribution, workshops, and Farmers' Dialogue.		
3-4	Conduct direct OJT (On The Job Training) to farmers' association (s) and private sector(s) in order to improve paddy purchasing, paddy drying, milling, packing, distribution, and sales of domestic rice.		
3-5	Conduct direct OJT (On The Job Training) to Farmers' Association (s) in order to strengthen financial administration and organizational management.		
3-6	Conduct cooking OJT (On the Job Training) to women or women's group(s) in order to develop rice-processed goods.		
3-7	Create markets to increase the consumption of domestic rice through the viewpoints of organic, high nutrition and freshness.		
4.	The rice purchasing / distribution system of government is improved.		
4-1	Enhance the understanding of the stakeholders on their role and responsibility through Farmers' Dialogue process.		
4-2	Support planning of appropriate rice purchasing/ distribution system in Malina and Buluto.		
4-3	Support implementation of purchasing operation of rice in Maliana and Buluto.		
4-4	Support distribution operation of rice, in collaboration with Ministry of Education and Ministry of Social Solidarity based on the plan prepared in Activity 4-2.		
4-5	Rehabilitate rice stockpiling warehouses in Dili and Maliana .		
4-6	Implement 5S (Sort, Straighten, Shine, Standardize, and Sustain) training for rice storage management for the staff of the warehouses.		
5.	The Government promotes domestic rice by		

<p>planning developing appropriate policies and disseminating lessons learned from the Project.</p>		
<p>5-1 Support examination on possible policies for promotion of domestic rice production, such as tariff rate quota through policy dialogue.</p>		
<p>5-2 Support preparation of implementation plan for the policy that have been chosen through the process of Activity 5-1.</p>		
<p>5-3 Conduct workshops among government officials and trainings for farmers to disseminate experience and lessons learned from the project activities to stakeholders in other areas under the initiative of MAF.</p>		

Proposta Desenho Matricio Projeto (Project Design Matrix/PDM) Versaun 2.0

Naran Projeto: Projeto Hasa'e Rendimento Uma Kain Agrikultor Liu Husi Hasa'e Produsaun Foes Rai Iha Timor-Leste

Periodu Projeto : Tinan 5 (Setembro 2016 --Setembro 2021)

Ajensia Implementador: Ministerio Agrikultura no Peskas (MAP), Ministerio Turismo, Comercio no Industria (MTCI), Autoridade Lokal Husi Parte Projeto

Area Projeto : Area Projeto ba kada komponente hanesan tuir mai :

Komponente 1: Buluto no eskema irrigasaun Maliana I, no area balun nebe besik

Komponente 2: Buluto no eskema irrigasaun Maliana I

Komponente 3: Dili, Baucau, Manatuto no municipio Bobonaro

Komponente 4: Buluto no eskema irrigasaun Maliana I, Armazenamento foos iha Dili no Maliana

Komponente 5: Area liur husi Buluto no eskema irrigasaun Maliana I

Grupo Targeto Direita: Funcionario relasiona husi Ministerio no Municipio, Agrikultor targeto iha Baucau, Manatuto, Bobonaro no municipio sira seluk, no targeto comerciante foos sira

Grupo Targeto Indireita: Agrikultor sira hotu iha Baucau, Manatuto, Bobonaro no municipio sira seluk, no seitor privado relasiona ho distribusaun foos no Merkaduria, Konsumidores (27 Maio, 2019)

Resumo Narrativo	Indicadores Objetivamente Verificáveis	Meios Verifikasaun	Opiniaun Importante
Objetivo Super Hasa'e vida moris loron-loron Agrikultor iha Timor-Leste liu husi hasa'e rendimento husi hasa'e valor akresentado	-Haforsa Governo TL liu husi fahe rezultado parte projeto hamutuk ho parseiro sira iha nasaun laran. -Produsaun foos rai iha Timor-Leste estável ou sae depois tinan lima realizasaun totalmente objetivo husi Projeto.	Arquivo Governo no dokumentos sira seluk	
Objetivo Geral Rendimento Agrikultor liu husi produsaun foos iha municipio targeto sae liu husi hadi'ak valor akresentado foos (Produsaun, Kolheita, Pos-kolheita no Prosesamento, Distribusaun, no Fa'an/Consumo).	Liu husi USD 2,262,000 rendimento husi produse fa'an foos husi Agrikultor sira iha Bobonaro, Manatuto no Baucau kada tinan. (ekivalente to'o 5,655 toneladas husi fa'an hare ho preço USD 0.40/kg)	-Arquivo Asosaun Agrikultor CAAKUB, ACELDA, no CLN -Arquivo governo no dokumentos oficial sira seluk	Implementasaun politika Governo apropriado kona ba promove foos rai.
Objetivo Projeto Rendimento Agrikultor husi hasa'e produsaun foos iha area projeto liu husi hasa'e valor akresentado foos (Produsaun, Kolheita, Pos-kolheita no Prosesamento, Distribusaun, no Fa'an/Consumo) realiza husi aproximasaun colaborativo ¹ .	-Liu husi USD 1,400,000 rendimento husi produse fa'an foos husi Agrikultor sira iha Maliana ² no Buluto kada tinan. (ekivalente to'o 3,500 toneladas husi fa'an hare ho preço USD 0.40/kg)	-Arquivo Asosaun Agrikultor CAAKUB, ACELDA, no CLN -Arquivo Governo, No dokumentos oficial sira seluk, Relatorio monitorizasaun projeto /relatorio progreso, relatorio Dialogue Agrikultor	-Desastre Naturais todan (hanesan bailoron no inundasaun) la akontese -Prepara orcamento atu sosa hare no pagamento nebe konduta husi CLN bazeia ba targeto sosa nian.

¹ Aproximasaun colaborativo require parseiro sira hotu atu cumprende sira nia papel no responsabilidade ho apropriado no servisu hamutuk.

² Inklui mos parte rua mak eskema irrigasaun Maliana I no Maliana II.

Outputs				
1. Sistema produsaun fo'os melhora ona.(Sistema ida ne'e mak komponete husi sistema negoisu fo'os nian)	1-1	Liu husi 60% agricultores iha Buluto I no Maliana I aplika ona calendario cultiva ³ .	Peskija no lina survei final, arquivo governo nian, document oficial seluk, formatu monitorijasaun projetu nian/progresu relatoriu, relatoriu dialogo agricultores nian.	-Dejastre Naturais boot (Hanesan rai maran no be sac) la akontese. - Orsamentu hodi hola fo'os rai prepara ona no ne'e si halao husi CLN hodi atinji target montante hola fo'os rai.
2. Sistema husi Irigasaun gestaun be entre agricultores melhora ona. (Sistema ne'e pasparte husi Sistema negoisu fo'os nian).	2-1	25% agricultores iha Buluto no 10% agricultores iha Maliana I pratika ona kuda dala rua ho introdusaun tekniku relavante ⁴ .	Mekanismu distribuissau be entre agricultores estabese ona ho suporta husi funcionariu Irrigasaun, funcionariu Extensjonista no autoridade lokal iha Buluto no Maliana I.	Peskija no lina survei final, arquivo governo nian, document oficial seluk, formatu monitorijasaun projetu nian/progresu relatoriu, relatoriu dialogo agricultores nian.
3. Sistema husi distribuissau/fa'an fo'os rai melhora ona (Sistema ne'e mak parte husi Sistema negoisu fo'os nian)	3-1	Sub- kanal sira husi skema irigasaun mos ona no mantein nafatin husi agricultores Buluto no Maliana I.	Total liu husi tonelades 500 hare mak fa'an ona husi agricultores iha Buluto no Maliana I kada tinan liu husi CAAKUB no ACELDA ⁵ .	Arquivo husi Associasaun Agricultores CAAKUB no ACELDA Peskija no lina survei final, arquivo governo nian, document oficial seluk, formatu monitorijasaun projetu nian/progresu relatoriu, relatoriu dialogo agricultores nian.
4. Sistema husi hola/distribuissau fo'os rai husi Governo melhora ona.	4-1	Kanal markaduria ba fo'os rai habelar ona ba setor privado sira hanesan restaurants, hotels no loja agricultores.	Planu governo nian hola no distribui fo'os rai prepara ona kada tinan-tinan husi ekipa konjunta fo'os rai nian ⁶ .	Peskija no lina survei final, arquivo governo nian, document oficial seluk, formatu monitorijasaun projetu nian/progresu relatoriu, arquivo CLN nian, relatoriu dialogo agricultores nian.
	4-2	Sistema apropriadu nebe pagamentu husi CLN nian ba agricultores introdus ona ho nune bele selu tuir tempo tuir agricultores sira nia nesicidades.		

³ Aplika calendario cultivaun katak agricultores servisu hamutuk ho agricultores sira seluk iha comunidade intermus gestaun be, gestaun ekipamentus pejadas hanesan trator, gestaun animal no seluk tan). Agricultores nebe mak prepara biberus hare mais tarde fulan ida husi liron nebe reprejentantiva comite agricultores sei aviju " Mai hahu prepara biberus " iha ona konsiderasaun apika calendariu cultivaun.

⁴ Tekniku relavante indika tekniku nebe identifika ona iha actividades 1-2 no 1-6.

⁵ Evalusaun tenke halao uja montante mai husi fa'an CAAKUB no ACELDA nian, maibe kanal merkaduria la iha limitasaun ba parte rua refere. Fa'an liu husi merkadu local ou direita ba restaurant local husi agricultores sira ne'e mos expetasaun hotu.

⁶ Ekipa suporta konjunta hodi hasae produsaun no hola hare iha Timor -Leste mak kompostu husi Ministeriu Agricultura no Peskas, Ministeriu Turismu, Comercio no Industria, Centru Nasiona Logistiku no parseru seluk iha Governo sentral.

5. Governo promove fo'os rai liu husi politika planu dezemvolvimentu apropiadu no dijaminasaun lisaun apredijajen husi Projectu.	<p>4-3 Hare liu husi tonelades 3,000 mak hola ona husi CLN iha Buluto no Maliana 80% participante husi 5S (Classificar, Endireitar, Brilhar, Padronizar no Sustentar) treinamentu ba gestaun arma fo'os 80% komprende contiudu husi treinamentu.</p> <p>4-4</p>		
	<p>5-1 Governo sentral aprova planu ba implementasaun politika iha obrigasaun ba promove produktu fo'os, hanesan Sistema cotas tarifarias</p> <p>5-2 Workshop iha actividades projetu nian mak ajuda parsero sira iha area seluk pelumenus fahe aproximasaun colaborativa dala rua</p>	Lina Survey final, governo ponta ona, document official seluk, formatu monitorjasaun projetu nian/relatorio progresu.	

Minutes of the Sixth JCC Meeting
Prepared by Fernando Fontes on March 27, 2019

Speech and Welcome Remarks Session	
Name of the Speaker	Content of the speech
<p>Ms. Maria Odete do Céu Guterres (Director General for Agriculture, MAF)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • On behalf of the MAF Minister she welcomed the participants of the JCC • She thanked the Midterm review team for conducting evaluation and providing useful recommendations to both the Project and the MAF to consider success implementation as well as further domestic rice promotion in Timor-Leste. • She asked the relevant entities which promote domestic rice to take advantages of positive factors found in the report and overcome negative factors in the future to ensure fruitful final result of the project. • She said that this Project is in line with the MAF strategy plan 2014 to 2020 on food self-sufficiency, therefore, she asked the relevant parties, who work with the Project, in the next remaining two and a half years to achieve the set goal. • She thanked the local authorities for working closely with the Project and asked their continuous support to work more closely throughout the remaining of the Project. • She also asked the National Directorate of Agro-commerce to expand domestic rice market and continue to cooperate with the ACELDA and CAAKUB to further promote domestic rice. • Finally she asked the JCC participants to give their sincere opinions about the Midterm review so that the project will be successfully implemented for the remaining period.
<p>Mr. Kenichi Shishido (Director General of the Rural Development Department, JICA Headquarter)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • He expressed his great pleasure to the JCC participants for attending the JCC and highlighted the importance of the meeting for the implementation of the Project. • He was delighted to participate in the harvest ceremony in Buluto on March 26 and was pleased to know improved productivity made by the farmers in that area, namely 5.8 tons/ha, which is a good indication for increased rice production. • Prior to the JCC, he had a very good discussion with the Midterm review team and NLC to discuss the current progress of the Project and measures to be taken in future to promote domestic rice. • He asked all the stakeholders to work seriously with the Project as he believed that the Project will achieve its final outcome in the next two and a half years with good collaboration among them.

Minutes of the Sixth JCC Meeting

Prepared by Fernando Fontes on March 27, 2019

<p>Mr. Jacinto Paizo, (The Executive Director of the NLC)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • He thanked the Mid Term Review team for some useful recommendations on policy to protect domestic rice, but it depended on political situation to make a decision. • He explained the role of the MAF to guarantee rice production so that the NLC purchase adequate amount of rice. However, unclear policy on import products can threaten the country's economic. • As part of the effort to increase the consumption of local rice, he explained that from 2018 the NLC has stopped buying imported rice. For 2019 they have allocated \$400,000 to buy local rice produced by farmers particularly at the Project sites. • He has high expectation that the newly established Task Force led by the NLC, and composed of the MAF, MTCI and Secretary of State for Cooperative will work together in establishing the effective rice purchasing system and quality improvement.
<p>Presentation session</p>	
<p>Ms. Sawa Hasegawa (Mid Term Review Member)</p>	<p>Presented the Result of the Midterm review and recommendations to be considered by the Project, MAP and NLC for the future implementation of the Project for the next 2 years and six months.</p> <p>Recommendations to be considered:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Policy implementation The Timorese government is suggested to implement the policy on domestic rice protection • Approach to farmers The project is recommended to consider implementing its activities to be combined with the Timor-Leste's existing extension methods to ensure the sustainability. • Market The Project is recommended to work not only to increase production but also improve the Premium rice market in Timor-Leste • Project implementation structure The local government in the Project sites is recommended to be included as the implementing agencies. • Project management The current PDM version 1.0 should be revised based on the changes made in the Project and the Project is recommended to use the revised PDM.
<p>Mr. Shunichi Nakada (Mid Term Review Member)</p>	<p>Presented the Impact of policy in self-sufficiency and possible measures to be considered by Timor-Leste to protect domestic rice such as by introducing tariff and quota as well as increasing the amount of domestic rice which the government purchase. Considering the current competitiveness gap with imported rice,</p>

Minutes of the Sixth JCC Meeting
Prepared by Fernando Fontes on March 27, 2019

	it is advised that premium rice should be started to be developed.
Mr. Shunji Segawa (Mid Term Review member)	Explained about the proposed revision of the PDM, version 2.0. 500 tons of domestic rice should be purchased by Private sector and over 3,000 tons should be purchased by the NLC in order to achieve the Project Purpose.
Q and A Session	
Mr. Fernando Egidio Amaral, (National Director of Agro Commerce)	<ul style="list-style-type: none"> Without comprehensive data on customers and farmers, policy measure is impossible to be implemented. Therefore, he asked the MAF to create a format to identify the status of lands, amount of cultivated areas, uncultivated areas and owners of lands. He suggested that data on amount of imported rice is also important to be collected.
Mr. Antonio Augusto Guterres (President of the Municipality of Baucau)	<ul style="list-style-type: none"> Thanked the Mid Term Review team for sharing the results of the Project progress. Data collection is important for making good planning on protecting domestic rice. He also advised the MAF to make a format for identifying a number of established farmers groups and available tractors in his municipality, thus in the future the MAF can properly carry out their planning more effectively.
Mr. Francisco (staff of MAF assigned to Output I)	<ul style="list-style-type: none"> He said that self-sufficiency can be achieved through a large amount of investment in agriculture, particularly in production and to enhancing human resources is also important. He recommended a study tour to be implemented for the farmers both in the country and overseas to gain more knowledge on rice cultivation techniques.
Mr. Fernando Soares (Regional MAF for Region I)	<ul style="list-style-type: none"> He asked the MAF to work more actively with the Project because the project's final achievement is important for further success of domestic rice production in TL. He explained that changing the mindset of farmers require relentless efforts and approach, therefore, he asked the MAF not to give up and be the main player.
Mr. Fernando D. A. S. Junior (Manatuto Administrator)	<ul style="list-style-type: none"> He asked the local authorities and MAF to work harder to convince farmers who have not followed the early cropping to implement it for their benefits. He observed that the farmers in the Project sites are willing to sell their rice to buyers, therefore, he asked the ACELDA, CAAKUB and NLC to buy it from them.
Mr. Amaro Ximenes (National Director of DNAHE, MAF)	<ul style="list-style-type: none"> He asked the Project to take action in addressing the issues disclosed through the Farmers Dialogue, such as huge production cost, unfertile land, and other

Minutes of the Sixth JCC Meeting
Prepared by Fernando Fontes on March 27, 2019

	<p>challenges which prevent the farmers from increasing their production.</p> <ul style="list-style-type: none"> • His Directorate is also looking forward to working with the new Taskforce by involving the extension workers on the ground.
Mr. Zeferino Soares dos Santos (President of Municipality Bobonaro)	<ul style="list-style-type: none"> • He asked the Project and MAF to work more closely with incompliant farmers and develop good strategies how to get them comply with the Project activities. • He asked the NLC to start promoting domestic rice through school feeding programs and other networks such as introducing rice subsidy to the civil servant, therefore, in the future purchasing rice from farmers will be continuously conducted.
Mr. Alipio Moniz (Sub District Administrator of Maliana)	<ul style="list-style-type: none"> • He asked the extension workers at the Project sites to work with the Project as one team when implementing demo plots so that the targeted farmers have more clear directions. • He suggested that a study tour for farmers' development will be organized by the Project, and it will involve the local authorities.
Mr. Nagaishi Masafumi	<ul style="list-style-type: none"> • He asked the Project to explain about the new Taskforce role and what is the Project's relevant activities for the Taskforce, including which Ministry has a role to discuss about tariff and quota Policy.
Answers Session	
Mr. Shunichi Nakada (Mid Term Review Member)	<ul style="list-style-type: none"> • He explained that capturing data on the field level is important in implementing policies because application of policy has strong impact on customers, farmers and producers, therefore, before applying policies, the government must clearly understand what impacts will be brought by implemented policies. • He also said that learning the case study and experiences from other countries which have similar policy measures with TL is also important prior to its implementation.
Mr. Noriaki Niwa (The Chief Advisor of the Project)	<ul style="list-style-type: none"> • He explained that through the Farmers' Dialogue conducted to 1500 farmers' households, the Project also acquired some necessary information on rice farming that can be shared with the MAF. However, Agricultural Census can provide more detailed data. • He further explained that current approach initiated by the Project on the normalization of cropping calendar is a practicable and effective measure to help farmers to increase rice production. Thus, collective collaboration among the central government, municipality government and local authority is indispensable for ensuring the success of the program.

Minutes of the Sixth JCC Meeting

Prepared by Fernando Fontes on March 27, 2019

	<ul style="list-style-type: none"> • He highlighted worsening situation of rice production in Timor-Leste, which required participation and contribution from all the relevant stakeholders. Through the Project tangible result need to be proved in both Maliana I and Buluto to restore farmers' motivation on rice production. • He also mentioned that policy framework on imported rice also need to be formulated and expertise and lesson learn from the Project must be shared with other areas in TL.
<p>Mrs. Maria Odete do Céu Guterres (Director General for Agriculture, MAF)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • She highlighted the importance of data collection in making good policies. • She explained that in the future the MAF also has a plan to allocate budget to support the Project activities. • She mentioned that a study tour is necessary to help the farmers to share experiences and learnings each other. • She reassured the MAF commitment to help the farmers but make them not to rely on the MAF permanently. • She praised farmers who recently covered the petrol cost and started cultivation in their fields without waiting for help from the government.
<p>Mr. Shunji Segawa (Mid Term Review Member)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • During the interview he heard that a new Taskforce has been recently established under the MAF, MTCl and Secretary State of Cooperative concentrating on rice purchasing and promotion in TL. Output 4 and 5 activities are relevant to this Taskforce. In terms of implementing policies, participation of other ministries and higher-level discussion within the TL government is expected to be needed.
Closing	
<p>Mr. Nagashi Masafumi (The Chief Representative of the JICA office)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • He said that although the Project has started for two and a half years, there are still many challenges in achieving the goal. More commitment from government of Timor-Leste is needed particularly on the budget allocation to support the Project activities. • He mentioned that although the Timor-Leste government has a strong policy to promote local rice, lack of budget can undermine their efforts. • He said that after two and a half years of the Project, the implementation structure of the Projects should be shifted from Project -driven to government -driven. • He mentioned that some good impacts were already observed such as expansion of domestic rice market and implementation of the normalization of cropping calendar.

Minutes of the Sixth JCC Meeting
Prepared by Fernando Fontes on March 27, 2019

	<ul style="list-style-type: none">• He believed that if the government commits to promote local rice and buy greater amount of rice from farmers, the Project will definitely achieve its goal in increasing income of the farmers' households.
Ms. Maria Odete do Céu Guterres (Director General for Agriculture, MAP)	She officially closed the sixth JCC and urged the relevant stakeholders, the MAF, CLN and local authorities to work closely with the Project for the remaining two and a half years so that the final result of the Project will be successfully achieved.

End

Minutas kona-ba Enkontru JCC ba dala neen

Sesaun Diskursu no Liafuan Benvindu	
Naran husi Oradór	Konteúdu husi Diskursu
<p>Sra. Maria Odete do Céu Guterres (Diretór Jeraál Agrikultura, MAP)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Lori Ministru nia naran Sra. Diretora Maria fó benvindu ba partisipante JCC • Nia fó agradese ba ékipa Avaliasaun Interkalar tanba realiza ona avaliasaun no fornese rekomendasaun ne'ebé útil ba Projetu no MAP atu konsidera ba susesu implementasaun Projetu nune'e mós ba susesu promosaun foos rai iha Timor-Leste • Nia husu ba parte relevante ne'ebé promove foos rai atu uza vantajen positivu sira ne'ebé deskobre ona iha relatoriu no solusiona fatór negativu sira iha futuru hodi asegura rezultadu final ba Projetu • Nia dehan katak Projetu foos rai ne'e apar duni ho MAP nia planu estratejia 2014 - 2020 kona-ba auto suficiensia ba alimentar tanba ne'e nia husu ba parte relevante sira atu serbisu hamutuk ho Projetu iha tinan rua ho balu mai ne'e hodi alkansa objetivu. • Nia agradese ba autoridade lokál tanba serbisu besik ho Projetu no kontinua husu sira nia apoiu atu serbisu besik liutan ho Projetu to'o Projetu ramata. • Nia mós husu ba Agro-Komersiu atu haluan tan merkadu foos rai no kontinua kopera ho ACELDA no CAAKUB atu promove diak liutan foos rai ba merkadu. • Finalmente nia husu ba partisipante JCC atu fó sira nia opiniaun nakloke kona-ba Avaliasaun Interkalar hodinune'e implementasaun Projetu tuir mai sei halao ho susesu.
<p>Sr. Kenichi Shishido (Diretór Jerál Dezenvolvimentu Rural, Kuarte! Jerál JICA)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Sr. Kenichi expresa ninia haksolok ba partisipante JCC sira tanba partisipa iha eventu ne'e no esplika importansia husi enkontru ne'e ba Projetu nia implementasaun • Nia kontente atu partisipa iha seremonia kolleta hare iha Buluto no haksolok ho produtividade husi agrikultór sira iha área ne'ebá ne'ebé konsege produz 5.8 tonelada/hektar, ida ne'e hatudu sinal diak ba produsaun foos rai. • Antes JCC nia halo diskusaun diak ho ekipa Avaliasaun Interkalar no CLN hodi diskute kona-ba projetu nia progresu átual no medida sira ne'ebé presiza foti iha futuru ba promosaun foos rai. • Nia husu ba parte intersada sira atu serbisu sériu liu tan ho Projetu tanba nia fiar katak liuhusi kolaborasaun ho sira Projetu sei alkansa duni nia rezultadu final iha tinan rua ho balu mai ne'e.

Minutas kona-ba Enkontru JCC ba dala neen

<p>Sr. Jacinto Paizo, (Diretór Ezekutivu CLN)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Sr. Diretór Jacinto fó agradese ba ekipa Avaliasaun Interkalar tanba fó rekomendasaun ne'ebé útil ba protesausn foos rai. Maibe nia hatete katak depende ba nivél politiku atu foti desizaun. • Nia esplika katak pápel husi MAP mak atu asegura produsaun hodinune'e bainhira CLN sosa fornimentu hare tenke adekuaudu duni. Maibe, nia hatete katak polika ne'ebé la klaru kona-ba produktu importa bele fó ameasa ba nasaun nia ekonomia. • Nia esplika katak husi tinan 2018 CLN hapara ona sosa foos importa nu'udar esforsu ida atu hasa'e konsumu foos lokal. Ba tinan 2019 CLN aloka ona \$400,000 hodi sosa foos rai ne'ebé produz husi agrikultór sira liu-liu iha área Projetu sira. • Nia iha espetativa bo'ot katak Taskforce foun lidera husi CLN ne'ebé kompostu husi MAP, MTCI no Sekretariadu Estadu Koperativa ne'e sei serbisu hamutuk hodi estabelese sistema sosa hare ne'ebé efetivu no hadiak kualidade.
<p>Sesaun Aprezentasaun</p>	
<p>Sra. Sawa Hasegawa (Membru Avaliasaun Interkalar)</p>	<p>Sra. Hasegawa Aprezenta resultadu husi avaliasaun Interkalar no rekomendasaun sira ne'ebé presiza konsidera husi Projetu, MAP no CLN ba implementasaun Projetu tinan rua fulan neen tuirmai ne'e:</p> <p>Rekomendasaun sira ne'ebé mak presiza konsidera:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Implementasaun Politika Sujere ba governu Timor-Leste atu implementa polika kona-ba protesausn foos rai. • Hakbesik ba Agrikultór sira Rekomenda ba Projetu atu konsidera implementa ninia atividade inkorpora ho extensionista sira nia métodu hodi asegura sustentabilidade ba Projetu. • Merkadu Rekomenda ba Projetu atu laos deit hasa'e produsaun maibe mos hadiak merkadu foos Premium (Foos kualidade ho folin karun) iha Timor-Leste • Estrutura Implementasaun Projetu Rekomenda ba governu lokál iha área Projetu atu sai nu'udar parte implementadór. • Jestaun Projetu Versaun PDM 1.0 átual tenke reeve bazeia ba mudansa iha Projetu no rekomenda ba Projetu atu uza PDM ne'ebé reeve ona.
<p>Sr. Shunichi Nakada (Membru avaliasaun Interkalar)</p>	<p>Sr. Nakada apresenta kona-ba impaktu husi politika kona-ba auto suficiensia no medida sira ne'ebé tenke konsidera husi governu Timor-Leste atu proteze foos rai, ezemplu liuhusi introduz tarefa no kuota nune'e mós governu tenke sosa hare lokal barak liutan.</p>

Minutas kona-ba Enkontru JCC ba dala neen

	Relasiona kompetisaun ho foos importa, foos premium tenke hahú dezenvolve.
Sr. Shunji Segawa (Membru Avaliasaun Interkalar)	Sr. Segawa esplika kona-ba revisaun ba PDM versaun 2.0 ne'ebé propoin. Setór privadu sei sosa hare lokál hamutuk 500 toneladas Por volta 3000 toneladas sei sosa husi CLN.
Sesaun husu no hatan	
Sr. Fernando Egidio Amaral, (Diretór Nasionál Agro Komersiu)	<ul style="list-style-type: none"> • Sr. Diretór Fernando hatete katak sein dadus ne'ebé komprensivu kona-ba konsumidór no agrikultór sira, imposível atu implementa politika. Tanba ne'e, nia husu ba MAP atu kria formatu ida hodi identifika estatutu rai; número área kultivadu, número husi área ne'ebé abandona no nain ba rai. • Nia Sujere katak dadus kona-ba número husi foos importa mós importante atu rekolla.
Sr. Antonio Augusto Guterres (Prezidente Munisipiu Baucau)	<ul style="list-style-type: none"> • Agradese ba ekipa Avaliasaun Interkalar tanba fahe ona rezultadu kona-ba Projetu nia Progresu. • Sr. Prezidente Antonio hatete katak dadus importante tebes atu kria planu ne'ebé diak hodi proteze foos rai. • Nia sujere katak MAP tenke halo formatu ida hodi bele identifika número husi grupu agrikultór hirak mak estabesele ona no tratór hira mak disponível iha ninia munisipiu hodinune'e iha futuru MAP bele hala'o sira nia planu ho efetivu liutan.
Sr. Francisco (Pessoál husi MAF ne'ebé destaka ba Projetu, Output I)	<ul style="list-style-type: none"> • Sr. Francisco hatete katak auto-sufisiensia ne'e bele atinje bainhira iha investimentu bo'ot iha agrikultura liu-liu laos deit iha produsaun maibe mós rekursu umanu. • Nia rekomenda atu implementa estudu komparativu ba agrikultór sira hodi hasa'e sira nia koñesementu kona-ba tekniku kultivasaun tantu iha rai laran no rai liur.
Sr. Fernando Soares (Diretór Rejional MA, Rejiaun I)	<ul style="list-style-type: none"> • Sr. Diretór Fernando husu ba MAP atu serbisu ativu liutan ho Projetu tanba Projetu nia rezultadu final ne'e signifikante tebes ba susesu produsaun foos rai iha TL ba futuru. • Nia esplika katak muda agrikultór nia mentalidade presiza esforsu no aprosimasaun ne'ebé kontinua tanba ne'e, nia husu ba MAP atu labele para no sai nu'udar autor prinsipál.
Sr. Fernando D. A. S. Junior (Administradór Munisipiu Manatuto)	<ul style="list-style-type: none"> • Sr. Administradór Fernando husu ba autoridade lokál no MAP atu serbisu maka'as liutan hodi konvense agrikultór sira seluk ne'ebé seidak tuir programa kuda sedu atu bele hahú kuda sedu ba sira nia benefisiu rasik. • Nia observa katak agrikultór sira iha área Projetu hakarak duni faan hare ba sosa-nain sira tanba ne'e nia husu ba

Minutas kona-ba Enkontru JCC ba dala neen

	<p>ACELDA, CAAKUB no CLN atu kontinua sosa hare husi agrikultór sira.</p>
<p>Sr. Amaro Ximenes (Diretór Nasionál ba DNAHE, MAP)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Sr. Diretór Amaro husu ba projetu atu foti asaun hodi rezolve problema sira ne'ebé identifika ona liuhusi Dialogu Agrikultór, ezemplu; kustu produsaun ne'ebé aas, rai nia bokur laiha no fatór sira seluk ne'ebé prevene agrikultór sira hasa'e produsaun. • Ninia Diresaun mós hein hela atu serbisu ho Taskforce foun hodi involve ekstensaun sira iha terenu.
<p>Sr. Zeferino Soares dos Santos (Prezidente Munisípiu Bobonaro)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Sr. Prezidente Zeferino husu ba Projetu no MAP atu serbisu besik liutan ho agrikultór sira ne'ebé la tuir Projetu nia programa no dezenvolve estratejia óinsa mak agrikultór sira ne'e bele halo tuir projetu nia atividade. • Nia husu ba CLN atu hahú promove foos rai liuhusi programa merenda eskola no liuhusi ligasaun seluk ezemplu fó subsidiu foos ba funcionáriu sira hodi nune'e iha futuru CLN bele kontinua sosa hare husi agrikultór sira.
<p>Sr. Alipio Moniz (Administradór do Postu Maliana)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Sr. Administradór Alipio husu ba ekstensionista sira iha área Projetu atu serbisu hamutuk ho Projetu nu'udar ekipa ida bainhira implementa demo plot hodinune'e agrikultór tarjetu sira bele hetan diresaun ne'ebé klaru. • Nia sujere katak estudu komparativu ruma ne'ebé atu organiza husi Projetu iha futuru tenke envolve mós autoridade lokál.
<p>Sr. Nagaishi Masafumi (Xefi Representante JICA Timor-Leste)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Sr. Nagaishi husu ba Projetu atu esplika kona-ba Taskforce foun nia pápel no Projetu nia avidade ida ne'ebé mak relevante ho Taskforce ne'e, inklui Ministériu saida mak iha pápel atu diskute kona-ba politika tarefa no quota.
<p>Sesaun hatan (Resposta)</p>	
<p>Sr. Shunichi Nakada (Membro Avaliasaun Interkalar)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Sr. Nakada esplika katak rekolla dadus iha terenu ne'e importante tebes atu halo politika tanba aplikasaun politika ne'e iha impaktu ne'ebé maka'as ba konsumidór, agrikultór no produtór sira tanba ne'e, antes aplika politika ida governu tenke iha komprensaun klaru kona-ba politika ne'e nia impaktu. • Nia mós hatete katak aprende estudu kazu no esperensia husi nasaun seluk ne'ebé iha politika hanesan ho TL mós importante antes implementa politika ida.
<p>Sr. Noriaki Niwa (Xefi Asesór ba Projetu)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Sr. Niwa esplika katak liuhusi dialogu agrikulór ne'ebé realiza ba uma-kain agrikultór hamutuk 1500 Projetu rekolla informasaun nesesariu kona-ba kultivasaun hare ne'ebé bele fahe ho MAP. Maibe atu hetan dadus klaru liu bele rekolla husi Sensus Agrikola. • Nia esplika liutan katak maneira átual ne'ebé inisia husi Projetu kona-ba normalizasaun kaléndariu kultivasaun

Minutas kona-ba Enkontru JCC ba dala neen

	<p>ne'e nu'udar maneira ne'ebé pratiku no efetivu atu ajuda agrikultór sira hasa'e produsan hare.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sr. Niwa subliña katak presiza partisipasun husi parte intersada tomak atu rezolve situtasaun grave kona-ba produsaun hare iha Timor Leste. Rezultadu konkreta tenke hatudu liuhusi Projetu nia atividade iha Maliana I no Buluto atu restora fali agrikultór sira nia motivaun iha produsaun hare. • Tuir Sr. Niwa enkuadramentu politika kona-ba foos importa presiza formula, matenek no lisaun aprendizajen husi Projetu tenke fahe ba munisípiu seluk iha TL.
Sra. Maria Odete do Céu Guterres (Diretora General Agrikultura, MAP)	<ul style="list-style-type: none"> • Sra. Diretora Maria subliña kona-ba importansia husi dadus atu halo politika ne'ebé diak. • Nia esplika katak iha futuru MAF mós sei planu atu aloka orsamentu hodi apoiu Projetu nia atividade. • Nia hatete katak estudu komparasaun ne'e nesésáriu atu ajuda agrikultór sira fahe esperensia no aprende ba malu. • Nia reafirma katak MAP iha komprimisiu atu ajuda agrikultór sira maibe husu ba agrikultór sira atu labele depende permanente ba governu. Nia louva agrikultór sira ne'ebe foin lalais ne'e dezaraska rasik osan ba mina no fila sira nia natar sein hein tulun husi governu.
Sr. Shunji Segawa (Membru Avalaisaun interkalar)	<ul style="list-style-type: none"> • Durante entrevista Sr. Segawa rona katak Taskforce foun ida foin lalais ne'e estabelese iha MAP, MTCI no Sekeretariu Estadu Koperativa nia okos ne'ebé mak sei tama konta kona-ba sosa no promosaun foos rai iha TL. Karik konfirmadu duni, Projetu nia atividade Output 4 no 5 relevante ho Taskforce ne'e.
Enserramentu	
Sr. Nagasihi Masafumi (Xefi Representante JICA Timor-Leste)	<ul style="list-style-type: none"> • Sr. Nagaishi hatete katak maske Projetu hahú ona tinan rua ho balun sei iha dezafiu barak mak hasoru atu alkansa objetivu. Presiza komprimisiu maka'as liutan husi governu Timor-Leste liu-liu iha alokasaun orsamentu atu apoiu Projetu nia atividade. • Nia hatete katak maske governu Timor-Leste iha politika ne'ebé forte atu promove foos rai maibe menus orsamentu bele prejudika sira nia esforsu. • Nia hatete katak depois projetu ne'e implementa tinan rua ho balun, implementasaun estrutura husi Projetu ne'e tenke muda husi Projetu JICA ba Projetu governu nian. • Nia hatete katak impaktu positivu bele ona observa ezemplu; expansaun merkadu foos no normalizaun kalendáriu kultivasaun, Tanba ne'e nia fiar katak karik governu kompremitidu maka'as liutan atu promove foos

Minutas kona-ba Enkontru JCC ba dala neen

	raí no sosa hare barak liutan husi agrikultór sira maka Projetu sei atinje duni ninia objetivu final hasa'e rendimentu husi uma-kain agrikultór sira.
Sra. Maria Odete do Céu Guterres (Diretora Geral Agrikultura, MAP)	Ofisialmente taka JCC ba dala neen no husu ba parte intersada sira, MAP, CLN no autoridade lokál sira atu serbisu besik liutan ho Projetu iha tinan rua ho balun mai ne'e hodi nune'e rezultadu final husi Projetu bele atinje ho susesu.

Ramata.

「東ティモール民主共和国産米の生産強化による農家世帯所得向上プロジェクト中間レビュー調査」評価グリッド

1. プロジェクトの実績

項目	内容	指標等	必要なデータ	情報源/データ収集方法
上位目標	コメの生産向上による収入増加を通じて、プロジェクト対象地域の農家世帯の生計が向上する。	バウカウ県、マナツト県、ボボナロ県の農家世帯の平均年間所得が2021年～2026年の間に32%増加する。 (注：32%の増加のうち、コメ生産による収入増が18%増、他の収入源による増加が14%増により達成される)	⇒指標データの入手不可	
プロジェクト目標	コメのバリューチェーン(生産、製造・加工、流通、販売・消費)の改善を通じて、プロジェクト対象地域の農家世帯のコメ生産による収入が増加する。	ブルト及びマリアナ I 灌漑地区の農家世帯の平均年間収入が50%増加する。 (注：50%の増加のうち、コメ生産による収入増が36%増、他の収入源による増加が14%増により達成される)	- 2017年のブルト及びマリアナ I 灌漑地域における農家世帯(約1,500世帯)の平均年間収入	- プロジェクト報告書・関連資料レビュー
成果(アウトプット)	1. プロジェクト対象地域において、コメの栽培技術が向上する。 2. 灌漑施設の維持管理能力が強化される。	1-1. プロジェクト対象地域において、コメの生産量が80%増加する。 1-2. 改良稲作システム(IRCS)の研修参加者の80%が研修内容の80%を理解する。 2-1. 主要灌漑施設において、土砂堆積物を除くための共同作業の輪番制が構築され、水利組合(WUA)がプロジェクト対象地域において少なくとも1年継続して運営される。 2-2. 維持管理研修の参加者の80%が研修内容の80%を理解する。	- 2017年、2018年のブルト、マリアナ I 灌漑地域におけるコメ(もみ、精米)の年間生産量 - 2017年、2018年の対象地域における気候、灌漑取水量、作付面積、単収、投入資材等の補足情報 - 農家対話を通じた稲作に関する指導に対する農家の理解度・実践度 ⇒指標データの入手不可	- プロジェクト報告書・関連資料レビュー - 対象農家ヒアリング - 専門家ヒアリング - 対象農家ヒアリング
	3. コメのブランド化を通じて、国産米の流通・販売システムが構築される。	3-1. プロジェクトによりブランド化された国産米の精米3,000t(もみ5,000t)が、プロジェクト終了までに流通販売システムを通じてブルト、マリアナ I で販売される。 3-2. 農家組合マネジメント研修、マーケティング研修、精米・加工・梱包研修の各研修参加者の80%が研修内容の80%を理解する。	- 2017年、2018年のブルト、マリアナ I 灌漑地域における精米の年間販売量 ⇒指標データの入手不可	- プロジェクト報告書・関連資料レビュー - 対象農家ヒアリング - チャックアップ組合、アセルダ社ヒアリング

項目	内容	指標等	必要なデータ	情報源/データ収集方法
4.	政府のコメ買い取り・配布システムが改善される。	4-1. 家畜飼養の割合が50%以下に減少する。 4-2. コメの備蓄管理における5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）研修の参加者の80%が研修内容の80%を理解する。	⇒指標データの入手不可 - コメの備蓄管理における5S研修参加者の研修内容理解度	- NLCヒアリング
5.	MAF主導の下、本プロジェクトの活動が南部地域などの他県関係者に共有される。	5-1. プロジェクト活動に関する会合やワークショップが、東ティモールの南部地域の定期的開催に開催される。 5-2. プロジェクト活動に関する研修が、東ティモールの南部地域など他県関係者を対象に少なくとも11回行われる。	- 他県関係者へのワークショップの開催数、開催日時、開催場所、参加者の内訳・人数、内容（議事次第、マテリアル等） - 上記以外の他県関係者への広報手段 - ワorkshop開催におけるMAFの関与度	- プロジェクト報告書・関連資料レビュー
投入	東ティモール側投入	東ティモール側の投入計画 1. カウンターパート(C/P)配置 2. プロジェクト事務所 3. ローカルコスト負担 4. 必要資機材の導入・拡充	- 他県関係者への研修の開催数、開催日時、開催場所、参加者の内訳・人数、内容（議事次第、マテリアル等） - 研修開催におけるMAFの関与度 東ティモール側の現時点までの投入実績（計画外の投入も含む）	- プロジェクト報告書・関連資料レビュー
投入	日本側投入	日本側の投入計画 1. 専門家派遣：長期専門家（チーフアドバイザー、農産物流通・販売、業務調整）、短期専門家（コメ備蓄倉庫5S管理、灌漑施設維持管理/水利組合、稲作営農など） 2. 本邦・第三国研修 3. 機材供与（車両、トラクター、精米機、パッキング資機材、備蓄倉庫改修など） 4. 現地活動費	日本側の現時点までの投入実績（計画外の投入も含む）	- プロジェクト報告書・関連資料レビュー

2. 実施プロセス

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
活動の実施状況	各活動はそれぞれ計画どおりに実施されているか。	<ul style="list-style-type: none"> - 活動計画と活動実績との比較 - 追加・中止された活動の有無、その理由 	<ul style="list-style-type: none"> - 活動計画表 (PO) - 活動実績 (計画外の活動も含む) 	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト報告書・関連資料レビュー
プロジェクトマネジメント体制	プロジェクトのマネジメント体制に問題はないか。	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトの実施体制は、プロジェクトに効果的・効率的に運営するのに適切であるか。 - プロジェクトの運営管理状況に問題はないか。 	プロジェクトの実施体制及び運営管理状況における問題点	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト報告書・関連資料レビュー - 専門家ヒアリング - MAF、国家流通センター(NLC)、各対象県 MAF 県事務所ヒアリング
	プロジェクト全体のモニタリングは適切になされているか。	<ul style="list-style-type: none"> - 合同調整委員会 (JCC) の会合は定期的に行われ、プロジェクトの進捗や課題等が関係者間で共有されているか。 - その他、プロジェクトのモニタリングは適切に行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> - JCC 会合の開催実績 - プロジェクトのモニタリング状況 	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト報告書・関連資料レビュー - 専門家ヒアリング - MAF、NLC、各対象県 MAF 県事務所ヒアリング
	専門家と C/P 間のコミュニケーションは適切か。	<ul style="list-style-type: none"> - 専門家と C/P (MAF、NLC、バウカウ県、マナツト県、ボボナロ県の MAF 県事務所) 間のコミュニケーションにおける問題点の有無 	専門家と C/P 間のコミュニケーションの問題	<ul style="list-style-type: none"> - 専門家ヒアリング - MAF、NLC、各対象県 MAF 県事務所ヒアリング
相手国のプロジェクトへの関与	C/P のプロジェクトへの参加度は高いか。	<ul style="list-style-type: none"> - C/P はプロジェクトの目標・進捗状況・課題等を理解しているか。 - C/P は主体的にプロジェクト活動に関与しているか。 	C/P のプロジェクトに対する理解度、プロジェクト活動への参加度合い、プロジェクトにおける主体性	<ul style="list-style-type: none"> - 専門家ヒアリング - MAF、NLC、各対象県 MAF 県事務所ヒアリング
	適切な C/P が配置されているか。	<ul style="list-style-type: none"> - MAF、NLC、各対象県の MAF 県事務所において、適切な人員が C/P として配置されているか。 - 他にプロジェクトへの協力・連携が必要とされる機関・部署・人員はあるか。 	関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> - 専門家ヒアリング - MAF、NLC、各対象県 MAF 県事務所ヒアリング
実施上の問題点	プロジェクトの実施過程で生じている問題はあるか。その原因は何か。	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト実施上の問題点の有無 - 問題に対してどのような対策がとられた (or とられている) か。 	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト実施上の問題及びその原因 - 問題に対してとられた (or とられている) 対策例 	<ul style="list-style-type: none"> - 専門家ヒアリング - MAF、NLC、各対象県 MAF 県事務所ヒアリング - 対象農家ヒアリング

3. 評価5項目

妥当性

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
必要性	プロジェクトは現地のニーズに合致しているか。	東ティモールにおいて国産米の生産強化に係るニーズは高いか。	国産米の生産強化に関するニーズ	<ul style="list-style-type: none"> - 詳細計画策定調査報告書レビュー - MAF、NLC、各対象県 MAF 県事務所ヒアリング - 対象農家ヒアリング
	プロジェクトは相手国の開発政策に合致しているか。	プロジェクト開始以後、東ティモールの農業開発・稲作振興に係る政策に変更はないか。	<ul style="list-style-type: none"> - 東ティモール戦略的開発計画 (Timor-Leste Strategic Development Plan 2011-2030) (2011年～2030年) - MAF 戦略計画 (MAF Strategic Plan 2014-2020) (2014年～2020年) 	<ul style="list-style-type: none"> - 詳細計画策定調査報告書レビュー - 東ティモール各政策レビュー
	プロジェクトは日本の援助政策に合致しているか。	プロジェクト開始以後、日本の対東ティモール開発協力方針に変更はないか。	<ul style="list-style-type: none"> - 対東ティモール民主共和国 国別開発協力方針 (2017年5月策定) - 対東ティモール民主共和国 事業展開計画 (2018年4月策定) 	<ul style="list-style-type: none"> - 詳細計画策定調査報告書レビュー - 日本への対東ティモール開発協力方針レビュー
手段としての適切性	プロジェクトは相手国の対象分野・セクターの開発課題に対して効果をあげる戦略として適切か。	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトのアプローチ・デザインは、プロジェクト目標や上位目標を達成するための手段・方法として適切であるか。 - プロジェクト計画表 (PDM) の論理性や指標等の矛盾・問題点の有無 	<ul style="list-style-type: none"> - 関係者の意見 - PDM Version 1.0 (2017年11月作成) 	<ul style="list-style-type: none"> - 専門家ヒアリング - MAF ヒアリング
	ターゲット地域及びグループの選定は適切か。	プロジェクトのターゲット地域(ブルト灌漑地区、マリアナI灌漑地区)の選定は適切か。	関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> - 専門家ヒアリング - MAF ヒアリング
	ターゲット地域及びグループ以外への波及性はあるか。	プロジェクトにより導入された各技術は、ターゲット地域以外の農家に普及する設計になっているか。	関係者の意見	関係者の意見

有効性

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
プロジェクト目標の達成見込み	プロジェクト目標は終了までに達成される見込みか。	プロジェクト目標の指標の達成度	プロジェクト目標の指標の結果	

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
因果関係	成果はプロジェクト目標を達成するために十分か。	プロジェクト目標の達成は、アウトプットの結果もたらされているか。 アウトプット以外のプロジェクト目標達成に向けての貢献・促進要因の有無	アウトプットの達成度 アウトプット以外の貢献・促進要因	プロジェクト報告書・関連資料レビュー
	プロジェクト目標の達成を阻害する要因はあるか。	プロジェクト目標達成に向けての阻害要因の有無 阻害要因に対して何か対策がとられているか。	阻害要因 阻害要因に対してとられた対策例	専門家ヒアリング MAF、NLC、各対象県 MAF 県事務所ヒアリング 対象農家ヒアリング
	成果からプロジェクト目標に至るまでの外部条件による影響はあるか。	以下の外部条件の影響の有無 大規模な自然災害（早魃、洪水等）が発生しない。	影響している外部条件	専門家ヒアリング MAF、NLC、各対象県 MAF 県事務所ヒアリング 対象農家ヒアリング

効率性

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
成果の達成度	成果の達成状況は適切か。	各成果の指標の達成度	各成果の指標結果	
因果関係	投入・活動は成果を産出するのに十分か。	成果の達成は、活動の実施によりもたらされているか。 投入・活動に過不足はないか。	投入実績 活動実績	上記「1. プロジェクトの実績」の「投入」と「2. 実施プロセス」の「活動の実施状況」と同じ
	成果の達成を阻害する要因はあるか。	成果達成に向けての阻害要因の有無 阻害要因に対して何か対策がとられているか。 上記の阻害要因のうち、外部条件として設定すべき要因の有無	阻害要因 阻害要因に対してとられた対策例	専門家ヒアリング MAF、NLC、各対象県 MAF 県事務所ヒアリング 対象農家ヒアリング
相手国側投入の適切さ	C/P は適切に配置されているか。	C/P の人数・配置状況・能力における問題点の有無	C/P の配置実績	上記「2. 実施プロセス」の「相手国のプロジェクトへの関与」と同じ
	相手国側のローカルコスト負担は適性規模か。	東ティモール側のローカルコスト負担における問題点の有無	東ティモール側のローカルコスト実績	プロジェクト報告書・関連資料レビュー
日本側投入の適切さ	専門家は適切に派遣されているか。	専門家の配置人数・専門分野・配置期間における問題点の有無	専門家の派遣実績	専門家ヒアリング
	C/P 研修は適切に行われているか。	本邦研修の参加者・研修内容・研修時期・研修期間における問題点の有無	本邦研修実績	プロジェクト報告書・関連資料レビュー

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
	機材は適切に供与されているか。	供与機材の種類・量・設置時期における問題の有無	供与機材リスト	- プロジェクト報告書・関連資料レビュー
	プロジェクトのローカルコスト負担は適性規模か。	日本側のローカルコスト負担における問題の有無	日本側ローカルコスト実績	- プロジェクト報告書・関連資料レビュー

インパクト

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
達成見込み	上位目標がプロジェクト終了後に達成される見込みはあるか。	上位目標の指標の達成度	上位目標の指標結果	
	因果関係	上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか。 上位目標の達成を阻害する要因はあるか。	関係者の意見 阻害要因	- プロジェクト報告書・関連資料レビュー - プロジェクト報告書・関連資料レビュー
波及効果	プロジェクトの実施により相手国の政策・制度に対して影響を及ぼしているか。	プロジェクトによる東ティモールの国産米振興に係る方針・制度の有無	新たに制定・改定された国産米振興に係る方針・制度等	- MAF、NLC ヒアリング
	プロジェクトの成果・目標以外に、正負の間接的効果が生じているか。	正負の間接的効果の有無	正負の間接的効果の事例	- 専門家ヒアリング - MAF、NLC、各対象県 MAF 県事務所ヒアリング - 対象農家ヒアリング

持続性

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
政策・制度面	プロジェクトに対する相手国政府の政策・制度的支援は今後も継続される見込みか。	東ティモール政府による国産米振興に係る政策はプロジェクト終了後も継続される見込みか。	東ティモール政府の国産米振興に係る政策・方針	- MAF、NLC ヒアリング
	プロジェクト効果の他地域への普及を支援する取り組みは計画されているか。	プロジェクト対象地域以外の農家に普及させる計画はあるか。	MAF、NLC の今後の国産米振興に関する実施計画	- MAF、NLC、各対象県 MAF 県事務所ヒアリング
組織・体制面	実施機関において、プロジェクトの効果を持続させるための体制	MAF、NLC、各対象県の MAF 県事務所において、プロジェクトにより導入・強化さ	MAF、NLC、各対象県 MAF 県事務所の運営体制	- 専門家ヒアリング - MAF、NLC、各対象県 MAF

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
	は整備・維持される見込みか。	<p>れた技術を継続的に実施するための体制は構築されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> - MAF、NLC、各対象県のMAF 県事務所はプロジェクト実施予算を確保できる見込みか。 - 予算が確保できない場合、他の資金源の見込みはあるか。 	MAF、NLC、各対象県MAF 県事務所の予算計画	<p>県事務所ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> - MAF、NLC、各対象県 MAF 県事務所ヒアリング
財務面	プロジェクト関係者はプロジェクトの効果を継続させるための技術を持しているか。	<p>各農家は成果 1 の比較圃活動で指導された稲作技術を実践する技術を身に付けているか。</p> <p>ベボラ備蓄倉庫、マリアナ備蓄倉庫の管理者は 5S・カイゼン研修による運営管理を身に付けているか。</p>	関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> - 専門家ヒアリング - 対象農家ヒアリング
技術面	プロジェクト関係者はプロジェクトの持続性を確保するうえで考慮すべき点はあるか。	<ul style="list-style-type: none"> - 政府の国産米買い取り量は増加する見込みか。 - 東ティモール政府は今後の国産米保護対策として、積極的な政策（輸入米量の制限、関税率の引き上げ等）を講じる意向か。 	関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> - 専門家ヒアリング - NLC ヒアリング
その他	その後、プロジェクトの持続性を確保するうえで考慮すべき点はあるか。	<p>今後、チャクブ組合、アセルダ社以外の販売ルートを獲得できる見込みか。</p>	東ティモール政府の今後の国産米保護政策・方針	<ul style="list-style-type: none"> - MAF、NLC ヒアリング
			関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> - 専門家ヒアリング - 対象農家ヒアリング